

第 2 分 科 会 (No. 5)

1 日 時 令和 7 年 9 月 2 4 日 (水)

午前 9 時 5 9 分 開会

午前 1 1 時 5 9 分 休憩

午後 0 時 5 9 分 再開

午後 3 時 0 1 分 休憩

午後 3 時 1 5 分 再開

午後 4 時 4 5 分 閉会

2 場 所 第 1 委員会室

3 出席委員 (19 人)

主 査	宮 崎 吉 輝	副 主 査	宇 土 浩一郎
委 員	中 村 義 雄	委 員	吉 田 幸 正
委 員	西 田 一	委 員	金 子 秀 一
委 員	立 山 幸 子	委 員	小 松 みさ子
委 員	松 岡 裕一郎	委 員	岡 本 義 之
委 員	森 本 由 美	委 員	中 村じゅん子
委 員	山 田 大 輔	委 員	伊 藤 淳 一
委 員	高 橋 都	委 員	本 田 一 郎
委 員	柳 井 誠	委 員	小 宮 良 彦
委 員	有 田 絵 里		
(委 員 長	木 畑 広 宣	副 委 員 長	小 宮 けい子)

4 欠席委員 (0 人)

5 出席説明員

都市ブランド創造局長	小笠原 圭 子	にぎわい担当理事	森 川 洋 一
総務文化部長	小 田 聡	総 務 課 長	柳 井 礼 道
文化企画課長	楠 本 祐 子	文化芸術担当課長	荒 牧 かな子
観光にぎわい部長	井 上 美 紀	観 光 課 長	大 浦 太九馬
インバウンド課長	小 島 邦 裕	すしの都課長 (兼務)	大 浦 太九馬
MICE・メディア芸術課長	石 川 裕 之	メディア芸術担当課長	藤 田 年 男

門司港レトロ課長	彌 榮 真 里	スポーツ部長	山 根 英 明
スポーツ振興課長	森 本 康 成	スポーツ施設担当課長	川 合 浩 治
スポーツコミッション担当課長	三 輪 真 也	スポーツイベント担当課長	遠 近 泰 史
アーバンスポーツ担当課長	大 下 義 邦	美術館普及課長	三 宅 智 美
自然史・歴史博物館普及課長	江 藤 博 明	科学館普及課長	大 谷 法 之
松本清張記念館事務局長	守 口 淳	漫画ミュージアム事務局長	小 倉 敦 子
外 関係職員			

6 事務局職員

委員会担当係長 廣 門 実知江 書 記 嶋 田 裕 文

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	議案第86号 令和6年度北九州市一般会計決算についてのうち所管分	議案の審査を行った。
2	議案第96号 令和6年度北九州市土地取得特別会計決算についてのうち所管分	

8 会議の経過

○主査（宮崎吉輝君）開会します。

本日は、都市ブランド創造局関係議案の審査を行います。

議案第86号のうち所管分及び96号のうち所管分の以上2件を一括して議題とします。

審査の方法は、一括説明、一括質疑とします。当局の説明は、できるだけ要点を簡潔、明瞭にお願いします。なお、議案説明は着席のままで受けます。

それでは、説明を求めます。都市ブランド創造局長。

○都市ブランド創造局長 皆様おはようございます。

委員の皆様には、日頃より都市ブランド創造局の事業に対しまして御理解、御協力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

本日、御審議いただきます都市ブランド創造局関係議案、令和6年度決算議案2件でございます。

昨年度は都市ブランド創造局が組織されまして、北九州市の持つ多彩な魅力や強みを生かして、文化芸術、観光、スポーツ施策の一体的な推進に取り組んでまいりました。

決算額につきましては、一般会計、特別会計合わせて歳入総額約33億円、歳出総額約103億円

となっております。

それでは、関係議案の詳細につきまして、総務文化部長から御説明させていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○主査（宮崎吉輝君） 総務文化部長。

○総務文化部長 それでは、議案第86号、令和6年度北九州市一般会計決算について及び議案第96号、令和6年度北九州市土地取得特別会計決算についてのうち、都市ブランド創造局所管分につきまして、タブレットの決算特別委員会資料により、主な項目について御説明をさせていただきます。

なお、説明に当たって、金額は万円単位とさせていただきます。

2ページを御覧ください。

令和6年度決算総括表でございます。

まず、一般会計ですが、歳入総額は、上の表の一番下、合計欄のとおり、予算現額47億4,682万円に対し収入済額31億9,019万円で、比較して15億5,663万円の減となっております。

次に、歳出総額は、下の表の一番下、合計欄のとおり、予算現額115億5,093万円に対し支出済額101億3,833万円、翌年度繰越額5億6,535万円で、不用額8億4,724万円となっております。

3ページを御覧ください。

次に、特別会計です。

都市ブランド創造局所管の特別会計は土地取得特別会計で、歳入総額は、予算現額1億3,352万円に対し収入済額1億2,018万円で、比較して1,334万円の減となっております。

歳出総額は、予算現額1億3,352万円に対し支出済額1億2,018万円で、不用額1,334万円となっております。

4ページを御覧ください。

次に、令和6年度一般会計決算の概要でございます。

まず、歳入です。

表の一番左の欄に令和6年度歳入歳出決算事項別明細書の該当ページを記載しております。なお、これは歳出についても同様でございます。

それでは、主な項目の収入済額について御説明いたします。

まず、歳入内訳の1番目、17款1項1目総務使用料は7億3,072万円で、文化施設やスポーツ施設の使用料等です。

次に、17款1項3目子ども家庭使用料は6,770万円で、科学館の使用料などです。

次に、3つ下、18款2項1目総務費国庫補助金は3億5,636万円で、主な収入はP C B廃棄物対策推進費国庫補助金で、これはスポーツ施設の整備に対する国庫補助金です。

次に、18款2項7目産業経済費国庫補助金は6,462万円で、主な収入はデジタル田園都市国家構想交付金で、これは西日本・九州ゴールデンルート構築事業等に対する国庫補助金です。

次に、3つ下、20款1項1目財産貸付収入は4,930万円で、西日本総合展示場本館の駐車場等の貸付収入です。

次に、3つ下、20款1項6目施設命名権収入は4,102万円で、ミクニワールドスタジアム北九州等の命名権収入です。

次に、21款1項1目総務費寄附金は2,629万円で、文化行事等への寄附金です。

5ページを御覧ください。

上から3番目、22款2項16目SDGs未来基金繰入金は1億4,980万円で、これは国際スポーツ大会等開催事業に対する基金繰入金です。

次に、4つ下、24款6項4目雑入は1億4,874万円で、文化施設の図録販売収入等です。

次に、25款1項1目総務債13億円及び25款1項6目産業経済債2億500万円は、スポーツ施設や観光施設等の整備に対する市債です。

6ページを御覧ください。

次に、歳出です。

主な項目の支出済額について御説明いたします。

まず、歳出内訳の1番目、2款3項1目企画振興総務費は2億2,836万円で、世界遺産の改修等に要した経費です。

次に、2款3項4目文化振興費は34億138万円で、芸術文化の振興や芸術文化施設の整備、維持管理等に要した経費です。なお、繰越額5億2,253万円は、門司港地域複合公共施設整備事業や埋蔵文化財センター移転事業等について、令和7年度に繰り越したものです。

次に、2款3項5目スポーツ振興費は31億3,957万円で、大規模国際スポーツ大会等の誘致・開催やスポーツ施設の整備、維持管理等に要した経費です。なお、繰越額2,861万円は、スポーツ施設維持改修事業について、令和7年度に繰り越したものです。

次に、2款3項6目美術館費は3億7,153万円で、美術館における企画展の開催や施設の管理運営等に要した経費です。

次に、2款3項7目博物館費は3億7,634万円で、博物館における企画展の開催や施設の維持管理等に要した経費です。

次に、3つ下、4款2項4目青少年費は4億9,391万円で、科学館の運営等に要した経費です。

次に、8款2項1目商工業振興費は4億1,039万円で、北九州国際展示場の管理運営やTGC北九州2024の開催等に要した経費です。

次に、8款3項1目観光費は16億7,970万円で、門司港レトロリニューアル事業や観光施設の整備、維持管理等に要した経費です。なお、繰越額1,420万円は、歴史的建造物耐震改修事業について、令和7年度に繰り越したものです。

7ページを御覧ください。

次に、令和6年度土地取得特別会計の決算概要でございます。

特別会計につきましても、一般会計と同様に、収入済額、支出済額の主な項目について御説明いたします。

まず、歳入です。

上の表、歳入内訳の1番目、1款2項1目不動産売払収入は1億1,945万円で、門司港地域複合公共施設整備事業の市民会館分について、土地取得特別会計で先行取得した土地購入費の元金分に係る一般会計への不動産売払収入です。

次に、歳出です。

下の表、歳出内訳の2番目、1款2項1目繰出金は1億2,018万円で、主に門司港地域複合公共施設整備事業の市民会館分について、土地取得特別会計で先行取得した土地購入費の元金及び利子分を公債償還特別会計に繰り出したものです。

以上が令和6年度決算の概要となります。

なお、8ページ以降に令和6年度の主な取組の成果について記載しております。

16ページを御覧ください。

最後に、令和7年度指定管理者の評価結果について御説明いたします。

都市ブランド創造局所管分について、次回選定に向けた評価は九州鉄道記念館の1件でB評価、やや優れていると認められるとなっております。また、中間評価が3件で、そのうちB評価、やや優れていると認められるが北九州芸術劇場、響ホール及び北九州国際展示場・会議場の2件、C評価、適切であると認められるがミクニワールドスタジアム北九州の1件となっております。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしく御審議の上、御賛同賜りますようお願いいたします。

○主査（宮崎吉輝君） ありがとうございます。これより質疑に入ります。質疑は会派ごとに持ち時間の範囲内で議題に関する事項とし、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質疑はありませんか。吉田委員。

○委員（吉田幸正君） 短くやらせてください。あまりないんですけど、まず、わっしょい百万夏まつり、皆さんお疲れさまでした。大変すばらしい事業だったんじゃないかなと思っています。日にちがずれて、どういう問題があるのかなとか、いろいろ決算というかほかのことはこれから出てくると思うんですけども、一市民としてといいますか、正直涼しかったし、お会いする方、お会いする方、やっぱり涼しくていいですと喜ばれたなというふうな印象を持っています。また、最前線の現場に職員も入られて、町の人たちと一緒にやっている姿というのは感動というか、すばらしい事業だったと思います。また、引き続き我々もまちづくりとか、にぎわいづくりを頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いしますと感謝申し上げます。

稼ぐ観光データ活用基盤整備事業というのが1,600万円で積まれていまして、この町の観光資源をどういうふうに活用したらもっと稼げるかなという観点の事業だったと思います。いろんな視点があるんだと思いますけども、その視点の中に、スケボーパーク、到津の森、ギラヴァンツ、それから皿倉山のスライダー、滑り台というんですかね、それについてどういう協議があったかというのを教えてください。

それともう一つは、スポーツの振興に一生懸命だと思いますけども、この先の課題になると思いますけど、大谷球場が売却をされてしまって、市民が使っていた球場だと思いますが、これについてまずどういう御見解を求められるかというのを教えてください。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 観光課長。

○観光課長 まず、1点目、観光政策について稼ぐ観光の文脈から、スケボーパーク、到津の森、ギラヴァンツ、皿倉山という形で、どういう連携をしていたのかという御指摘がございました。

委員がおっしゃるとおり、稼ぐ観光を前提として、これまでではないところで、都市ブランド創造局ということで、文化、スポーツが一緒になったわけでございますので、アーバンスポーツとか、従来の集客施設からより一步踏み込んで、どういったことができるかというところは大事な視点だと認識しております。

スケートボード等につきましては、やはりスケボーパーク、今年世界大会もございますけれども、スケボーというわけではないんですけど、広くアーバンスポーツとかで視点を当てまして、やはり特化、とがった施設というところは観光資源としては重要だと思っておりますので、すいません、稼ぐ観光という事業の中で各施設をどういうふうにするかというところの踏み込みまではやっておりませんが、この視点は重視してまいりたいと思っております。

同じように、到津の森、ギラヴァンツにつきましても、データ上、観光客はかなり来ておりますので、観光消費額の拡大というところ、特にギラヴァンツにつきましても一定数、試合ごとにアウエーサポーターが来ておりますので、どういう視点を持てば、より地域にお金が落ちるかというところは検討してまいりたいと思っております。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 大谷球場のことでお答えいたします。

大谷球場は、日本製鉄から市が約20年ぐらい、長らく無償でお借りして、市民の方に利用していただいてきましたけれども、先般、議会にも条例を諮らせていただきましたけど、施設の老朽化等々、所有者と協議の上、契約満了ということでお返ししたという流れになっております。

その後の利用に関しましては、日本製鉄からはその後の活用については協議中ということでこれまでずっと伺ってきたわけですが、先般、正式に民民で譲渡がなされたということで、まずは球場という形での機能がそのまま当面は継続されるということが今明らかになっている

かと思しますので、まずはその辺については私たちはそういった球場機能が残ったということとは受け止めをしているところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 観光課長。

○観光課長 すいません、先ほどの答弁の一部補足をさせていただきます。

まず、稼ぐ観光データといいますのは、もともと観光動態調査であったり、クレジットカードの消費動向であったり、スマホの周遊データの分析、そういったものを今見える化して、K T A Sという我々のホームページにも掲載させて、どのような人流、観光客の動きがあるのかっていうのを見る見える化しているものでありますけども、その中で我々が大事だと思っているのは、ほかのスケボーであるとか、ギラヴァンツもそうですけども、昼もそうですし、夜も常に北九州市にお金が落ちるような、そういう稼ぐ視点というのが大事だと思っております。

皿倉山のロングスライダーの話も少しありましたけども、こちらは事故もありまして、少し今残念な状況も生じてはおりますが、こちらはもともと皿倉山リニューアル計画というものが平成28年5月に公表されております。その中で、山頂周辺の眺望や自然環境を生かした登山道の魅力づくりであるとか、駐車場不足の解消であるとか、こういったハード面の整備に加え、観光資源の活用という観点から、巡回バスや電動カーの貸出しなど、周辺に点在する資源の回遊性の向上などが議論されたとは聞いております。ただ、最終的にロングスライダーに関しましては、これは都市整備局で判断をして設置をしたものであります。話が散見しましたが、以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） 決算ですから、1,600万円のデータ活用基盤整備というのは、具体的にR E S A Sか何かだと思うんですけど、それをホームページに公開したというのが成果ですか、教えてください。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 おっしゃるとおり、データの基盤を整備して、K T A Sっていう形でホームページで公開しております。観光事業者等が活用できるよう、観光動態の調査結果であったり、人流データというものを公開しております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） R E S A Sは無料で公開されているんじゃないんですかね。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 こちら元のデータはR E S A Sを使っているわけではなくて、別の人流データを取るサービスから取っております、おでかけウォッチャーという名前のサービスでございます。

○主査（宮崎吉輝君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） 僕が聞いているのは国土交通省がやっているR E S A Sというのは、ど

ここにどれぐらいの人がいるかなというのを公表しているということがあるので、それを基に活用すれば1,600万円はかからなかったんじゃないかという質問です。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 委員のおっしゃるとおり、RE S A Sも人流というところを活用できますので、ただそのデータの取り方が違ったり、あと取れる内容、ある地点からどれだけ移ったかという、もう少し細かくメッシュ状で分析できますので、そちらで費用を要しているというところがございます。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） これ1,600万円も税金ですから、これをホームページに公開していますということで終わるとどうかなということがありますので、これをどう市民が経済活動、要するに稼ぐために活用できるかというところまでが当然セットだと思いますので、我々も協力する立場にありますからやりますけど、ここにこういうホームページが、データが公表されておりますし、これには多額の税金を投入させてもらっていますので、ぜひぜひ活用してくださいと、またいい活用のニュースが出てきたのであれば、それはやっぱり行政として情報収集して、それをまた発信していくということになるんだろうと思うんですね。ですから、観光というか、僕自身は観光地として北九州市は背景やってきていないということも思っていますので、市民の人たちがすごく楽しそうに暮らしているかということは観光地というか、そういう楽しい場所に行って幸福になるということもセットだと思っていますから、ホームページで公開していますというだけでは何かもったいないという気がしています。海外の人から見たら、こんなところがとてもすてきと映っているんですよということを市民の人に伝えることでも、ああ、外国の人ってこんなところ、そう言われてみたらちょっと格好いいなみたいなことまでがセットなんだろうと思いますので、ぜひ結果と結びつくまでやってほしいと思います。

それと、スライダーの件、これあまり僕としてはあれだと思うので、8年前に確かにリニューアル計画を拝見させていただきました。そのときのケーブル鉄道のそれを見ると、子供たちに楽しんでほしいとか、駐車場うんぬんとあって、まだインバウンドという言葉は入ってなくて、海外の人もしゃるので頑張りますというんですけど、8年たちまして、特に大きく変わったのは、海外からの方々、インバウンドという言葉が政府を挙げてやり始めた、もう一つは日本新三大夜景、北九州市は日本1位になったということで、そのことを踏まえて、8年前の計画をそちらがやりましたので、事故が起こったは関係なくて、何歳までしか駄目だ、あるいは8年前の計画をそのままやったというところにマーケティング課とか、あるいは観光課とかがいて、最善の策かというのは、市長部局が先頭になってやるべきなんだろうと僕は今思いましたので、これは引き続きやります。

それと、1つスポーツのところで、スポーツはいい試合をたくさん持てきたいと思うんですけども、ギラヴァンツ専用ではないと思いますが、ミクニスタジアムをもっと活用したいと

思ったときに、4日間しか市が専有というか、どういうんですかね、4日間は市が優先権があるというか、そういうことがあるんですけど、このことで1年前から4回しか予約ができないという環境下にあるんですよね。ラグビーの大学選手権なんかも数年前からみたいな話もあるんですが、4日に入るかどうかということばかりで我々苦勞するんですけど、そもそも4日を8日にはできないんでしょうか、質問です。

○主査（宮崎吉輝君）スポーツ振興課長。

○スポーツ振興課長 通常ギラヴァンツの試合をどうしても優先しているというところが確かにございます。これはＪリーグという子供たちにとっても市民にとっても夢の組織、リーグになっています。非常に大きなリーグでございます。その中で、ホームタウンという考え方の中で各チーム、Ｊリーグは60チームありますが、ホームタウンで地域を挙げてチームを支え、地域の中でスポーツを通じて町の活性化を図ろうという、こういうＪリーグの百年構想という理念に基づいて全国で運営しているという中では、ホームタウンのメインスタジアム、ここはできるだけ市民のそういう思い、Ｊリーグの思い、全国の思いの中では、我々もホームタウンを持った自治体としてはＪリーグの試合を優先せざるを得ないという、優先して応援しようという気持ちがあります。

という中で、確かに今委員がおっしゃられましたように、年間で今4試合程度と言われておりますが、Ｊリーグの日程を協議する前に、地元の自治体、そしてＪリーグのクラブが協議しまして、Ｊリーグの日程を調整するＪリーグ機構に、この日は日程についてＪリーグに配慮していただきたい、それがおおむね大体4日間と確かに指定を受けているところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君）吉田委員。

○委員（吉田幸正君）おおむね4日間というのは基本的に4日間ということだと思うんですけど、ほかの都市に聞きますと、4日間は確かにあるんですけど、ホーム・アウエーというか、この日は市がいろんなことをやりたいのがあるから、ホームじゃなくてアウエーでやってくださいと、このことを各チームで協議するという幅があると聞いていますが、そうすると市が4日しか駄目ですよ、4日イベントが決まってしまうたら、すごくいいイベントでも、ギラヴァンツの日程が年末から1月ぐらいに決まりますので、それが空いている日しかできませんよとなるんですよね。これはもう少し市として踏み込んで、市民活用というか、今スポーツはにぎわいの大きな柱にもなっていますし、あそこはフットボールスタジアムですから、ラグビーと大きなカテゴリーだと思いますので、そのことでできないというのは、もう一步踏み込んだ努力を、要望でいいです、しっかり活用できるようにＪリーグ側とも協議をして、当然ギラヴァンツ側も、例えばギラヴァンツが入っているとしても、その日は岡山に我々が行きますから、逆にしてくれませんかということができれば、一番人気のイベントができる可能性が増えてきていますんで、これは要望としておきます、そこはぜひいい協議をしてほしいと。よろしくお

願います。

それと、最後に、大谷球場ですけども、市民の方がたくさん使っていらっしやったいい球場が、結果として、野球場等に残るんですけども、民間の活用ということになると市民の利用することが減ってしまった、これはもしかしたら市民の野球選手からするとマイナスになってしまいかも分からないので、このマイナスはよくないんだろうと思います。

同時に、市としては、随分老朽化していると聞いていますけど、それでも整備はずっと毎年かけられていたはずなので、その整備費としては今後発生しないということで浮いてくる話なんだろうと思うんですよね。ですから、事業者といい協議をしてもらって、市としてしっかり踏み込んで、いい野球環境が整うように、官民と連携をしてということを要望して、終わります。

最後に、都市ブランド創造局長に申し上げたいんですけど、お世話になっているからあまり言いたくないですが、常任委員会が5回中3回報告内容は全くありませんということで開催をされませんでした、教育委員会も同じであります。我々とする、町の税金を使ってやっていることについては、特に皆さんがどんなことをやっているのかなとか、どんなことを悩んでいるのかなとか、どんな課題があるのかなというのを知る、また、発信するためにこの仕事をしていますので、小さなことでも結構ですし、何もやっていなければそれはないんだと思いますけど、やっていないということは本当にありませんし、皆さん全力でやっていただいていますので、ぜひ常任委員会の開催については報告を上げてほしいと要望して、私からは終わります。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 中村義雄委員。

○委員（中村義雄君） 幾つかお尋ねします。

まず、美術館についてお尋ねしますが、今年、公務で美術館、展覧会に行ったときに、大雨が降っていて、その展覧会の式典の隣にぶあつて雨が落ちていて、これも美術かなと思うぐらいの雨が降っていて、下に大きなたらいというか、バケツを置いて、みっともないのがあったんですけど、お尋ねしたいのは、令和6年度の修繕費とか改修費とかはどれぐらいだったのかというのと、その余力ですよね。修繕って2種類あって、計画的にやる分と今回の雨のように計画していないけど、やらないといけないという部分があると思うんですよ。その余裕のところがどれぐらいあるのかなと。私が見たところ、いわゆるデスノートの舞台になった、一番そういう意味でも有名なところがあんな状態だったわけですけど、すぐ直せますっていう話も聞かなかったし、令和6年度の執行状況、その改修とか、修繕とか、それとその余力、緊急になった場合の対応できる余力がどれぐらいあったのかとかというのを教えてください。

次に、美術館デジタルアーカイブ化事業をお尋ねしますが、これは予算のときに非常に委員会でも議論になって、ミュージアムツアーを今までは直接子供たちが本物に触れる機会があったのを、執行部はデジタルアーカイブでオンラインで見せますよとかという話で、私たち議会

の多くは、本物じゃないと伝わらないものがあるでしょというものがすごく多かったと思うんですね。これはまた英語村だったりとか、ほかにもあったんですけど、執行部はそれをずっと言い張っていたわけですけど。

質問は、20の小学校でオンラインミュージアムツアーを試行実施しましたとありますが、皆さんが言っていたのは、実施したところの子供がこれを見た後、実際に見に行く子供がいるはずですよ、それを促進するんですみたいな話をされていたわけですけど、実際に試行して、どれぐらいの子供が美術館に足を運んだのかっていうのを把握していますかと、把握しているんなら数を教えてください。

それと、その後の大分市美術館と連携し、磯崎新建築のアーカイブをホームページで公開したとありますが、令和6年度と令和5年度のホームページの閲覧数を教えてください。要は、これをやって閲覧数が増えているのかどうなのかっていうのを確認したいと思います。

次は、漫画ミュージアム普及事業ですけど、先日も世界陸上があっていましたよね。世界陸上を見て思ったのは、選手がワンピースのポーズとか、ドラゴンボールのポーズとかをするわけでしょ、決勝とかで並んでいてね。いかに日本の漫画コンテンツっていうのが世界に通じるものかというのを改めて実感したわけですよ。いろんなテレビを見ても、何で日本に来たんですかと聞いたら、アニメを見てとかと言っているのもよく聞きますよね。これは非常に重要なコンテンツで、うちには漫画ミュージアムがあるわけですよ。ということは、この漫画ミュージアムをいかにいわゆるネットで、SNSとかも含めて、PRするかどうかっていうのが、世界の人を呼ぼうとしたときに、関心があって刺さるコンテンツがあるものですから、それが伝わるのはネットなわけですから、そこにいかに力を入れるのかというのは私は重要だと思っているんですけど、漫画ミュージアムに関する広報というか、PRというか、それを外国向けにどのような意識で、どのような令和6年度に取組をされているのかっていうのを教えてください。

それと、スペースLABOに関しては、これはもともとスペースワールドがあって、修学旅行とかの大事なコンテンツだったと思いますが、修学旅行は教育委員会なんでしょうけど、スペースLABOができてからの入場者数と、その中で修学旅行がどれぐらい来ているのかっていうのを教えてください。

国際スポーツ大会の開催については、パルクールとWTTファイナルズ、ツール・ド・九州2024って書いていますが、これに関する県と国の補助金について教えてください。

最後に、カモン関門！ぐるっと満喫事業というのがありますが、市議会も昨年、下関市議会から北九州市議会と連携していきましょうという話があって、一度会合して、今後も連携を深めていこうとしているわけですね。その中で、関門の場合は観光というのが一番の連携するポイントだと思います。関門に関する、この事業も含めて、令和6年度の下関との連携とその成果について教えてください。以上です。

○主査（宮崎吉輝君）美術館普及課長。

○美術館普及課長　美術館につきまして質問いただきましたことについてお答えしたいと思います。

まず、修繕費でございます。

中村委員が御挨拶いただいたときに雨漏りが大変してしまっていて、本当に心配な思いをさせまして、申し訳ございませんでした。

あの雨漏りにつきましては、一旦原因が追求できましたので、今は応急的な処置をしまして、あれ以降の雨については大きな雨漏りは起こっておりません。原因に関わる修繕というのも、今後、私どもの今の修繕費の中で対応していくように考えております。

そして、令和6年度の修繕費でございますが、修繕費としては550万8,800円という数字で決算になっております。また、それとはほかに、細かな内容で管理費の中から入っているものもありますが、今私どもが数字として申し上げられるのはこの金額になっております。

そして、余力があるかということでございますが、大きな修繕になりますと、私どもの今の予算の中では対応できないということになりますので、それにつきましては補正予算を組んでいただき、しっかり予算を取って、修繕をしていく必要があるのかと思っております。

ただ、例えば雨漏りのねじが防水加工を一部するとか、トップライトのところの上がガラス面でございますので、そのねじのところを防水補強をするとか、そういった対応が私どもの既存の予算の中で対応できるのではないかと考えております。そこはやはり工事の内容であるとか、そういったものによって予算を確保してまいりたいと考えております。

続きまして、デジタルをやって、デジタルを見た方が実際に来館しているのかということでございますが、私どもは、昨年度ミュージアムツアーを配信して、1年かけてデジタルを活用したオンラインミュージアムツアーというのを構築して、昨年20校に試行いたしました。約1,000人ぐらいの生徒に見ていただいた。そして、今年度ようやく1年かけて、小学校4年生を対象にデジタルのオンラインミュージアムツアーをやらせていただいておりますが、その子たちが本当に見たから来たのかということ直接的にするというものは今のところ数値としては持っておりませんが、何らかの形でそれを見た子たちが来たかどうかというのは測ることを考えていかなければと考えております。

ただ、デジタルのオンラインミュージアムツアーでございますが、私どもはもともとこのミュージアムツアーというのは美術館のことを、建物を見たり、収蔵作品を見て知っていただいて、美術館を誇りに思っていていただくということを大事に思っている事業、それを目的とした事業でございますが、オンラインのものでも空撮動画などでふだん美術館では見られないような映像であるとか、収蔵作品を見て意見交換をするなど、デジタルならではのよさを持つことはできておりまして、非常に教員、児童の満足度も高いものになっており、美術館のことを知っていただき、誇りに思っていていただくということに関してはある程度目的を達成しているの

はないかと考えております。

そして、小学校3年生まででした事業ですけれども、デジタルは小学校4年生を対象にやらせていただいておりますので、美術館体験ということでは切れ目なくやらせていただいているという、何らかの美術館を知るということを引き続いていくんじゃないかと思います。

そしてまた、そう言いながらも本物の体験が必要だというお声も私どもも重要だと考えておりまして、オンラインミュージアムツアーをした際には、たんけんパスポートでぜひ来てくださいというなお願いもしておりますし、教育委員会の実施するたいけん・まなび充実大作戦などにおいても、美術館を選んでいただくように学校にお願いもしたところであります。

また、今年度の展覧会では、夏休みにワークショップを中心とした企画展を行うなど、子供たちが来館しやすい取組も行っておりますので、そういう形で考えていきたいと思っております。以上です。

ホームページの閲覧数ですが、令和6年度の12月以降にホームページでデジタルを行ったんですけれども、それでまだ正確な数値というのを私が今数字を持っておりませんので、それについてはまた御報告させていただきたいと思います。

○主査（宮崎吉輝君） 漫画ミュージアム事務局長。

○漫画ミュージアム事務局長 委員がおっしゃるとおり、漫画というのは世界的にも人気ということで、地域も広がりを見せております。

漫画ミュージアムは、漫画を見る、読む、書くの3つのコンセプトにより漫画文化を楽しんでいただくと、それから、この視点でインバウンド層にも様々な対応をしているところでございます。

具体的には、デジタルコンテンツを使ったパンフレットですとか、そういった音声ガイドですとかで外国人の方にも施設を見ていただいて、漫画の多言語翻訳版なども手に取っていただいて楽しんでいただくと、それから、海外の教育機関等からも団体客の方には漫画アシスタント体験ということで、創作の体験なども提供しているところです。また、キャプテンハーロック等のフィギュアですとか、そういったところで漫画のフォトスポットというのでも数多く設置しているところでございます。

広報につきましてですけれども、インバウンド層の獲得につなげるために、今年、大阪万博でアニメ・マンガツーリズムという内閣府主催のイベントがございまして、そちらでも広く広報したりですとか、SNSを通じた発信、それから、インフルエンサーの受入れということで、インフルエンサーからのお声が結構、中東ですとか、いろんな地域からかかってございます。こちらに対応させていただいたりですとか、そういったことも行っております。

また、北九州国際漫画大賞っていうのを毎年行っておりまして、四コマ漫画のコンテストですけれども、こちらから28か国、たくさんの地域から応募していただいております、こういった取組によりインバウンド層の来場者というのは年々増加しております。これからのこ

ったところを続けまして、また、広報も強化していきたいと思います。また、中のコンテンツも充実させることによって、双方の受入れを充実させていっていただきたいと思います。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 スペースL A B O科学館の来場者数、それから、修学旅行の来館数を御説明させていただきます。

スペースL A B Oの入館者数については、令和4年の開館時点で51万人、翌年、2年目の令和5年が40万人、令和6年、3年目で34万人となっております。このうち、令和6年の修学旅行数の実績ですが、特に修学旅行の団体としてカウントしておるわけではないんですけれども、団体利用実績というところで御報告させていただきますと、市外の小学校が178校、市外の中学校が31校、市外の高校が14校、なので令和6年度については合計223校が市外からいらっしやっただいております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツコミッション担当課長。

○スポーツコミッション担当課長 国際スポーツ大会の負担金について回答させていただきます。

まず、ツール・ド・九州、こちらは県が3,000万円、市が1,500万円、パルクール、こちらは県市ともに1億円ずつとなっております。最後に、卓球W T Tは県市ともに負担金はありません。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 門司港レトロの下関市との連携と成果について御答弁申し上げます。

門司港と下関市との連携につきましては、平成9年に設立しました関門海峡観光推進協議会におきまして連携をしております。こちらは、北九州市、下関市のほかにも山口県にも入っているところでございます。カモン関門！ぐるっと満喫事業につきましても、この協議会に対する負担金というのが入っております。

それから、取組といたしまして、まず、宿泊ツアーへの助成ということで、北九州市、下関市の両市にそれぞれ1泊すること、また、日帰りにおきましても、食事や観光などにおきまして、それぞれの市で旅程に組み込むこと、こういったことを条件として実施しているところでございます。

また、昨年からは、関門海峡クローバー切符っていうのがございますけれども、これをアプリ化させまして、デジタル化にも取り組んでいるところでございます。

こういったことから、平成29年には、門司港レトロ～下関間の回遊率が39%であったところが、令和5年には40.3%ということで1.3ポイント増加しているところでございます。

なお、令和6年度につきましては、フライアンドクルーズということで、北九州空港から門司港、唐戸を結ぶ船の実証運行というのも実施いたしました。

こういった取組を今後も続けまして、引き続き関門連携を実施してまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 中村義雄委員。

○委員（中村義雄君） 美術館の修繕費の話ですけど、ここ美術館は特殊だなと思うのは、来客、一般の来客が来るところだから、さっきの大規模改修でいうと、補正予算って年に4回しか組めんわけやないですか、それも待ってたら間に合わないというのもあると思うんですよね。応急でやれるところはやって、取りあえず止めたということでもあるので、それと美術品があるというのがまた特殊な環境ですよ、水に濡らしたらいけないとか、風もそうでしょうけど、温度とか、そういうのにきちんと対応できるように、今回してくださっているみたいですから、そこは要望しときます。

美術館のデジタルアーカイブですけど、去年の議会の思いが全然分かっていないなと思っているんですよ。どれだけあの本会議、委員会で、子供たちに美術館のことを知ってくれとか議会は何も言っていないんですよ、美術品の本物に出会うことを大事にせんですかと、それが失われるじゃないですかと、ここが論点なんですよ。だから、そのときに執行部は、いやいや、これやりますと、そこから行くように仕掛けますみたいな話をされたわけでしょ。それが今の答弁では美術館のことを分かってもらえますと話がすりかわっているわけですよ。ちょっと間違っと思ったらすいませんけど、僕これ本物を大事にせえみたいな附帯決議がなんかもつけたような気がする、つけたよね、何か、そういう議会から附帯決議も多分つけたと思うにもかかわらず、皆さんが言ったことをやって、その成果も確認もしていないと、行った人がどうなったか、普通の事業ならいいですよ、議会からそこまで指摘されていて、それを確認していないちゅうのはどういうことなんですか。僕は議会軽視じゃないかなと思いますよ、それについては答弁をお願いします。

それと、大分市美術館の連携と磯崎新建築のアーカイブのホームページ公開というのは12月からって、年間通しては分からないというのは分かりましたけど、新しいことをやったら、その影響はどうあったんかっていうのを普通確認するでしょうと。例えば、12月にやったんだったら、1月、2月、3月、9月までに今まで以上に増えたのか減ったのかということが気になるませんか、私はそれぐらいの答弁があっていいんじゃないかと思うんですけど、それについてもお尋ねします。

漫画ミュージアムは、私が言った趣旨は、受け身やなくて、もっと積極的にこれを世界に売っていかないといけないんじゃないかという話なんですよ、ここに来た人がどうじゃないんですよ、ここにこんなものがありますよということをどう世界に知らしめるんですかっていう質問なんですよ。そういう意味で、今の皆さんの考え方と私の考え方が違うと理解していいということですかね。私は、もうこれだけ漫画が世界に打って出れるキラークンテンツなんで、うちには漫画ミュージアムがあるわけでしょ、福岡にもない、福岡もあったんかな、ないか。

漫画ミュージアムがあるわけじゃないですか、そしたら、もっとネット関係でもうどんどんどんどん売っていった勝負するべきやないかなと、森川理事がおるにもかかわらず、こういうことはどういうことなのかなとかとちょっと思ったりすることもありますけど、それについても何か答弁があれば教えてください。

スペースLABOに関しては、今のお話だと2つあるんですよ。

1つは、去年のこの決算で言いました、スペースLABOは前年と比べてどうなんですかって、減っていますと。そして、さらに言ったのは、通常減るんですけどっていう答弁を皆さんされたんですよ。通常は減るから減るんでいいんですか、それじゃいけんでしょと、減らんようにやるのが当然でしょと、僕決算で言っているんですよ。それなのに減っています、順調に減っていますっていう話でしょ、それで僕は去年申し上げたことが伝わっていないんだなと思ったのが1つと。

それを食い止める策の一つが私は修学旅行だと思っているんですよ。いろんな策があるでしょうけど、そこを修学旅行で、それも他県の修学旅行を呼び込もうと、このスペースLABOというのは北九州市の大事なコンテンツなんだから、これで呼ぼうよっていう気がないんだなというのを今の報告で思ったんですよ、戦略的に。そんなの修学旅行でまずカウントしていませんっていう、カウントしていないということはそういう作戦がないということでしょう。それで、私はいいのかなと。やっぱりスペースLABOに人に来てもらうのに修学旅行っていうのは大事な作戦じゃないかなと思うんですけど、それについてお尋ねします。

それと、国際スポーツ大会で3つの報告がありましたけど、ツール・ド・九州は3,000万円と100万円で県が多くて、パルクールは1億円、WTTファイナルズは出していないのかな。いずれにしろ、世界大会誘致において、北九州市が県より多く出しているちゅうことはないですよ。今年はスケートボードの世界大会、あれはどんなふうになっていますか、県と市の負担についてお尋ねします。

門司港のことはいいです、以上。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 本物の体験が失われているのではないかということについてお答えいたします。

もちろんもともとのミュージアムツアーの、先ほど言いました目的のとおり、美術館を知っていただき、美術館のことを誇りに思っていていただくっていう目的を達成するということに関してではなくて、本物を見ていただきたいということではありますけれども、市としては、そのために教育委員会が新たにそういう体験を小学校の皆さんにさせていただくための校外体験活動であるたいけん・まなび充実大作戦というふうなものを実施して、美術館にも来ていただくようお願いしているところでありまして、先ほど言いましたように、今年度の夏の企画展はワークショップを中心として子供たちが来やすいものをするなどして、私どもも美術館に子供た

ちが少しでも来ていただけるような取組というのは続けてまいりたいと考えて、それをしなければいけないと考えております。

ただ、オンラインミュージアムをした子供たちが、美術館にそのまま行くってところのつながりに関しては、私どももさっきミュージアム事業の中で来館を促すことは十分やっているつもりでございますけれども、具体的にその数字、それがつながっていたかというのが分かるものを今の時点では持ち合わせておりませんので、そういったことが行われているかどうかを把握するということはやってまいりたいと思っております。

それから、ホームページの閲覧数でございますが、今ちょっと数字がなくて申し訳ありませんが、基本的に今の時点でホームページの閲覧数というのは、具体的な数字はちょっと申し上げませんが、上昇傾向であります。それは、様々な要因が、ホームページというのはいろんな要素があって、企画展の内容がよければ上がるとか、その関心度によって変わってくるものでもありますので、今後も分析してまいりたいと思っております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 漫画ミュージアム事務局長。

○漫画ミュージアム事務局長 漫画ミュージアムでは、これまでも韓国の釜山情報産業振興院との連携ですとか、それから、中国との関係性を深めております。こういったところをさらに推し進めて、また、さらには台湾ですとか、そういったところにも情報発信などを引き続きいたしますか、拡大して進めて、漫画文化を広めていきたいと、それから発信なんかもより強化をして進めていきたいと思っております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） にぎわい担当理事。

○にぎわい担当理事 漫画ミュージアムのPRについて少し補足させていただきたいと思います。

都市ブランド創造局は今年からSNSにかなり力を入れております。動画であったり、外国語発信であったり、そういったところも強化していきながら、インバウンドの誘致強化に努めてまいりたいと思います。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 スペースLABOの修学旅行について補足させていただきます。

実は修学旅行の受入れっていうのは我々インバウンド課で所管しておりまして、スペースLABOの修学旅行の人数というのは別途取りまとめしております。そちらによりますと、すいません、先ほどの223校、おおむねその人数と近いところはあるんですが、修学旅行というカテゴリーでいくと、令和6年度で5,515名っていう数を把握しておりまして、まず我々修学旅行をやるに当たって、産業都市として、学び探求型の修学旅行というのは非常に北九州市はポテンシャルを持っておると思います。片や、これまでスペースワールドがありましたもので、八幡ロイヤルホテルと一緒に、そこの辺り、平成29年、平成30年度がピークだったんですけども、閉園以降、がくっと落ちております。その中で、我々はより企業中心に、SDGs、それ

から工場見学等を含めたところで売り込みをしております、委員の御指摘のスペースLABOについては、アウトレットとの相乗効果もありますので、非常に市外の学校からも関心を持たれております。令和4年、令和5年、令和6年とスペースLABOにつきましては順調に修学旅行生というのは増えておりまして、令和4年が3,680人、令和5年が4,208人、先ほど申したとおり、令和6年が5,515人という形で増加しておりますので、ここは我々修学旅行の重要なスポットとしてこれからも大事にしていきたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 入館者数の減少について御説明させていただきます。

御指摘のとおり、私どもも減少しておる現状をよしとしているわけではございません。実際に減少しているところではありますけれども、科学館の展示、常設展っていうのはなかなか展示物が変わらないというのがありますので、そこをいかに来ていただいた方に楽しんでもらえるかというところに今力を入れているところです。

具体的には、展示物を使った科学体験、例えば常設展示の展示解説をしたり、あとはLABOの中、1階から3階までを通したLABOツアーを開催、職員が解説しながら1階から3階を御案内する、それからスポット的に、土日、祝日を中心にポケットサイエンスといって、15分程度のサイエンスショーを開催したりしております。そうすることで、展示を見るだけではなくて、いろんな解説を聞いたり、ショーを見て科学に関心を持っていただくと、そういったことを重ねることで、入館者数を増やしたり、リピーターを増やしていくということに取り組んでおります。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 都市ブランド創造局長。

○都市ブランド創造局長 子供の体験学習の重要性ということを御指摘いただいたという点について少し補足をさせていただきたいと思います。

私どもは今いろいろな施設を所管しております、その中で子供が実際に行って、見て、体験するということは大変重要なこと、子供にとって大切なことだと思っております。

その中で、確かにミュージアムツアーという形で全校という形ではなくなったんですけれども、子供に来て、体験していただきたいという思いというのは引き続き課題として思っております。昨年、20校でオンラインミュージアムツアーをやっていたしまして、今年、全校に向けて本格的に実施するというので、その結果につきましてはきちんと捕捉をしていくということをさせていただきたいと思っております。

また、今年も夏休みに子供たちが来やすいように、ちょっと意欲的な子供のワークショップができて、その中で体験できるような企画展などもチャレンジして、開催していたりしておりますので、その子供たちに来ていただくという部分は大事にしながら取り組んでまいりたいと考えております。

それから、LABOにつきまして、入場者数の減は確かに課題と思っております。もちろん

修学旅行もしっかりと誘導していくという施策も打ちつつ、運営の面でもっとこれが向上するほうに向かって見直すところがないのかと、館の運営自体についても私どもももっと見直すべきところについて議論する必要があると思ひまして、そういったことも現在進めているところでございます。こういった課題についても引き続き取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） アーバンスポーツ担当課長。

○アーバンスポーツ担当課長 委員御指摘のスケートボードの今年度の負担割合なんですが、北九州市が2億円で、現時点では県においては負担なしとなっております。これは今も県と協議はさせていただいております、これまでの国際スポーツ大会を数多く北九州市で開催しておりますが、必ずしも1対1であるわけではなくて、誘致の経緯であったりとか、そのあたりのもろもろの事情によって変わってきております。実際サッカーの国際大会とかは北九州市主導でやって、北九州市のみの負担でやった大会もありますので、そういったところもあるのは事実なんですが、ワールドスケートは国際大会の大きな大会となりますので、引き続き県と協議しながら、こういった形で県に協力いただけるのかっていうのを議論していきたいと思っております。以上になります。

○主査（宮崎吉輝君） 中村義雄委員。

○委員（中村義雄君） さっきの最後の部分ですけど、最初の答弁では3,000万円と1,500万円、1億円・1億円、0・0ですね、県が多いわけでしょ。TGCもそうですよね、3,500万円、3,500万円か、同額ですよ。探せば北九州市だけのやつもあるのかもしれないけど、基本は県に協力していただくっていう、2億円と0とかというのは、その決算の額からしてもおかしいと普通思いませんかと思うんですよ。そこは今後努力していただきたいと思ひます。

最初の美術館のデジタルアーカイブは何でここまで言うかという、内容もなんだけど、何度も私申し上げますけど、どれだけ議会でこれが問題になったのかという話なんです。たしかこの分科会か何かで全員、全会派が言ったと思ひますよ、体験がなくなることについて、議会としては非常に懸念しているって言うことを、あなたたちが決算で受け止めていないんじゃないかっていうことが懸念なんです。だから、今何しています、何していますじゃなくて、議会でこの意見を受けて、私たちはこういうふうに決算で考えました、やりましたとかという答弁じゃないじゃないですか、そこが僕は非常にこの決算の報告としてはいかがなものかなと思ひています。

ぜひ議会のもう少しいろんな意見、個別の意見がある分にはいろいろあるでしょうけど、ほぼ議会の総意みたいな形の分に関しては、もっとちゃんと対応という言い方は失礼ですけど、重く受け止めて対応していただきたいと思ひます。

今回趣旨は、昔、市民文化スポーツ局だったですよ。だから、スポーツとか文化とか楽しめればよかったって話に、都市ブランド創造局になったっていうのは、観光系が入って、いか

に経営的というか、結果を出して何ぼのところが僕は入っているのが組織改正だと思っているんですよ。それにもかかわらず、皆さんの答弁を聞いていると、何やりました、何やりましたで、目的と結果がいまいち伝わってこないです。例えば、さっきの美術館の分でも、増えているんですけど、ただ企画にだけで違います、であれば磯崎新さんとかのアーカイブを入れたときにどうだったんかっていうのをまず見て、そのときに上がっていますというのがあっていいわけじゃないですか。この企画展は上がりました、これは上がりませんでしたと同様に、こうやってお金をかけて事業をやっているんだから、それがどうだったんかっていうのがこの決算でしょ、そういう視点が僕は非常に欠けているなど。都市ブランド創造局に非常に期待していますよ、そういうふうに結果がちゃんと評価されて出てくる、市長だってそこに力を入れようとしているわけでしょ、期待しているわけじゃないですか、お金をかけているわけですから。もうちょっと結果をきちんと客観的に分析して事業をやってほしいなと思います。

スペースLABOもそういう意味では一緒なんですよ。修学旅行のことだけではなくて、どうやったら北九州市に泊まってもらえるのかというのが課題なわけじゃないですか。スペースLABOに来て、門司港に行って、山で夜景見て一泊してもらおうようにして、金を落としてもらおうという戦略があるわけでしょ。そしたら、このスペースLABOにどんな人を呼んで、どんだけ滞在させて、そこに、買物もできるわけだから、その中の一つのわけでしょ、決算の報告ではそういう戦略が見えてこないと思います。修学旅行はそういう意味では大事なコンテンツだと思うんで、より僕は着目して、だって、スペースLABOになったときか何かにいつとき修学旅行の担当課長とかがいましたよね。そういうのも力を入れてほしいなと思います。

もう漫画ミュージアムも、森川理事がSNSで力を入れていきますって総論の話は言ってくださったんで、そこは当然分かっていると思うからこそ言うんですよ。何で漫画ミュージアムがそこにもっと具体的にやらないのって、だから一番分かっているのは森川理事だと思うんで、ぜひ今後、漫画、ちょっとここらで聞いていいですか、漫画っていうのは世界に広げられるキラーコンテンツだと僕は思っているんですけど、そこが違うんですかね、それが違うんなら話が全然違うんで、誰でもいいですよ、その見解だけ教えてくださいよ。

○主査（宮崎吉輝君）にぎわい担当理事。

○にぎわい担当理事 委員がおっしゃるとおり、漫画っていうのは世界共通で今人気があるコンテンツ、まさしくクールジャパンを代表するコンテンツと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君）中村義雄委員。

○委員（中村義雄君）分かりました。期待していますので、よろしくお願いします。終わります。

○主査（宮崎吉輝君）ほかにありませんか。西田委員。

○委員（西田一君）令和6年度で事務事業の棚卸しをしたんですよ。基本的には軒並みばっ

さりという感じでやられたんですよ。これもう資料要求に載せているんでお尋ねするんですが、従来額から削減された事業っていうのが各局幾つもあって、その棚卸しの100億円以上が次世代投資に回されているんです。各局どういった事業が減額されて、それがどういった事業に次世代投資で回ってきたのかっていうのを具体的に教えていただきたい。

それともう一点、すしの都について、今年度からはすしの都課を設置して事業をやっているんですが、令和6年度から既にすしをフックにしたPR、観光客も含めて、インバウンドも含めたPRをやっていると思うんですけど、令和6年度においては具体的にどのような事業で、決算額は幾らで、どういった効果があったのかっていうのをお尋ねします。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 総務課長。

○総務課長 都市ブランド創造局の令和5年度に実施した予算の事務事業の棚卸しの全体の金額と、それから、次世代投資枠、それと中身の主なものをお伝えさせていただきたいと思います。

まず、予算の事務事業の棚卸しですけども、都市ブランド創造局所管分で言いますと95事業、5.3億円の棚卸しの見直しを行っております。

主なものでいきますと、棚卸しにつきましては、先ほどお話にも出たミュージアムツアーがあります。そのほかでいきますと、リバーウォークの美術館分館、こちらを棚卸しで一旦休止という形にしております。そして、北九州文学サロン、こちらの管理運営事業も棚卸しで見直しをかけております。

続きまして、それに伴って次世代投資枠が、36事業の14億円、こちらを予算として計上させていただいております。

主なものでいきますと、先ほどお話が出ました美術館のデジタルアーカイブ事業、こちらと北九キッズスポーツマンズプロジェクト事業、こちらのスポーツの関連の事業でございます。そして、先ほどもお話がありましたけども、SDGs 修学旅行等の商品開発促進事業、こちらが次世代投資枠として行った主な事業でございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 すしの都課は令和7年4月1日に設置されたわけですけど、確かに昨年度から、すしの都を掲げたPRに取り組んでおります。昨年度の取組としましては、すしの都北九州協議会という民間発意で組織された、すし店とか、旅行会社であるとか、また、1次産業の漁業関係者とかが入った組織体がありますが、その会員店舗ガイドブックの作成、あとは会員店舗を掲載したポータルサイトの制作、このようなものに取り組みまして、PRをさせていただきました。決算額につきましては412万7,080円という決算額になっております。

効果としましては、北九州市のすしのセットクーポン、これはすしの都北九州協議会の加盟店で参画している店舗が、3,800円で定額で市民、あとは観光客が食べられるというクーポンを昨年度から販売しましたが、この売上げ件数が630件という効果が出ております。以上で

す。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） まず、事務事業の棚卸しについては、先ほどの議論と重なるところも出てくると思うんですけど、答弁の中に、もちろんミュージアムツアーがなくなったっていうのはこれ先ほどからの議論になっているんですが、答弁の中でリバーウォークの分館の閉館ですかね、これは今どうなっているんですかね。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 引き続き休館を続けております。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） 休館期間ももう長いと思うんですが、棚卸しで事業削減して、その結果、分館が休館になっていると。リバーウォークっていうのは都心のにぎわいの拠点施設ですよね。例えばコムシティとかのように、造っちゃったけど、失敗しちゃったから行政機関を入れちゃったということではないと思うんですが、閉館している理由っていうのは、テナントが入らないとか、代替のものが入らないとか、そういう理由でいいんですかね。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 まず、分館は今現在、休館をしております、その在り方について今検討をしているところではございます。そして、テナントが入るか入らないかというよりか、まずこれをどういうふうに生かせるかということ、民間資源の活用策に加えて、民間活用に合わせて、どうしたらポテンシャルを最大限生かせるかっていうものを今検討しているところでございます。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） 事務事業の棚卸しによって事業を削減するということは、行財政改革においては別に否定するものではないんですけど、特に今回、箱物に関して、後をどうすんのかというところで、そういうふうにぽかんと都心のにぎわいの場所に空間、穴が空いている、それに対して在り方をどうすんのかと検討している、検討、そのめどはどのように考えているんですか。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 今の段階で、何年までにどうという形のものというのは出ておりませんが、早いうちに活用策を考えるべきだということを認識しております。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） まさに行財政改革ということのを置いとくと、自分で自分の首を絞めているような感じですよ。にぎわいの中心たるそのリバーウォークの中に、自分で空き空間をつくっちゃっていると。本来、美術館もそうですし、集客はもちろん大事なんだけど、にぎわいもありますし、市民の啓発もありますし、文化ということに関しても北九州市は頑張ってきてい

ますんで。

ただ、事務事業を削減しました、もうあとは手つかずですということでは全く何のためにやってんのかっていうことが批判されてもしようがないと思うんで、これはだから空きっ放しにしちゃっています、そのめどもありませんでは非常に困るわけなので、何らかの具体的な目標とかめどは示していただきたいと思います。

その後、総じてになるんですけど、ミュージアムツアーもそうなんですけど、棚卸し事業の削減によって、結局そうやって市民の文化であるとか、ともすれば子供の教育であるとか、そういった部分が軽んじられるということは決してあってはならないと思いますし、何のために税金使ったかという話もありますし、そういった部分も含めて検討していただきたいと思います。

時間がないんで、これ多分ほかの局に聞いても答えは出てこないんで、95事業で5億3,000万円、5.3億円削減しました。一方で、次世代投資枠で14億円ありますということなんですけど、これだから5.3億円削減したけど、14億円増えたということでは当然ないと思うんですよね。それが14億円マイナス5.3億円で、結果として8.7億円プラスになったのかとか、その辺は計算できます、具体的に数字を教えてください。

○主査（宮崎吉輝君） 総務課長。

○総務課長 令和6年度予算につきましては、委員のおっしゃるとおり、都市ブランド創造局としては棚卸しで5.3億円、これ事業費ベースなんですけども、削減をしております。14億円、次世代投資枠とお伝えしたんですけども、これも事業費ベースで、新規事業を含めてある意味純増部分になると思います。なので、都市ブランド創造局としましては、14億円引く5.3億円の約10億円が令和6年度増加したと、事業費でいったら10億円増加したということで認識していただいて結構です。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） 承知しました。

もし具体的に資料をお見せいただけるなら、後でタブレットに送っていただいてもいいですし、お願いいたします。

すしの都課なんですけど、前年度から事業を継続してやっているという理解でいいんだと思うんですけど、これセットクーポン、先ほど3,800円ということだったんですけど、これ掛ける何人分というか、トータルで幾ら販売されたんですか。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 北九州市のすしセットクーポンでございます。売上げの件数としてはトータルで630件で、個人が購入したものが311件、あと団体、旅行会社から販売されたものを購入された方というのが319件、計630件となっております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） きっかけとしては、それはこういったクーポンというのは有効なんですけど、従来から申し上げているように、もちろん北九州市の食文化っていうのはすしだけじゃないんで、そこらいかんインバウンドを含めて、市内の様々な焼き肉であったり、ほかの飲食店に波及をさせるかっていうのが大きな課題だと思います。その認識は間違いないですかね。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 附帯決議でも、今年、美食の都を標ぼうするのであれば、ほかの食、体系的にすべきという御提言もいただいております。我々としてもすしをフックに今年度は取組を進めておりますが、出口のところは美食の町北九州市の実現と考えております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） 皆さん御承知のとおり、小倉駅の J AM 広場がすしの都という広告で埋め尽くされてるんですが、これ僕も J AM 広場を見て、確かに、ああ、やってんなということは伝わるんですが、これ例えば、インバウンド観光客があれを見て、あるいは市民があれを見て、市外の方があれを見て、ああ、そうなんだ、北九州市はすしを頑張っているんだというところで、じゃあおすしを食べに行こうかなともしなっただとして、大概の皆さんはスマホで検索すると思うんですよね。そしたら、例えば小倉駅で降りた方がスマホを検索すると、スマホの上位のすし屋に当たるのかなと思うんですが、そこにじゃあすし屋に行ってみようかといって行くのかもしれませんが、そうすると当然スマホ上位に出てきているところのすし屋が有利になるのかなと思うんですけどね。

伺いたいののが、あの広告を見て、次、じゃあおすし屋さんに行こうと思って、その後、スマホを検索する、後はもうお任せなんですかね、どういう波及効果を狙っているんですか。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 今すしの都課におきましては、様々な形で露出、PR をさせていただいております。例えば、駅の J AM 広場のすしの都課のバナー広告等でございますけども、すぐ隣接する観光案内所、こちらでもすしの都北九州協議会のパンフレットであったり、北九州市のすしがなぜおいしいのかというリーフレットも今作成しております、そういったものが入手できるようになっております。

あとスマホで「すし・北九州」と検索すると、今先ほど申し上げた協議会の加盟店舗、この辺も一覧として出てくるような設定にさせていただいております。その中で、すしクーポンが使える店、3,800円となると、どちらかというとそれは高級ずしというよりも町ずしが主体になるわけですが、そういった形の検索で行っていただいているような感じで考えております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） 今回の経費になるんですけど、J AM 広場は総額幾らぐらいにかかっている

んですか。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 掲出の金額ですけども、およそ160万円かかっております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） 160万円は当然市の公金から支出されるわけで、それがすし屋だけに波及するということがあると、ほかの飲食店も当然市のにぎわいづくりとか、都市ブランドとか、あるいは税金も払ってくれているでしょうし、不公平になると思いますが、その後、あのJ A M広場の広告も含めてなんですが、どのようにフックにして、市内の様々な飲食店に波及効果を広げていくのかっていうのを教えてください。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 今年度4月1日にすしの都課が新設されました。まず、課の新設に際しましては、北九州市の食全般の総合窓口でありますサービス産業政策課、あと1次産業を所管する水産課や農林課、海外から誘客促進を担うインバウンド課など、4課の課長、係長にも兼務辞令が発令されて、食の1次産業の振興から流通、そして誘客までの総合的な組織体制を取っております。

まず、すしの都課としましては、すしをフックにした観光誘客に取り組んでいるわけですけども、すしがおいしい町という認識が広がることで、インバウンドもはじめまして、旅の目的地として北九州市が選ばれることを期待しているわけであります。すしを目的とした北九州市を訪れる観光客が増えれば、滞在期間中に、委員もおっしゃった焼き肉であるとか、あとウナギとか、焼きカレーとか、いろいろ他のグルメを体験していただく機会も増えてくると考えています。

また、すしの都課はそのすしをフックにした観光客に取り組んでいるわけですけども、これまで例えば今年度に入りまして、富山県との連携事業で大阪でイベントを開催させていただいたりとか、あと市民や市内企業への啓発活動、いろんな場面がございます、そういったときには、市内のすし以外の焼き肉などの多彩なグルメも紹介させていただいたり、また、その資料を配布するなど、すし以外の食のPRにも取り組んでいるところであります。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） 確かに「すしの都・北九州」で今検索すると、セットクーポン3,800円の分が出てくるんだけど、これは先ほど説明にあったやつかな、分かんないですね、いいや。

すしの都の協議会は何店舗かすし屋が入っているんですけど、これは運営会社というか、会社別にいうともっと減りますよね。同じ会社のすし屋が4～5店舗並んでるっていうのもあるんだけど、別にそれはそれでいいんですけど、なぜこの程度の数、この程度の店舗しか入っていないんだろう。相当声かけしていると思うんですよ、皆さん、なぜこれぐらいの数しか入っていないのかなと、そこをお聞かせください。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 昨年度、すしの都北九州協議会が立ち上がった際に、企業数としては23企業で、店舗数としては30店舗というところからのスタートをしております。その中で、いろいろ事務局が声かけをしたりはしているんですけども、なかなか3,800円という価格帯が、ちょうどそこがぴったり合っているところが10数店舗今加盟していただいているんですけど、例えば中にはランチとかを1,000円台で出すすし屋、もしくは5,000円、6,000円、そういった価格帯で出すすし屋、やはり様々な店舗が混在しております。そのため、今現在、加盟している店舗が10数店舗に限定されているという状況にあります。

ただ、これは市としても事務局としてももうちょっと幅広い層にクーポンを購入していただきたいというのを考えていまして、これからもうちょっと高い価格帯のところも発売できないか、今検討段階でございます。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 西田委員。

○委員（西田一君） まず、すし屋とか、すし屋以外からよく聞くのが、北九州市の4万円も5万円もするような高級ずしなんか市民の皆さんは食べねえぞと、これはよく伺いますね。だから、そういった間違ったイメージを市民に与えているというのは、これは皆さん工夫して改善していただかないといけないと思います、税金使っていますから。

3,800円の価格帯がはまっているすし屋が協議会に多いんだということなんですが、そこもだからすしの都をPRするんだったら、少なくともまず市内のほとんどのおすし屋さんから、全国的なチェーン店は置いて、市内で頑張っているすし屋の大半からは御支持いただいてしかなるべきだと思うんですね。そうしないと、だって焼き肉店、ほかの焼き鳥店に波及しないですよ、すし屋からまず支持されないと。そこももう少し改善していただきたいなと思います。

最後、僕もJAM広場の広告を見て思うんだけど、インバウンドの方にもPRするんであれば、すしの都ですしキングダムって書いてあるんだけど、キングダムはこれは王国ですから、都はキャピタルであつたり、シティーであつたりなんで、そこはもう直接誤解を与えていますんで、今後はすしキングダムじゃなくて、すしシティーとか、すしキャピタルとか、もしインバウンドを意識してんだつたらという、これはもう改善しなければならないと思う、訳が違ってから、以上です。

○主査（宮崎吉輝君） ほかにございませんか。岡本委員。

○委員（岡本義之君） 公明党の岡本でございます。よろしくお願いします。

まず、美術館に関してですけども、令和6年度は美術館開館50周年ということで、春に横山大観展を実施したかと思います。これはどのぐらいの方が最終的に見に来られて、過去の大型の企画展に比べてどうだったのか、その辺を教えていただきたいのが1点でございます。

それから、インバウンド誘致強化事業についてですけど、令和6年度は、特にインフルエンサーにいかにかこの北九州市のよさを発信してもらうか、この辺に対してどういう取組を行われ

たのか、お聞かせください。

それから、先ほどスペースＬＡＢＯというか、科学館のお話が出ましたが、この前インターネットを検索していたら、武内市長が北九州市のリアルスペースワールドって、見たことありますかね、投稿していたんですね。中身は本当に、武内市長、いいのかと思うんだけど、北九州空港を宇宙港にしたいみたいな希望を述べているような中身なんですね、宇宙港って分かりますよね、今大分空港が取り組んでるやつなんですけど。その中に、九州工業大学の話とか、人工衛星の話とか。私もこの前筑波のＪＡＸＡに行って、体育館に展示されたすごいものを見て、感動して帰ってきたんですけど、このＪＡＸＡとの連携とか、九州工業大学との連携とか。九州工業大学には、皆さんも御存じのとおり、世界に２つしかない試験施設があるんですね、そういったリアルなものがしっかり現場としてある中で、ぜひそのよさを生かしていただいて、オンライン連携とかも含めて、そういうところとの連携を今まで企画展でやってきたか、やれないのか、御意見を聞かせてください。取りあえず以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 昨年度の50周年記念事業の横山大観展の入館者数ということの質問でございましたので、お答えします。

期間中の来館者数は4万5,031名でございました。そして、これまでの展覧会の中でどんな状況だったかといいますと、これは私どもの過去やってきました展覧会の中では大体15位ぐらいの人数になっておりました。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 インバウンド誘致強化事業の中でインフルエンサーの御質問がございました。

私どももインフルエンサーというのは非常に重要だと思っております。というのが、昨今の海外旅行、インバウンドにつきましては、旅行の形態がもう個人旅行にほぼほぼ特化してございます。ですので、当然従来から各国の旅行会社等を訪問して直接セールスするというような活動もこの事業の中でやっておりますけれども、近年は、おっしゃったとおり、インフルエンサーの招へい、個人メディア、それをSNSで発信してもらうということが非常に大事な観点と捉えております。

令和6年につきましても、我々が重点市場と捉えます韓国とか台湾からインフルエンサーを複数招へいしてございます。ブロガーであったりとか、国によってインスタグラムが見られていたりとか、韓国だとブログが見られていたりとかがありますので、そこら辺のメディアの特性を分析して、インフルエンサーを招へいしておるんですけれども、招へいに当たってもある程度コストがかかりますので、インバウンドの特性として、複数都市を1週間ほどかけて回るというのがありますので、例えば大分県と我々と熊本県と連携したりとか、山口と鹿児島と連携したりとか、福岡市、熊本市、鹿児島市、北九州市といろんな広域連携のスキームをつくり

まして、その中でそれぞれターゲット国のインフルエンサーを呼んで、その中で周遊、北九州市のよさというのを発信していただいている、そういった取組は重点的に強化してまいりました。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 スペースLABOについて、九州工業大学、それから、JAXAとの連携について御説明させていただきます。

スペースLABOでは、JAXAとの連携で既に取り組をしておりまして、例えば今年度も春先、5月には、小惑星のサンプル展を開催しております。そのほかにも、JAXAの専門家の方をお呼びして、講演会を行ったりといった取組を進めております。

九州工業大学との連携については、常設展の中で、九州工業大学の人工衛星の展示をしておりますし、ほかに九州工業大学に限らず、大学の研究の展示もしておりますので、既に取り組を進めております。

あとは、今後も、もうちょっと深く連携を進めていかなければならないなどは考えておりますので、例えば九工大の人工衛星を展示しておりますけれども、展示のやり方、仕方が分かりにくかったりするので、いかに本物を展示しているかというところをこれから遡及して、来館の方にPRしていきたい、していかなければならないと考えております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 岡本委員。

○委員（岡本義之君） 私も足立美術館にも実際に見に行って、感動していたんで、この横山大観展のオープニングイベントですか、オープニング式に参加しました。この中で参加した人はいますかね。あのときに、市長の挨拶を覚えていますかね。市長は、ちょうどさっきアーカイブの話が出ていて、オンラインなのか実物に触れるのかっていう議論があっていた頃だったと思いますけど、市長はやっぱり本物に触れることが大事だと挨拶されたんですよ。違うやん、言うこととやることがと一瞬思ったんですけど、ああいう本物に触れるということは、もうどんなにいろんなインターネットの技術が上がったとしても、やっぱり生に触れることが一番大事だろうという思いがありますので、ぜひ先ほど中村議長がおっしゃっていましたように、そのことを忘れずに頑張ってもらいたいなと、せっかくの美術館ですからお願いしたいなと思います。

それから、インフルエンサーに関しては、取組を一生懸命やっているという報告をいただきましたけど、これまで私も議会で何回か御紹介しましたけど、来年2月には、世界70か国から600人のプロフェッショナル、これ観光ガイドが集まります。開催の総会が福岡市の開催ですけど、これはサステナブルツーリズムのテーマで集まってくると。その現地視察ツアーとして本市にも観光ガイドやDMOの旅行会社の関係者が約200人来北されます。先日その福岡県のいろんな受入れの組織の団体が市長ともお会いしていただいて、市長が非常にこれをすごいチャンスと捉えて、大変前向きになっていただいているっていう話があります。

これに来られる200名は、いかに私たちが準備してお迎えして、本市の魅力を紹介していくかということが非常に大事ですし、最強のインフルエンサーとして、たしかヨーロッパ関係の方たちが200名ぐらい、もう絶対にペットボトルは出せないらしいです、彼らは、すごい意識が高くて。北九州市でいうとアルミ缶のやつがありますよね、北九州の水、あれは100%リサイクルできるから、あれを出すと怒らないそうですけど、余談ですけど、そんな話もやらせていただきました。

ぜひその準備に全力を傾けていただきたいなと、稼げる観光ということで北九州市長も言っていますし、観光ガイドのプロフェッショナルがインフルエンサーとして発信していただけるというチャンスを迎えていますので、特に英語のできるこの都市ブランド創造局の職員はぜひ参加して、直接つながってもらうぐらいの勢いでやって、福岡とか各地に行きますけど、北九州市が最高によかったと思っていただけるように頑張りたいと思いますけど、森川理事、どうでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君）にぎわい担当理事。

○にぎわい担当理事 先日、市長と面会していただきまして、私も同席させていただきました。その後、事務方同士でも話させていただきまして、我々もできる限り支援させていただくとともに、ぜひ観光ガイドの方たちとつながって、今後のインバウンド誘致につなげていきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）なかなかこの機会はないと思います。日本開催も予算の面で一回駄目だったこともあったみたいで、今回、やっと福岡で開催となりました。このチャンスをしっかり大事にして、頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

あとスペースLABOは入場者数が減っているということで、近辺にもいろんな科学館とか施設があります。やっぱり差別化を図っていくとか、もう北九州市しかない、いろんなよさを最大限に売りにしていくことが大事だと思うんですね、周りにはいろんな博物館が集まっています、商業施設もあります、いろんな形で売りながら。

ただ、私はプラネタリウムを、せっかく昔の科学館から移ってきて更新して、一番最初にプラネタリウムを見させてもらったときに、申し訳ないんだけど正直言ってあまり感動しなかったんですよ。もっと最新の技術を使って、見せるものにしてほしいな、動画、動画ちゅうかそういうものにしてもらいたいなという、これは絶対負けないというものをつくってほしいと思うんですけど、課長、いかがですか。

○主査（宮崎吉輝君）科学館普及課長。

○科学館普及課長 委員が御指摘のとおり、プラネタリウムの充実っていうのは科学館としても重要だと思っています。科学館におきましては、常設展、科学に関するところ、それから天文に関するプラネタリウムという2通りの展示がありますけれども、プラネタリウムについ

ては、番組の内容について十分お客様が来ていただけるような内容に充実をしていきたいと考えておるところです。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 岡本委員。

○委員（岡本義之君） 私もプラネタリウムはいろんな質問をさせていただいて、いろんな施設を見て回りましたが、一番よかったのははやぶさが行って帰ってくるという、それをやっていたプラネタリウムがあったんですね。そういった意味では、北九州市は九州工業大学が小型衛星に関してはしっかり取組をやっているということと、北九州空港が、例えば将来宇宙港になるようなこと、海上空港で3,000メートル級で、東に空港が向いているとベストだと言われているんですね。ものづくりの町の北九州市にとっては多分大分よりいいんじゃないかと私は思っていて、宇宙港ができれば、将来的にはニューヨークと東京は1時間以内でつながるという、すごい国際空港みたいな形になるわけですよ。そういった意味じゃ、例えば北九州空港をアピールしながら、九州工業大学のいろんな知恵を借りながらいろんな番組をつくるとか、いろんなことをやったら僕は面白いスペースLABOになるんじゃないかなって思うんで、ぜひ研究させていただいて、もう周辺が参考にして視察がどんどん来るような、修学旅行どころじゃない、各自治体が視察に来るような科学館にさせていただきたい、お金もかかりますけど、ぜひ知恵を絞って、頑張っていたきたいなって思っております。

それと、インバウンドのところで、先ほど世界から来られるという中で、今北九州市の観光を北九州市ちゅうのはこういうものがありますと、この動画を見てもらいたいというのがありますかね、どうでしょうか、これ見てもらえればと。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 一押しの、もうこれだけを見ろと一応ハイライト的な動画っていうのは今現在ではございません、そこは随時アップデートして、いいものっていうのはぜひ近々につくりたいと思っております。

ただ、今、これ見ろって1本だけではないんですけれども、先ほど申し上げたように個人旅行者が増えておりますので、SNSっていうのは最大限活用しながら、しかも動画を、そこは重点的に今年度以降、発信を進めております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 岡本委員。

○委員（岡本義之君） 動画の効果って非常に大きいもので、これまでも議会でも出たと思うんですけど、ぜひドローンを活用して、迫力のある北九州市の観光のアピール動画を作っていて、来年2月の世界から来るときには間に合わんかもしれんけど、ぜひそういうものがあれば、後にインフルエンサーとして拡散してもらえるかと思いますので、ぜひよろしく願いしたいと思います。私は以上で終わります。

○主査（宮崎吉輝君） ほかにございませんか。立山委員。

○委員（立山幸子君） 公明党、立山です。

私からは、本当に今観光に力を入れていると思うんですけども、その経済波及についてお聞きしたいと思います。

宿泊、飲食、交通で地域に経済効果が出ている場所のトップファイブぐらいをぜひ教えていただきたいなと思います。

COOL KITAKYUSHUなどいろんな推進事業をされているんですけども、どうしても私自身も感じますし、周りの方からも、もう小倉を中心についていることが言われているので、こういったことを分散してできないのかっていうこと、また、考えているのかということをお聞きしたいなと思います。

もう一点、ギラヴァンツの事業なんですけど、私の地域に本城陸上競技場があります。ギラヴァンツを最初から応援している方は、ここが聖地になっていると思うんですけども、もっと本城陸上競技場を活用できないのかっていうことをお聞きしたいんですけど。令和6年度にギラヴァンツの試合ってあったんですかね、そこも教えていただきたいのと。

ここから始まったみたいな機運を高めていただいて、もう少し本城陸上競技場を使っていたくのと、また、それに関して課題などがあるんだったら教えていただきたいと思います。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） ここで副主査と交代します。

（主査と副主査が交代）

○副主査（宇土浩一郎君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 まず、観光の消費額等の御質問、それから、分散に関しての視点という御質問がございました。

観光消費額については、今直近で出ておりますのが令和5年次で集計しておるところがございまして、全市で約1,004億円の観光消費額というのを積み上げてございます。

そのトップファイブっていう話があったんですけども、なかなか個別の施設ごととかエリアごとっていうところはあれなんですけれども、大体実感と重なるかと思いますけれども、レトロ地区、小倉城を中心にした小倉都心部、それから、東田と皿倉山、大体そのあたりでございます。それに加えて、平尾台とか、到津の森公園周辺とか、若松北海岸等が若干あるというようなところでございます。

分散に関する視点なんですけれども、確かにそういった観光スポットに偏るという状況はございますけれども、市内全域にまだまだ、特にまだ観光資源として開発、発掘されていないところもございまして、観光消費額の中に含まれるんですが、訪れる方の約7割が出張者というところもございまして。そうなってくると、企業が集積している場所っていうところも1つポテンシャルがあると、消費額拡大に寄与する要素があると思っておりまして、例えば黒崎とかもビジネスホテルの集積もしてございまして、ある程度の出張者というところも訪れておりますので、例えば我々出張者向けに出張の歩き方っていうところで、出張者の方により多くお金を

落としてもらうようなPRをしたりとか、そういったところで積み重ねてまいりたいと思っております。以上でございます。

○副主査（宇土浩一郎君） スポーツ振興課長。

○スポーツ振興課長 ギラヴァンツと本城陸上競技場についてでございます。

まず、令和6年度は本城陸上競技場での試合というのはございませんでした。

その件で、本城陸上競技場も使えないかということなんでございますが、1番にはミクニワールドスタジアムが、ギラヴァンツのホームスタジアムとしてみんなで応援する場として活用しようということで造ったというのが大前提の一つはございます。

もう一つ、じゃあ具体的に本城陸上競技場で試合が可能なのかどうなのか。これは、まずJリーグのレギュレーションの話も1つございますし、その他の要素もございます。

Jリーグのレギュレーションの話でしますと、以前も問題になっていたんですが、放送用のブース、雨、風をしのいで、今御承知のとおり、DAZNが全試合中継ということで、放送用のブースを以前は仮設でお金をかけて無理やりに造っていたんですが、それはもちろん現在は撤去しております。なので、するとなると、そこにブースを新たに造らなきゃいけないということもありますし。

これはスタンドから見ていたら分かりますけども、それぞれのベンチの横ないしどこかには出場選手の表示、選手が入れ替わればそのための表示を入れ替えます。今、ミクニワールドスタジアムはもちろん大きな電光掲示板がありますので、そこですぐ対応ができています。本城陸上競技場にはそういうビジョンがございませんので、新たに仮設でビジョンというのは大変なので、パネルを設置するブースを造ってということでも施設上の問題がございます。

次に、レギュレーションじゃないですけど、施設上、あそこに、今1試合平均5,000人ぐらい、現状、1試合平均5,200～5,300人のお客さんが入っていますけども、どうしてもトイレが足りません。なので、以前も本城陸上競技場の周りにイベントのとき、北九州マラソンでも使えるような仮設のトイレをたくさん並べておりました。もちろん今は身障者用というか、男女兼用のトイレ、そういうものも必要にはなっているわけですが、そういうものも新たにその都度かなりお金をかけて造る必要がございます。

もう一つ、以前は私もよく本城陸上競技場に行っていましたが、アクセスの問題ですね。今のミクニワールドスタジアムの売りは、新幹線駅からも歩いて10分以内、北九州空港に遠くからアウェーのサポーターが来て、直行バスが小倉駅北口までリムジンバスが通っております。これは以前も本城陸上競技場を使っていたときには、黒崎駅ほか複数の場所から、バスを借り上げてシャトルバスを運行しておりました。

そういうもろもろのことがございまして、本拠地としてずっと使うならなんですが、一時的にやるにはちょっと施設、経費的に物すごくかかるなというのを、以前ももちろん検討したことはあるんですが、そういうところで今できていないというのが実情でございます。以上で

ざいます。

○副主査（宇土浩一郎君） ここで主査と交代します。

（副主査と主査が交代）

○主査（宮崎吉輝君） 立山委員。

○委員（立山幸子君） ありがとうございます。

観光地なんですけれども、先ほども議論が出ていましたけれども、漫画とかということは北九州市にとって大きなコンテンツだと思うんで、いろんな場所に聖地巡礼じゃないですけど、そういうのをつくっていただいたりとかして、面白い仕掛けをすれば、もっと北九州市を挙げて漫画を推していくというようなことがあっても私はいいんじゃないかなと思っております。

ギラヴァンツ、本城陸上競技場もいっぱい課題はあると思うんですけれども、無理してでも1試合、2試合ぐらいは本城陸上競技場にも来ていただきたいなっていう、また、あそこで地域のにぎわいづくりをしていただきたいなということで要望させていただきます。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 午前中僅かな時間になりましたので、ここでしばらく休憩とします。再開は午後1時とします。

（休憩・再開）

○主査（宮崎吉輝君） 再開します。

休憩前に引き続き質疑を行います。質疑はありますか。松岡委員。

○委員（松岡裕一郎君） よろしくをお願いします。

それでは、令和6年度のうち、体育館の改修事業でPCB関連予算から空調がかなりついておりますが、これ市内の体育館の冷暖房費の収入は幾らかということと、もし分かれば体育館別の内訳、あと体育館によっていろいろ違うと思う、冷暖房の料金体系と徴収方法について、まずはここから。

次が、都市間競争に勝ち抜く大規模改修の整備についてということで、本会議でも質問させていただきました。MICE施設の老朽化というところで、北九州国際会議場は早期に計画を立ててすべきじゃないかと思っております。そういった中で、令和6年度国際会議場における学術会議の開催実績、ICCA、通称イッカと呼ばれていますが、これの厳しい基準での開催、JNTOの基準においての開催実績とそれに伴う経済効果、市内経済、国内経済をどのように分析しているか。

また、午前中にも自民党、吉田委員からもありました稼ぐ観光に向けた観光データの活用基盤事業について、エビデンスに基づく事業を新規でやり始めたということではありますが、MICEに対する評価についてはどのようにお考えか。

全国の国際会議を開催する会議場が各地で改修が終了、もしくは改修中、また、今後、計画があるというのが他都市でありましたら、できるだけ数多く教えていただければと思います、他都市の状況です。

そしてそれに伴い、北九州市国際会議場の改修計画、スケジュールについて教えてください。

また、Wi-Fi機器や様々なプロジェクターの最新鋭化、こういったものが必要じゃないかと私は思っておりますので、よろしくお願いします、その辺の考え方ですね。

今後の課題について、X方針にも小さい字で書いておりましたけども、売人、MICE人材の育成というのが課題になっているということで、小さい字で読みにくかったんで読み解きまして、50代に偏って、中堅の人が多くて、若手のスタッフが少ないということでありました。こういった人材育成についてどのように、今後、お考えか。

あと、資格です。国際資格CMP、サーティファイド・ミーティング・プロフェッショナルの資格保有者はどのぐらいいらっしゃるのか、まだいないのか。

最後に、大項目として、都市ブランド全体の決算として、予算決算に合わせて施設管理費はどのぐらいの決算額か、X会議で都市ブランド予算のうち85%が施設管理費で使われているという、ひいては、今後、ソフト事業にも支障を来すおそれがあり、今後は民間活力も考えないといけないとソフト事業ができないみたいな課題があるとX会議で小っちゃい字で書いていたけど、私は読むことができました、公開ページで。これに対する決算額、そして、今後の考え方がありましたら、ぜひ御答弁いただきたいと思います。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 体育館の空調設置に関しまして2点御質問のことについてお答えいたします。

まず、エアコンの収入の実績ということでございます。

使用料の収入に関しましては、あくまで全体の施設使用料を含めた形での決算の数字になってございます。その中で、私どもはエアコンに特化してどのくらいのお金がかかっているのかっていうところは、まだ丸1年たっていないんですが、推計で今手元に数字がございまして、昨年度、空調設置して稼働を始めた主なところで、先ほどPCBの事業でということのお尋ねでございましたので、若松体育館でいいますと、夏場の7、8、9の3か月、これは対前年比で比較して増えた分がおおむねその空調の部分だろうということの予測の下で比較しますと、差額でいいますと、前年比でおおむね100万円程度が夏場3か月の対前年比で、これは光熱水費の支出ベースでございまして、内訳としましては、電気とガス両方合わせた光熱水費の支払いベースの数字でございまして、ただ、あと補足しますと、若松体育館は屋内プールと複合施設になってございまして、体育館だけ、プールだけっていう形には光熱水費の支払い上になってございませんけども、夏場は温水プールのボイラー、加温はあまりやっておらないので、夏場の対前年比で増えた分はおおむねエアコンの増えた分だろうということで、推定値でございまして、おおむね100万円程度がその実績としてはかかっているということで、体育館の規模は多少違いはございますが、大体近いところに傾向としてはなっているんじゃないかと思っております。まだ丸1年稼働しておりませんので、今年度つけている分も含めて、今後、私たちも少

し数字は追っかけていきたいなと思ってございます。

それからもう一点、料金体系、料金設定、徴収のことのお尋ねでございます。

まず、料金の設定につきましては、基本的に設備使用料につきましては、施設使用料とは別に、利用者の負担で使っていただくということで、30分単位で基本的には料金設定をしてございます。これは規則で定めてございます。

例示でございますけれども、例えば若松体育館でございますけれども、30分料金で2,010円というのが30分単価でございます。これが基本にはなりますが、体育館の利用実態の中で、例えばバドミントンとか競技の関係で体育館の空調全部を稼働しなくてもいいというような声が利用者とかから過去にございまして、今回、規則で定めるときに、2分の1以下の部分稼働、半稼働というところも負担を少し軽減といいますか、実態に近づけるということで、先ほど申し上げた30分単価の2分の1というのが規則でもう一つ補足的に定めてございます。基本的には、これをベースに料金徴収を、利用者の意向に応じてということになります。やっているところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） M I C E ・メディア芸術課長。

○M I C E ・メディア芸術課長 M I C E の開催状況についてお答えいたします。

まず、昨年度のM I C E の実績件数ですけれども、289件でございます。

それから、J N T O 認定の会議の数ですけれども、これ2024年はまだ発表になっておりませんで、2023年が45件で日本国内で9位となっております。

それから、経済効果は、先ほどのM I C E の開催件数289件に対応するものですが、市内においては97億円となっております。

それから、M I C E への評価でございますけれども、M I C E はコロナ禍で、特に令和2年頃には大きく落ち込んだんですけれども、近年は回復傾向にございまして、コロナ前の状況にかなり近づいてきた状況でございます。

特に、先ほど委員からも御紹介がありましたけれども、国際会議協会、I C C A の発表したランキングで国内6位に、これは最高位なんですけれども、ランクインするなどの成果を上げているところでございます。

それから、他都市の状況ですけれども、市内経済効果が97億円で、市外も含めると273億円となります。

それから、近隣の会議場施設の整備状況でございますけれども、比較的新しいもので申し上げますと、愛知国際会議場、こちらは2019年に開業、それから、アクリエひめじ、こちらが2021年、それから、会議場とはちょっと違うんですけども、アリーナですが、S A G A アリーナが2023年5月、それから、出島メッセ長崎、こちらが2021年11月でございます。

それから、国際会議場の改修スケジュールでございますけれども、この会議場単体で考えるのではございませんで、小倉駅新幹線口、様々なコンベンション施設がございまして、これらを一

体的にどうするのか、デザインを決めた上で個別具体の検討に入ってまいりたいと考えております。

それから、M I C E人材の育成のところでございますけれども、実務を担う北九州観光コンベンション協会は、御指摘のとおり、かなり高齢化が進んでおります。プロパーの平均年齢は50歳を超えているような状況でございます。こうしたことに鑑みまして、今後、新卒採用、あるいは中途採用、比較的若い人材を入れられるような体制を構築したいと考えております。

それから、資格の保有者の人数ですけれども、こちらについては把握はいたしておりません。

それから、W i - F i 設備や最新のプロジェクターの設備につきましては、御指摘のとおり、国際会議場は建設から35年が経過して、各種老朽化したり陳腐化したりとかといったことがございます。そのため、北九州市としても、他都市に後れを取らないように、国際会議場の大規模改修、将来的にはなりますけれども、これを視野に入れながら、利用者のニーズや民間事業者の意見を丁寧に聞きながら、実効性ある整備手法を検討していきたいと考えております。

施設管理の決算額とか予算額なんですけれども、まとめた資料はございません。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 総務課長。

○総務課長 決算における施設整備費でありますとか維持管理の費用について御説明させていただきます。

令和6年度決算におきまして、都市ブランド創造局所管の施設整備や改修、維持管理等に係る経費が約79.5億円あります。これは、全体決算額が101.3億円でありますので、約8割が施設管理、整備に係る費用という形になっております。

そのため、所管でやりましたけれども、令和6年度市政変革のX会議におきまして、文化振興策、それから、スポーツ振興策、それぞれ2事業を取り上げてX会議で議論させていただきました。その中でも、文化施設につきましては、民間活力導入に関する検討を行わせていただきましたほか、スポーツ施設につきましても、施設の集約化でありますとか、多機能化の方向性について検討を行うなど、経営分析をさせていただいたところです。

また、令和7年度、今回公表もさせていただいておりますけれども、局のX方針につきまして、こちらも施設の在り方について調査検討をこれから行うこととしております。

こういった市政変革にも取り組みながら、これから様々な事業を展開するためにソフト事業も充実させていきたいと思っております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 文化企画課長。

○文化企画課長 最後のX会議、文化振興に関する議論もさせていただきましたので、そちらの御説明を少しさせていただきたいと思います。

施設は、文化施設に限っていいますと、改修ですとか維持管理費、こちらが約9割ぐらいかかるようになっておりまして、確かにソフト事業に注げるところというのは少なくなっているところがございます。

昨年、X会議の中で我々もいろいろ振り返りをいたしまして、施設の中でもアンケートを取りましたり、例えばすぐにできるような改善、美観の改善ですとか、案内板の分かりやすいユーザー目線に立ったような見直しというのを昨年度行ってきていたところでございます。

今年度につきましては、民間活力をいかに活用して、皆さんに愛されるミュージアムになるかというような議論を重ねるために、今年の夏にそうした外部有識者の会議を立ち上げたところございまして、また、美術館や漫画ミュージアム、スペースLABOにつきましては、その部会としまして、実際現場で働くスタッフや学芸員なども入った部会も立ち上げておりますので、その中でしっかり下からボトムアップという形でいろんな議論を進めていきたいと思っておりますし、どんな形で民間活力を導入できるか、そして、魅力をアップできるかというような視点でしっかり議論したいと考えております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 松岡委員。

○委員（松岡裕一郎君） 残り時間は公明党で幾らでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） 30分です。松岡委員。

○委員（松岡裕一郎君） ありがとうございます。あとちょっともらいます。

エアコン代ですけども、実は小倉北体育館の徴収方法で今いろいろ規則で定めていて2分の1稼働しているところがあるということで、小倉北体育館が、例えば卓球で入っているところが先に入って、バドミントンが後に入って、要は先に入って冷房を入れるんですけど、バドミントンの人たちは冷えているんで、私たちは要らないと、要は払わないと、払う人と払わない人が出てくる、こういう不公平感が実は出て、その都度是正を求めていた、指定管理であるんですけども、規則だから条例じゃないからそこの辺はあるんですけども、これ不公平感が絶対あってはならないんですよ、払う団体と払わない団体。しかし、これは是正をしていっているんですけど、なかなか現場は、たしかスポーツ振興課にお願いしたけども、どうなんですかっていったら、いや、全然変わっていないと、払う人と払わない人が出てくる、この点について見解はどうですかね、こういう不公平感について、徴収方法は考えたほうがいいんじゃないんでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 委員の御指摘のお話も、私も直接委員からもお話を受けております。基本的には、今一部といいますか、小倉北体育館というお名前が出ましたので、あえて小倉北体育館でのお話になりますけれども、各体育館、施設ごとで、基本的には共用利用ということで、卓球であり、バドミントン、そういった複数の団体が同時に利用する形を、できるだけいろんなニーズに応えようということで工夫しながらやっていってございます。その反面、小倉北体育館ではちょうど卓球だけということならそういったことは起こっていないとは思いますが、卓球とバドミントンという競技が違う、特にバドミントンの場合は、先ほども少し別件で私触れましたが、どうしても羽根の影響で、エアコンがなくてもいいんだっていうよ

うな、利用者がもう要らないっていうところをどうしても言われて、体育館もなかなか強制的についていうところが今の運営上、少しやりにくいところもございまして、そこら辺は公平性をどう保つかっていうのは、料金徴収というのはもちろんあるんですが、共用利用のときに、例えば違う種目は無理やりあまり同時に使わないようにするとか、そういう利用者のニーズのことも含めた検討が必要ということで私どもは受け止めてございます。御指摘のところは十分私どもも理解しておりますので、できるだけそこは不公平がないように、工夫を続けて、検討していきたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 松岡委員。

○委員（松岡裕一郎君） 実務のところでは少し不公平感が出ていますので、市の職員と私と立ち会って、現場に行って、徴収方法はどうか、検討していただいて、条例じゃないので、規則で変わるのであれば、不公平感のその是正を市として努めないと、これは非常によろしくないと思っていますんで、これは要望と今後の課題とさせていただいて、ぜひ一緒に行っていただければと思います。

M I C Eについては、様々言いたいことがあるんですけども、まず、答弁漏れがあるんじゃないかと思っていますが、午前中、1,600万円、吉田委員から、稼ぐ観光に向けた観光データ活用基盤事業でM I C Eの評価はどのように考えて、出ていますでしょうか、出ていなければあれですけど。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 すいません、事務事業としての稼ぐ観光に向けた観光データ活用基盤整備事業においては、M I C Eの評価というのは特に個別に行っているものではございません。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 松岡委員。

○委員（松岡裕一郎君） ぜひこういうエビデンスに基づくデータ事業であれば、やはりM I C Eの宿泊人数、人数は出ているんですね、金額です、金額も把握して、何泊しているとか、データを積み上げていくために、ああ、ここは私本会議で言いました、観光庁と国のデータでは5倍から7倍って出ているんですね、普通の一過性の、これ市も持つておくべきなんですね。せっかく1,600万円も予算つけているんなら、事業ごとにM I C Eは金額が出ています、だから、予算要りますっていうデータになるはずなんです。これを1,600万円も使って、ここまでやっていないというのはちょっとどうかと思いますので、しっかりここはエビデンスに基づく評価になると思うので、ぜひよろしくお願いします。

会議場の整備ですが、福岡国際センターとかは来年から改修に入ったり、福岡の国際会議場はもう終わっていたり、マリンメッセも2026年から2か月間休館して改修工事、もう福岡が整備を終えるなり対策を立ててきているんですね。だから、北九州市がM I C E要らないよっていうのであれば福岡に全部任せればいいんですけど、私はそうじゃないと思っています。

せっかく6位まで行って、経済効果が97億円、273億円まで実績が出ているのであれば、ここに予算を投入して改修をしなければ、全部福岡に取られてしまうと、こういう危機感であります。今後、有識者で検討するということではありますが、さっきも最後に聞いた全体の約8割、施設管理費に取られているということでもありますので、このところもあるかと思うんです。早く計画を立てなければ、福岡市、他都市にも全部誘致は取られてしまいます。ぜひとも問題意識を持ってしていただきたいと思いますが、森川理事から一言いただけませんか。時間がない、ごめんなさい。

○主査（宮崎吉輝君）にぎわい担当理事。

○にぎわい担当理事 委員おっしゃるとおり、MICEの1人当たりの消費額というのは非常に大きいものであります。新幹線口のところのMICE施設がかなり老朽化してきていますので、他都市との競争の中ではそこは強化していくべきだと私自身も思っております。

ただ、全体観というところもありますので、まずはできるところからやらさせていただいて、全体をどうマネジメントするかというところも併せて、これはもう都市ブランド創造局だけではなくて、他局にまたがりますので、そこも進めさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君）小松委員。

○委員（小松みさ子君）2点お伺いさせていただきます。

映像製作誘致強化関連事業ということで、北九州市は映画の町ということで発展をしているということなんですけれども、今回、誘致をしたことよっての経済効果を教えていただきたいというのと。

この事業に関して、誘致をして撮影をされるときとかに、地元の高校とか大学、また、専門学校生の方たちと連携をして、映像教育とかのためにそういうのも使われているのか、活用されているのかということ。

また、市民の皆さんとか観光客の方たちに、北九州市が映画の町ということを認知をしていただくために、ロケ地マップとか、マップなのか、また、デジタル情報発信なのかあれですけど、そういうこともしているかを教えてくださいませんか。

あともう一点、市内周遊クーポンの内容と実績を教えてください。以上です。

○主査（宮崎吉輝君）メディア芸術担当課長。

○メディア芸術担当課長 映画の誘致に関する経済効果についてお答えいたします。

令和6年度は、支援作品数が、映画、ドラマ、CMなどを含めまして全部で46作品ございました。市内における経済波及効果ですが、おおよそ1億2,000万円と試算しております。

続きまして、教育面への還元ということなんですけれども、昨年もロケの支援の中に、「カラダ探し」という映画がございまして、そちらは西南女学院高等学校に全面的に協力していただいております。ひびき高等学校とは、映画の上映会等をフィルムコミッションで公演したり、

共催したりして、映画の町北九州市というものを若者世代にも知っていただくという取組を行っています。これは今年度も行っております。

そして、あと市民や観光客について、映画の町をどのようにPRを広めているかというところなのですが、まず、観光客に関しましては、門司港に松永文庫という施設がございまして、そちらは全国でも有数の、紙の資料になりますけれども、映画の資料が6万点以上ありまして、年間の来館者数が約8万人とかなり多く来館いただいて、そこで映画の町北九州市の歴史のパネルとか、今までの支援作品の一覧とかを展示してございますので、そちらでの広報等を行っています。

ロケ地マップにつきましては、小さい冊子型のものを作成しておりまして、そういった松永文庫での配布ですとか、各市民センターですとか、公民館とかに出前講演の申込みが年間20件以上ございまして、そちらに参加される方にロケ地マップの配布、出前講演では約1時間、フィルムコミッションの取組ですとか、映画の町北九州市についての講演をさせていただいているところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 周遊クーポンについてお尋ねがございました、その実績についてお答え申し上げます。

こちらは、外国人観光客の周遊促進事業の一環としてウエルカム北九州キャンペーンというものを令和6年度に実施いたしました。具体的な実施期間としては令和7年1月から2月にかけて行いまして、1人当たり電子クーポンを付与しまして、500円から上限5,000円で、使える施設は市内で531店舗、飲食とか、お店とか、商業施設を含め、そういったところで利用可能というような立てつけでございます。

配布場所は、インバウンドの窓口ということで、福岡空港国際線ターミナルとか、小倉駅の総合観光案内所、博多駅などで配りまして、実績としましては、最終的に配布枚数、これがいわゆる配布人数と読み替えてもよろしいかと思いますが、1万2,741枚、そういったところでございまして、利用金額は最終的には3,491万6,817円と約3,500万円の利用が市内の関係するお店であったというところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 小松委員。

○委員（小松みさ子君） ありがとうございます。多分もう時間がないので、要望で終わりたいと思います。

映画の町で若松出身の方が今撮影をされているんですけれども、もっともっとPRをしていただいて、午前中に立山委員からもありましたけど、聖地巡礼みたいな、ロケ地ツアーみたいな形のそういうのも企画をしていただくのもいいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 金子委員。

○委員（金子秀一君） 私からは、修学旅行の件で、令和5年から令和6年の人数の増減を教えてください。いただければと思います。

2点目に、スペースLABO、午前中からも議論があっていましたが、企画展について、令和6年度で一番参加者数が多かった企画を教えてください。と思っております。

3点目が、これは都市ブランド創造局でいいのかどうか教えてください。んですが、ホテルの誘致、特に観光系のホテル、これ都市ブランド創造局なのか、産業経済局なのか、どちらなのか教えてください。と思っております。

4番目が、松本清張記念館の件です。

令和6年度調査号を見ましたら、入場者数が減っているなどと思って、理由があれば教えてください。

5番目は、皿倉観光です。

これ皿倉観光も調査号の見方が分からないので、令和5年と令和6年の数を教えてください。と思っております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 修学旅行の実績についてお答え申し上げます。

令和5年度がトータルで6.4万人、令和6年度につきましては6.8万人ということでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 科学館・スペースLABOの企画展についてお答えいたします。

令和6年度の特別企画展の開催回数については2回開催しております。1つは、夏休みに合わせて、クレヨンしんちゃんの企画展を行っております。こちらは来場者数が2万1,000人を数えております。

もう一点は、年明け1月から2月にかけて、これは無料の企画展でありましたけれども、星の風景写真展というのを開催しております。こちらは期間もちよっと短かったのもありますけれども、2,000人ほど入館を記録しております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 総務課長。

○総務課長 ホテル誘致の所管につきまして、都市戦略局になります。

○主査（宮崎吉輝君） 松本清張記念館事務局長。

○松本清張記念館事務局長 松本清張記念館の入場者数についてのお尋ねにお答えいたします。

令和6年が2万6,682人ということで、前年と減少しているということですが、近年の実績からいきますと、令和4年が2万7,396人、令和5年が2万9,143人ということで、我々としてはPRをしながら増加をしていくということで取組を進めているんですけれども、やはり年によって少しばらつきがあるということで、昨年度は残念ながら減少しております。

ただ、これが特にこれといった何か理由があるのかということではございますけれども、例年の誤差というか、違いがございますので、減少につきましては特にこれが原因だというのは、すいません、ちょっと理由ははっきり分からないところです。

○主査（宮崎吉輝君） 観光課長。

○観光課長 皿倉観光について御答弁いたします。

令和5年度の実績ですけれども、ケーブルカー、スロープカー合わせて、延べ人数になりますが、まず、ケーブルカー、令和5年度は23万7,000人、スロープカー21万3,000人、計大体45万人ほどが令和5年度の実績になります。

令和6年度、こちらはケーブルカー約29万人、スロープカー26万人、計約55万人という実績になります。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 金子委員。

○委員（金子秀一君） 残り時間がありますので、まず、修学旅行に関しましては、私も質問させていただいて、探求学習ということで、3月にホームページもリニューアルさせていただいて、SDGsの2.0ということで、今学び方が変わって、北九州市に行けば、自分が3年かけたり、中学生か、高校生か、その期間で学びたかったものが分かるような、何かそういった仕組みを今つくっていただいているんだろうなと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いをいたします。

ホテルの件は承知しました。でも、修学旅行の件とかでホテルが足りないなとかという声は都市戦略局に一応情報の共有というのは大丈夫ですか、されているんでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 そこは連携して、共有しております。

特に修学旅行については、午前も申し上げましたが、スペースワールドと八幡ロイヤルホテルのセットというのがかなり強かったものですから、いわゆる大箱のホテルというか、大人数が1部屋に泊まれるようなホテル、そのあたりっていうのは、修学旅行の視点からいうと欲しいなというところは絶えず声として上げております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 金子委員。

○委員（金子秀一君） ありがとうございます。

スペースLABOについて、企画展は2回しかないんですね、もうちょっとされているのかなと思いました。

1点お聞きしたいのが、事前予約だと思います。これはデジタルに弱い方とかの入場についてはどのように対応されているんでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 スペースLABOについては、予約優先制としております。当日券も窓口に来ていただければ入館の枠というか、人数制限というのを今予約で設けておりますので、そ

の中で可能な限り当日の受付窓口で発券ができるようになっておりますし、そのように現状ではなっております。説明を終わります。

○主査（宮崎吉輝君）金子委員。

○委員（金子秀一君）ありがとうございます。

夏休みとか、あと突然お休みになって、スペースLABOへ行ってみようというって、当日、ああ、すいません、事前予約で今いっぱいなんで入れませんつって帰ったとか、あとじいちゃん、ばあちゃんがちょっと行ってみようかと行って、事前予約なんですよっていう話で、何度か分からず帰ったっていう話も聞いております。ぜひそのところもうちょっと、前も質問させていただいたと思うんですけども、御対応いただければと思いますので、よろしくお願いします。

松本清張記念館につきましては、司馬遼太郎記念館に実は行ってきまして、見てきました。施設はやはり松本清張のほうが立派だなと思いながら、話を館長にいろいろ意見交換をさせていただく中で、市民の皆さんに愛されている館、別に松本清張記念館が愛されていないわけじゃないんですが、ただよりもっと地域、市民と一緒にこの司馬遼太郎記念館を守っていこうという雰囲気があるなと感じました。

具体的には、毎年2月12日に、司馬遼太郎の命日ですね、司馬遼太郎が好きだった菜の花を町中に植えて、司馬遼太郎記念館に来る方々をおもてなしするとか、そういった何か市民を巻き込んでの、もちろん作風もありますけれども、そういった取組もされているなと思いながら、もちろんされてはいるんでしょうけど、もう小倉城に一体化した施設がゆえに、どこにあるか分からないとかという声も何か聞くとか、聞かないとかというお声も聞いたりしますので、もう少し一歩出た市民との協働というか、もう少し検討していただければなど。もちろん話題となった映画とかドラマとかがあったらまた増えるんでしょうけど、そういう市民の皆さんと共に何か考えられるような取組というのもぜひ御検討いただければと思います。

最後に、皿倉観光、夜景観光ですが、ありがとうございます、ケーブルカー、あとスロープカーということで、今年は増えているということで良かったです。

2点ありまして、1点目は函館の夜景を見に行ってみまして、はこだてみらい館という子供の施設と少しあれなんですけど、北九州市の平和のまちミュージアムの中にあるような360度のモニターで、函館山頂上から見る夜景が見れるんですね、四季折々の。実際見に行くのにこんな必要なんかなと思って行ったんですが、事前に見ると、上に上がったならあれがあるんだ、見てみたいなっていう感じにもなりました。

なので、質問なんですけど、北九州市にこういった小さいものじゃなくて、あつ、この夜景なら見に行ってみたいなみたいなもの、上にどうぞ来てくださいじゃなくて、下にいながら上を、あつ、ここへ行ってみたいと思えるような場所っていうのはどこかにあるかどうか、聞かせていただければと思います。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 マストでここだっていうところは今のところございません。最近までJAM広場、3大夜景という形で大きくグラフィックをやっておりましたけれども、今そういった形でサイネージというか看板という形ではやっておりますけれども、そういったいわゆる物理的な看板っていうところではやっていないという状況です。

ただ、連続サイネージで結構空撮の絵とか、そういうところは随時流している、そういった状況でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 金子委員。

○委員（金子秀一君） ありがとうございます。

私がここへ行ってみてみたいなって思えるような仕掛け、いいけん一回行ってみらんねっていうよりも、一回行ってみようかなっていうような仕組みをぜひしていただきたいのと。

最後に、函館はP a y P a yが使えたんですね、ロープウエーが。チケットをなくすというハプニングもありましたけれども、そういった電子マネーの対応というのはどうなっているのでしょうか、お聞かせください。

○主査（宮崎吉輝君） 観光課長。

○観光課長 観光施設の入場の際のクレジットカード対応であるとか、あとは国内のQRコード、交通カードっていうのも非常に集客面でも、お客様も多様化していますので、重要だと思っています。令和5年度に市内の観光施設、文化施設、主要なところにはクレジットカード対応、P a y P a y等も含めた、中国のアリペイなど、そういったものも対応できるような形にしていまして、皿倉もその対応施設の一つとなっております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 金子委員。

○委員（金子秀一君） 失礼しました。対応をケーブルカーもしているんですね、承知しました、ありがとうございます。皿倉観光は北九州市にとって魅力の一つであろうかと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。私からは以上です。

○主査（宮崎吉輝君） ほかにございませんか。山田委員。

○委員（山田大輔君） お疲れさまです。市民とともに山田でございます。よろしくお願いいたします。

私からは、数が多いんですけど、質問させてもらいます。

金子委員とかぶるんですけど、まずはスペースL A B O、科学館のお話から行きたいと思います。

先ほど答弁があったとおり、令和4年が51万で、令和5年が40万、昨年度が34万弱だったということなんですけども、これの減ってきた要因分析を、先ほどの最初の出がいいよ以外のほかに減った原因分析があれば教えてください。

それに伴いまして、市内の小・中学校からの利用、先ほど市外の学校は223校でしたっけ、と

いう話だったんですけど、市内の小・中学校からの利用は何校ぐらいあって、何名ぐらい来ているのか、教えてください。

先ほどあったとおり事前予約制、時間に区切って1時間前までみたいなことはホームページにも書いてあるんですけど、先ほど金子委員がおっしゃられたとおり、雨が降って急に行程がなくなって、ぽっと出で行きたいとかになったときとかにずっと行けないっていうのはどうなのかなと思うんですが、いまだ予約制なのは何か、先ほどの人数制限以外に要因があれば教えてください。

今後、もし予約制ではなくて、対面で来たときにということが可能であるならば検討の余地があれば教えてください。

子供と大人の割合及びプラネタリウムの利用者、多分これは本館に入らないとプラネタリウムは利用できないので、本館に入った後にプラネタリウムまで行った人がどれぐらいいるか、教えてください。

多いですけど、続いてKGG、北九州グローバルゲートウェイが、ごめんなさい、北九州市の皆さんが管轄なのかどうか分かんないんですけど、基本スペースLABOとセットで行っているところが多いと思われます。開館してからもう4年目を迎えるかと思うんですけども、今小学校から行っているところがあるのかどうかと、利用状況がもし分かれば教えてください。

続いて、観光系に行きます。

西日本・九州ゴールデンルート構築事業なんですけれども、いろんなところで言っていますが、関西空港で降りたら広島まで、福岡で降りたら福岡から下のほうに落ちていっているということで僕は見えています。そこを北九州市に呼び込みたいと思うんですけども、昨年度のインバウンドの状況について、都市ブランド創造局としてどのような実績があって、どのような課題を持っているのか、これは西のゴールデンルートも含む全体像でいいので、総論として教えてもらいたいと思います。

観光から離れて、体育館の空調に行きます。

今度、所管は違いますが、この間、小倉北体育館に参議院選の開票立会人で私と木畑委員長と小倉北区は一緒にいて、本当に寒いぐらい冷えて、なかなかいい空調が入ってんだというのはすごく体感させてもらいました。

先ほどあったように、バドミントンやったり、卓球だったり、空調の風が影響することによって、先ほど払う払わないという話がありましたけれども、今入っている体育館の中で、空調システムとしてどういうタイプを入れていて、今度教育委員会がパイロット事業として入れようとしているものに関して、そのエビデンスを共有しているのかどうなのかというのがあれば教えてください。

私は先日、いのちのたび博物館のアーバンネイチャーのイベントに行かせていただきました。先ほど中村義雄委員からありましたね、雨漏りがすごいということだったんですけど、いのち

のたび博物館も、あれだけの高さのある建物にして、1階にあるホールの物置といいますか、のところがもう床が抜けそうならいふわふわしていたというところで、これはちょっとした簡易修繕ではもう無理だなというようなものがあつたんですけども、そのあたり博物館、美術館を含め、どのように集約されているかを教えてください。

最後に、また観光に戻ります。

地球の歩き方ができて約1年半がたちました。今出張の歩き方も出ております。森川理事のパソコンにも地球の歩き方を貼っておりますので、私も貼っていますけれども、昨年度の観光に地球の歩き方ができて、こんだけ観光客が増えたぜみたいな何かものがあつたりとか、場合によっては、どこどこの店舗、どこどこの施設、こんだけ150%、200%の来客数になりましたみたいなものがもし成果としてあれば教えてください。

修学旅行のホテルの関係を聞こうかなと思いましたが、さっきお話があつたので、そこは皆さんと一緒にいろんなもので頑張りたいと思います。

すいません、ちょっと多いですが、お願いします。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 スペースLABOに関しましていただきました質問について御回答申し上げます。

まず1点目、スペースLABOへの入館者数の減少の要因についてということで、先ほど御答弁申し上げたように、初年度は計51万人、2年目が40万人、3年目が34万人といった傾向にございます。こういった減少の大きな理由としては、特別企画展の企画内容、それからプラネタリウムの番組の内容、こういったものに大きな影響を受けているという点、それから科学館にはアネックス、分館がございますけれども、こちらで大きなイベントを年間2回ほど開催しております。こちらはイベント事ですので、どうしても年度ごとの流動的な要因というのはございますので、そういったところが減少の要因の一つであります。

それとあと常設展についても、午前中ちょっと申し上げましたけれども、展示物自体は2～3年で変わるものではありませんので、いかに付加価値をつけていくかというところの取組をしております。どうしても目新しさというのは減少していきますけれども、そこにいかに工夫していくかというところで対策をしていきたいと思っております。

特別企画展も、先ほど御説明したように年2回ほど開催しているところですが、どうしても長期の休暇の間、要は夏休みの間が長期間開催できて、多くの方に来ていただける、動員ができるというところで1つ大きな企画展をしております。そのほかは、どうしても連続した休暇、学校がお休みとか、そういった時期に合わせて開催をしておりますので、そういったところで大体年2回ほどしております。

プラネタリウムの番組については、コンペで内容については決めておりますけれども、毎年提案いただく内容は工夫していただいているところでございます。

今までの、今開館4年目になりますけれども、入館者の推移についての理由は今申し上げたとおりでございます。

続いて、市内の小・中学校の利用についてです。

令和6年度の市内の小学校が356校、人数が1万7,248人、市内の中学校が35校、2,416人、市内の高校が7校、804人となっております。集計が今手元がないのであれですけど、人数については合計で2万470人、学校数については500と少し、すいません、手元で数字がありませんので、そういった実績になっております。

続いて、事前予約制についての答弁をさせていただきます。

先ほど申し上げたように、事前予約優先制ということにしております。基本的にはインターネットを介して事前の予約をいただいているところです。どうしてもスペースLABOの管内は手狭というところもありますので、当初、ある程度科学体験を充実させたいという思いも強かったので、あまり人が多く入ると、実際に手を使つての科学体験っていうのがなかなかしにくいだろうという想定の下、人数というのを設定してあるとなっております。

ただ、今のところ、現状で考えると、常設展、それからプラネタリウムが別々の予約制度になっておりますので、プラネタリウムについては座席数、それから、1日の投影の回数、1日5回ございますけれども、そういった回数と席数、それから座席もリクライニングが横になるようなシートもございますし、カップルシート、ペアシートというのもございますので、そういったことでシートを選ぶっていう利点もありますので、予約制というか、座席を確保するという意味では必要かなと私的には思っております。

ただ、常設展については、今館内が混雑して、実際に科学体験がなかなかしにくいという状況ではありますので、常設展については、これからの検討になりますけれども、予約制なしでも十分に科学館を楽しんでいただけるようになるのではないかとということで、これから検討を進めてまいりたいとは思っております。

続いて、子供と大人の割合について御説明いたします。

令和6年度については、科学館全体で属性というのが把握がなかなかできておりませんけれども、常設展、プラネタリウムというのは料金体系でそれぞれ属性についての料金が設定されておりますので、常設展示とプラネタリウムに限定させていただくと、大人が40%、小学生が23.2%、中・高生で4.9%、未就学児で12.2%というふうな割合になっております。

続きまして、プラネタリウムの利用の人数ということになりますが、先ほど御説明したように、事前予約優先制ではありますが、常設展とプラネタリウムは別々で予約というか、入館ができますので、プラネタリウムについては、令和6年実績で12万9,110人となっております。

以上で私からの答弁を終わらせていただきます。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 観光に関する何を何点か御質問いただきましたので、順を追って回答申し上げます。

これは直接の回答ではないんですけれども、北九州グローバルゲートウェイにつきましては、市内の小・中学校利用者については我々の局では把握できていないというところがございますが、修学旅行、当然アウトレットの隣接地でもありますし、スペースL A B Oと同様、開設以降、修学旅行っていうのは一定数受け入れておりまして、好評をいただいているところがございます。

それから次に、西のゴールデンルートに絡みましてインバウンドの状況というところもございますけれども、本年、外国人観光客数につきましては、コロナ以降、回復基調にございます。トレンドはあまり変わってなくて、これは北九州市に限らず、福岡都市圏、九州同様なんですけれども、アジア圏を中心に構成割合というところはほぼ変わっていないという状況です。

西のゴールデンルートで何とか今東京から来て関西止まり、よくて広島止まりの特に欧米豪を中心にした観光客、何とかそこは連携の力を生かして、西に足を延ばしてもらうよう鋭意取組を進めているところがございます。

次に、地球の歩き方とか、出張の歩き方についてのお尋ねがございましたけれども、幸い地球の歩き方につきましては、あの分厚さで非常に好評を博しまして、3万部の初版が増刷になりました、最終的に7万部出ました。こちらは観光客に訴求するということもありますけれども、改めて市民の方々にこの町の観光のポテンシャルというところを周知、認知いただく一つの契機になったものと思っております、結局最近のトレンドとして、観光客、口コミ情報って非常に信ぴょう性が高いということで、地球の歩き方を見た市民が、知人とかが来訪したときにその冊子が非常に役立っているという話は伺っております。

派生して、今年、出張の歩き方っていうところを出張者に特化して出版というか配布しておりますけど、こちらもち版3万部を刷ったんですが、立ちどころにビジネスホテルとか、スターフライヤーとかと連携して配ったんですが、なくなりまして、4万部をこちらもち増刷しております。こちらもちかなりいわゆる観光情報雑誌では載っていないような、かゆいところに手が届くような商業施設、グルメなどが載っておりますんで、こちらもち非常に好評をいただいております、この7万部刷ったものもち既に在庫が尽きつつあるっていうような状況にございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） ここで副主査と交代します。

（主査と副主査が交代）

○副主査（宇土浩一郎君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 体育館の空調整備についてお答えいたします。

まず1点目、空調のシステムのお尋ねでございます。

私どもは、今回、既存の体育館に後づけで設置しておりますのは、空気を冷やしてエアコンとして使うということで、空冷式のパッケージ型エアコンというものでございます。熱源に関してはガス方式のほうが経済比較で有利ということで、ガスの方式を採用してございます。

2点目の、今回、学校の体育館、教育委員会が今後、検討するっていう動きになってございますけども、以前から教育委員会とは、私どものこういった先行的な取組についても適宜情報共有しております。実際私どももそうなんですけど、空調の仕様とか、そういった技術的なところはそれぞれの局の中でというよりは、都市整備局の建築部、設備部、そのあたりが設計、工事にトータル的に関わってやっていきますので、全市的にもノウハウとはそこで一元化されているという認識でございます。以上でございます。

○副主査（宇土浩一郎君） 自然史・歴史博物館普及課長。

○自然史・歴史博物館普及課長 雨漏りの件でございます。

1階ホールが床が抜けそうなくらいひどい雨漏りだったということでございます。最近は一短期間で非常に多くの雨が降って、確かにところどころで雨漏りをするという事実がございます。

ただ、1階のホールというのが通常雨漏りをしていないところというか、私はちょっと把握しておりませんので、もしそういう事実があるのであれば早急に対応したいと思います。以上でございます。

○副主査（宇土浩一郎君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 美術館につきましては、先ほど朝の答弁もありましたように、7月の大雨のときにエントランスのところが非常に大きな雨漏りがあったんですけども、今現在、応急処置をしております。今のところは、先ほど言いましたように天井の防止シートの一部補修であるとか、トップライトのねじを補修するとかという形で、小規模な形での対応で雨漏りの起こったところを応急処置していくという形で、応急処置というか、一部ずつ修繕していくというやり方で対応しております。大規模なものが必要になれば、また予算を組んで工事をしていく必要があるのかと考えております。以上です。

○副主査（宇土浩一郎君） 山田委員。

○委員（山田大輔君） 答弁いただきまして、ありがとうございました。

じゃあまず、科学館から行きたいと思います。

そもそものが51万人からスタートしたところで、人数が多いんで事前予約制にしたというのは分かるんですけど、実際のところ、34%程度減になっているということで、そこまで予約制にする必要性はないのではないかというところがあるんですけど、このあたりを今後、検討していただければなと思います。

ちなみに、この科学館のターゲットってどこですか、教えてください。

○副主査（宇土浩一郎君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 科学館の主なターゲットなんですけれども、やはり未就学児から小学生が

メインになってまいりますので、家族連れの御家族がメインのターゲットになってくると考えております。以上です。

○副主査（宇土浩一郎君）山田委員。

○委員（山田大輔君）ありがとうございます。

そうですね、恐らく子供連れの御家族かなとは思っていますので、それこそ雨が降って、行くところがなくなったなというところの選択肢に少しでもなってくれたらいいかなと思います。

続いて、先ほどの市内の小学校からの校数と人数を教えてくださいということだったんですが、市内の小学校は356校とあったんですが、これは複数回来ている学校があるという認識でいいのでしょうか、どうぞ。

○副主査（宇土浩一郎君）ここで主査と交代します。

（副主査と主査が交代）

○主査（宮崎吉輝君）科学館普及課長。

○科学館普及課長 それで結構でございます。

基本的には小学校4年生で天文学習というのがございますので、市内の小学4年生の学生は皆さんいらっしゃいます。以上です。

○主査（宮崎吉輝君）山田委員。

○委員（山田大輔君）じゃあ、これは仮に4年生が多い学校に関しては2日に分けてとかがあるということで2回カウントしているということですか。これ年間で来ている数ですよ、4年間で来ている数じゃないですよ。

○主査（宮崎吉輝君）科学館普及課長。

○科学館普及課長 先ほど申し上げた数字というのは年間の数字になります。以上です。

○主査（宮崎吉輝君）山田委員。

○委員（山田大輔君）ということは、356校我が市にはないので、4年生が多かったら1日目、2日目で分けているのを2回カウントしているっていうイメージでしょうか。それとも、これはプラネタリウムとかにまだ奥に入ったところもさらにカウントしているので、両方カウントしていますみたいな感じなんですかね。

○主査（宮崎吉輝君）科学館普及課長。

○科学館普及課長 延べの学校の数ということになります。以上です。

○主査（宮崎吉輝君）山田委員。

○委員（山田大輔君）詳しくまた後で教えてください。ちょっと僕の聞き方が悪かったかもしれないです。

そのまままだまだ聞くんですけども、人数制限って1日何人ぐらいで考えていますか、お願いします。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 人数制限、プラネタリウムについては、座席数が250席になりますので、1日5回の投影ですから1,250になります。

常設展については、時間ごとに180名っていう一応上限の制限はあるんですけども、発券の時点での人数制限ってなりますので、実際に9時のチケットを買った方が、2時、3時に入っても大丈夫というふうな制度になっておりますので、正確にいうと館内で常設展については上限の数があるかっていうとそうではないということで、あくまで予約と、その時間帯の入館者数で制限というか人数を設けているというのが現状でございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 山田委員。

○委員（山田大輔君） ありがとうございます。

今の入館者数を昨年度ベースの部分で休館日が何日あるか分かんないですけど、ざっくり年間で割ると1,000人ちょっとぐらいの感覚にはなるんです、1,000人いかないのかな、1,000人ぐらいになると思うんですけども、今のところだと、さっきのプラネタリウム1,250人と、常設展もということを考えれば、さほど入場制限をする必要性はないのかなという印象を受けました。

昨年度34万人弱ではあるんですけど、実際スペースL A B Oとして何万人来場者数を目指してやっているんでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） 科学館普及課長。

○科学館普及課長 来館者数の目標値としては、全体で50万人を予定しておりましたので、スペースL A B Oの本館がございまして、分館も併せて目標値にしておるところです。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 山田委員。

○委員（山田大輔君） 分かりました、ありがとうございます。

開館のときの50万人程度を目指してらっしゃるということは、もうこれで15万、16万人ぐらい差がありますので、ぜひとも最初、中村義雄委員がおっしゃられたとおり、しっかり入館者数を増やすような施策を具体的に打っていただきたいなということを、今年度、来年度の中にしっかり入れてほしいなと思います。

続きまして、西のゴールデンルートの絡みなんですけど、インバウンド課長、ありがとうございました。

とても広島で降りる外国人の方、福岡で博多駅で乗ろうと思ったら下に行かれる外国人の方は多いけど、上に上がる外国人の方は少ないなというのはとてもよく感じる場所です。僕はJ R九州の人間ですけど、J R西日本の新幹線の中でのP Rも含めて、すしの都課を一つの食のフックとしてっていうのはあると思うんですけども、この間、大阪で富山とやられたりとかされていますが、もっともっと外国人をしっかりと引き込んでほしいなと思いますし、さ

っきの観光の動態のやつを見ても、令和元年度にはまだ及んでいないのかなと思いますので、ぜひとも多くしてほしいなと思いますので、よろしくお願いします。

地球の歩き方と出張の歩き方はかなり好評いただいていると僕も思っています。出張の歩き方は結構僕も持って、お渡しすることもありますし、加えて宿泊税なんかもこれから増えてくればいいのかと思いますので、稼ぐというところで観光にはすごく期待はしているところがありますので、ぜひともお願いしたいと思います。

一個聞きそびれたんですけど、大里地区のスポーツ複合公共施設整備事業について、去年の調査の実績があれば教えてください。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 昨年度の調査検討につきましては、大まかに言いますと、内容的にはまず地質調査ということで、地盤、実際に今もう周りの公園がほぼほぼできていまして、建設予定地もある程度特定されているということで、一旦まず今の時点で地盤調査を専門業者に委託してやったというのが1つございます。

もう一つは、実際、シミュレーションで専門業者をある程度環境性能とか、エネルギー関係に詳しい業者に委託しまして、イニシャルコストが最近かなり高くなっているというところが、かなり私どもは問題意識を持っていまして、環境性能、省エネ性能を上げようと思ったら、イニシャルがかなり高くなっていることで、イニシャルとランニングのバランスをどう取るかっていうのが1つ課題にはなりますので、そのあたりのシミュレーションを少しやったということで、調査結果としてこうだったというところは今まだ全体的に御報告できるタイミングではないんですが、大まかには今そういう技術的なところの掘り下げた検討を進めているところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 山田委員。

○委員（山田大輔君） ありがとうございます。

また今度スポーツ振興課にも行く用事もありますので、ぜひそのときに概要を教えてもらえたらと思います。私からは終わります。

○主査（宮崎吉輝君） 中村じゅん子委員。

○委員（中村じゅん子君） それでは、私から大きく3つお聞かせください。

まず、災害時の避難所として、それから、生涯スポーツの拠点としての体育館の空調ですね、皆さんからも御質問があっていますが、私はまだバレーボールの現役選手なんです。8月に小倉北体育館でバレーボールの試合がありまして、空調が入っていて、本当にありがとうございますという感じで、今年ほどは暑くなかったとしても、今まで夏にバレーボールを1日していたら熱中症で倒れる人とか、もう相当気をつけて水分、塩分を取っても体調不良者が出ていたんですが、今年はゼロでしたので、本当にありがとうございます。

その次の月、9月に今度は三萩野体育館に行ったら、空調がないので、皆さん苦しんでおら

れて、更衣室にクーラーを入れてもらって休憩したりしたんですが、何が言いたいかというと、今後、ほかの体育館に計画的に空調を入れるのを進めていくのか。

それから、国の補助、先ほど学校の体育館の空調の話もありましたが、国の補助があるのか、あるとしたら補助率を教えてください、これが1点目です。

2点目が、令和7年の評価の表を私も見せていただいた中に、課題の中、3ページですかね、文化施設とかスポーツ施設において、ユーザー目線が十分じゃなくて、特に子育て中の世代にとって使いにくい、利用しづらい設備やサービスがあると、その課題の背景として、年齢の差異とか、大人とか、子供とか、高齢者とか、障害の有無とか、言語に関わらず、多様な人が利用しやすいサービスの提供が求められていますということで、令和6年度の総括があって、それを令和7年度に生かしていきましょうということなんだと思うんですが、一つ一つの施設じゃなくていいので、全体として所管している施設の中で今課題に上がっているようなことで、例えばこういう視点がもうちょっと必要だとか、アンケートでこういうことが出ているとかというのがあれば教えてください。

3つ目です。

3つ目は、先ほどから皆さんの御質問にもありましたスシ&キャッスル+ステイ促進事業ですね。事業の内容はもう皆様がお尋ねのところで私もお聞きしたので、すしをフックに食を通じた集客とか、観光拡大を図ったということなんですが、市民が感じられる効果として、どのように、1年目ですからそんなに急に効果が出ることは難しいのかもしれませんが、どのように波及しているとか、機運が高まっているとか、すし以外のところにどのような効果があっているのか、もしあれば教えてください。それを令和7年度に、今からの事業にどう生かしていくかというのをお聞かせください。

まず、質問は以上です。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 体育館の空調整備についてお答えいたします。

まず、三萩野体育館でございましたが、なかなか全館っていうわけには難しいというところもありまして、国の財源としての活用できるメニューの関係もあって、予定避難所の指定があるところというところ等も踏まえて、今回は9館、3か年でという計画になってございます。ですので、三萩野は対象外という形にはなってございます。

今も言いましたような国の補助金ではなくて、今回、私どもが採用していますのが、起債のメニューで、緊急防災・減災事業債という起債メニューがございます。これは国が特別に手厚く措置されたメニューでございまして、充当率が基本的には100%ということで、後年度の地方交付税の措置率が70%ということで、かなり有利なメニューになってございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 総務課長。

○総務課長 X方針のお話で、全体の施設でこういった声があって、こういった見直しを図ってきたかという話をさせていただきたいと思います。

文化観光、スポーツはそれぞれたくさん施設がございますので、令和6年度X方針の中で、それぞれやはりユーザー目線でしっかり施設を見ていかないといけないという御指摘もありましたので、例えば文化施設でありましたら、これまで例えば事務用品とかが市民の方に見えるカウンターに置いてあったりとか、美術館で案内板がすごく、言い方は悪いですけど、上から目線といいますか、そういう形でやっていた部分もありましたので、そういったところを市民目線に変えていったり、案内掲示板を変えていったりとか、そういうこともさせていただきまし、スポーツ施設におきましては、これは令和7年度にもやっていっているんですけども、どんどんトイレの洋式化、先ほど空調の話も出ましたけども、そういった整備も進めております。

観光につきましては、例えば小倉城のエレベーター増築、今回、議会で上げさせていただいてますけども、こういったユーザー目線で施設の改善というのを今後も取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 スシ&キャッスルの事業に関しまして、市民に感じられる効果を中心に答弁申し上げます。

昨年度、スシ&キャッスル事業におきましては、まずはすしの都北九州協議会、これに加盟していますので、そういったところのパブリシティを中心にやらせていただいて、結果としてクーポンが630枚売れたというのは、これは市民も含めた数字になっていますので、そういう一定の効果があったものと考えております。

令和7年度4月にすしの都課が設立されまして、今、課長、私、あと係長、職員、計3名体制でやっているわけですけども、6月の富山でのすし会談であるとか、8月の富山県、JR西日本との連携協定、大阪でやったイベントであるとか、それ以外の様々な企画を通して、この約半年でメディアで全部で72件取り上げられております。これは結構な数かなと思っていて、対外的なところも含めて、市民に対しての一定のパブリシティ効果と意味ではあっているものかなと思っています。

ただ、一方で、小倉駅のJAM広場等ですしの都のバナーを出したりとかもしていますが、一般の市民の方への認知度というのはまだまだ十分ではないと思っています。今年度は、そのすしの都、我々の取組の出前講演であるとか、結構市内の企業が例えば外国人採用の取組をする際に、市内のすし店とかで先行しているところがあったりしますので、そういったときに私どもすしの都課の取組をしたりとか、市民啓発に今力を入れているところです。

すしの都課の取組というのはまだ半年で、まだまだ十分なところまでは至っていないとは思いますが、市民を巻き込んで、すしの都から、すしだけではなく美食の町に向けた取組

を令和7年度以降、着実にやっていきたいと考えております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 中村じゅん子委員。

○委員（中村じゅん子君） ありがとうございました。

まず、体育館の空調は十分優先順位があるというのも分かりますし、一気にできるものではないと思いますが、今後、何となくこのような方向でいくんだなとかというのが分かったら、スポーツをしている市民からすると、生涯スポーツとして続けていくという中で空調があるとうれしいと思いますので、よろしくお願いします。

次に、施設ですけど、先ほど少し具体案も言うていただきましたが、当事者性を持つてというか、困っている人にしか困っていることは分からないので、ぜひアンケートとかだけじゃなくて、関係団体にちょっと話を聞いてみるとか、それぞれの施設で工夫をしていただいて、なおかつ改善したところが見える形がいいと思うんですよね。改善しているのに、全然市民は知らなくて、何となく改善されたというよりは、こういう意見があったのでこういうふうに変更しましたみたいなのが分かるほうがいいのではないかなと思います。これは要望です。

最後のすしの都ですね、もちろん組織をつくってすぐですので、一足飛びにというのは難しいと思うんですけど、今日多分皆さんの御議論を聞いていて、都市ブランド創造局という組織をつくる時に、やっぱり理念があって、何か北九州市をこういう町にしようとか、強みとか、プロモーションみたいところで局ができていくと思うので、それぞれの事業というよりは、例えばすしをフックにして、そこからじゃあ泊まる人を増やしていこう、どうつながっているのかみたいなのが私たちに見えにくいので、今日、多分個別に聞いているけど、個別のことを聞いているんじゃないというか、せつかくこの局ができて、1年間頑張ってもらったのがこの決算だと思いますので、さっきのX方針の課題とかも整理されるときにも、北九州市のブランド力をもっともっとこういうふうに高めていきますみたいなのが私たちに分かりやすいように示していただければと思います。以上、要望で終わります。

○主査（宮崎吉輝君） 森本委員。

○委員（森本由美君） 引き続き2点お伺いします。

1つは、地域スポーツの促進について伺います。

子供たちの部活の支援とか、そういうものはたくさん議論が出ているんですけども、若いときにそんなにスポーツに取り組む機会がなかったり、部活と勉強の両立、私もそうですけど、両立が難しくて、あまりスポーツをしなかったという人のために、成人になって、高齢になると、スポーツっていうのは健康に欠かせないと思います。

地域スポーツの振興、特に私が残念なのは、グラウンドゴルフとかいろんな大会は地域でもあるんですけど、球技がなかなか、球技は昔やっていた人がやっていますけど、やりたいなと思ったときに気軽に大人が入れないというか、そういう場も提供してほしいなと思ったりするんですね。個人競技もいいですけど、やっぱりみんなで球技で盛り上がってっていうのも楽し

いんじゃないかなって、私はなかなかそういう機会がなかったので、地域でいろんな行事には参加しているんですけども、高齢者だからちょっと危ないかなってって球技の大会がなくなったりしているんですよね。だからそういうのも一般向けにしていっていただけないかなと思ってはいるんですが、昨年度、地域スポーツの振興をどのようにしたのかを併せてお伺いしたいと思います。

もう一点は、ちょっと長くなって具体的な内容になるんですが、文化振興計画っていうのをつくられて、基本理念、市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支える町ということで様々な取組を進めています、改訂もされています。文化施設の維持管理と今後の在り方ということでお話もいろいろ出ましたけれども、特に音楽に絞ってお話をしますと、音楽の拠点施設は響ホール720席、今休館中のソレイユホール、2,000ですかね。そのほかにも芸術劇場やひびしんホールやウェルとばたなどで使われています。市内の音楽施設、小倉南区も小倉南生涯学習センターがあるんですけども、ステージが音楽向けじゃなくて、小さ過ぎてなかなか使えないということで、そこそこのコンサートを市民がやる場合もありますし、プロを呼ぶ場合もありますけれども、市内の音楽施設が不足しているという声を聞いています。

それで、1点目は、ソレイユホールの要望がパイプオルガンがすばらしいものがあって、なかなか動かせないということもあるので、やはり早く改修して、また再開してほしいという声があるので、今どういうふうになっているのかを含めて、あと市民の声などが分かったらお聞かせいただきたいと思います。

それと最後に、地域の文化芸術活動の推進ということなんですが、文化振興計画の第2部、施策1のところの(1)のところに、また、市民が北九州市に活動の場を設けたい、作品制作や発表したいなどの活動する際の様々な相談を受ける窓口も必要ですと書いています。

今回は具体的な、私も参加をしております城野の第九の合唱のお話なんですけど、今24年目で、今年で終了です。というのが、継続が難しくなったというお話を伺っています。その理由を聞くと、まず1番目には、場所、会場がない。小学校の体育館とかでやりますけど、第九なんで、12月で寒くてなかなか難しい。ほかのところの会場も、12月だとコンサートがいろいろかち合っていて、そこそこの今私が上げました部屋が取れない、ソレイユホールは休館しているということで、会場がないのが一番の理由ですっていうお話でした。民間のところは高いですから、なかなか借りられないということ。

それともう一つは、費用の面、プロのソリストを4人呼んで、1人はなかなか地元にはいないんで、東京からバリトンを呼ぶということです。それと、参加者が公募した一般の成人の方、地元の小学校、市内の高校生に吹奏楽で伴奏してもらっています。ということで、会場でも練習を2週間に1回しているんですが、それと別に、小学校に行って練習をしたり、高校に行ってまた吹奏楽の指揮者が行ってやったりっていうことでとても費用がかかる、それを覚悟でやっていたんですけども、やはり費用がかかるということ。

それと、3つ目には、地域のそういう事業を運営するスタッフの高齢化、新しい方がなかなか見つからないということ。

それと、4番目は、参加者の減少。これは、第九っていうのが昔は、24年前はあまり市内以外にやっているところなかったけれども、今はよその行橋でもやっていてということで、あと若い参加者がなかなか集まらないということで、いろんな複合的な理由があって、24年も続いたものをやめるということで私はとても残念でなりません。

何とかできないかなと市に相談したのかも含めて、いろいろお聞きしたらもう難しいということで結論は持っているようなんですけれども、例えば相談にそういうときに乗ってあげられなかったのかなって思うんですよね。せっかく続いてきて、地元の歌もできた、みんなで町ぐるみでやっている、そういうすばらしいものがなくなるということがとても残念だし、地元の子たち、また、北九州市民としてのシビックプライドっていうものもやはり失われるのではないかと懸念しております。

それで、局にお聞きしたいのは、そういう相談があったかということと、もし相談があったら何かできたのかなということをお伺いしたいと思います。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ振興課長。

○スポーツ振興課長 まず、地域スポーツについてお答えいたします。

午前中は、ギラヴァンツの話でプロスポーツの話をいたしました。それも1つの柱なんですけど、この地域スポーツも市民の健康づくりにつながりますし、いろんな部分でのコミュニティーづくり、これにも直結いたしますので、非常に重要なものだと思います。

具体的にどういうことに取り組んでいるかということですが、先ほど中村じゅん子委員からも生涯スポーツの話がございました。メニューとしては様々取り組んでおりますので、大きなもの、小さなものを御紹介します。

一番大きいのは、1つは北九州マラソンがまさにそうでございます。市民が参加することによって、日頃から練習してみよう、友達も誘って一緒に参加しませんか、そういう走るきっかけになるというのもございます。

今まさに各地で開催しております市民スポーツ大会というのがございます。これは、市民スポーツ大会というのは、市のスポーツ大会という冠で、様々な競技でいろんな場所でいろんな実施団体が中心になってやって、全体的に冠をつけて推奨している大会が、北九州市の5市合併から60数回ずっと続けております。これは、総参加者、昨年度は2万2,894人と2万3,000人ほどが参加しているという、これは競技種目の数でいいますともう60を超える競技種目がございまして、本格的なバレーボールもあれば、レクリエーションバレーボールといって、ルールがちょっと簡素化、ジャンプアタックは駄目ですよ、その代わり結構年齢を重ねても出られる、できるという、そういうものもございますし、また、その競技の中にはインディアカとか、パウンドテニスとか、そういうニュースポーツ、気軽にできるレクリエーションスポーツ、そう

いうものもたくさんございます、グラウンドゴルフ大会も含まれてございます。そういう取組もずっとやっているところでございます。

地域というレベルでいいますと、1つには、これは直接的には総合型地域スポーツクラブの皆様が様々なスポーツの練習、これは子供だけじゃなくて、スポーツクラブによって大人を対象にしたものもございまして、それに対して市ももちろん支援をさせていただいております。レクリエーション協会は体操教室をいろんな体育館をやったりですとか。

あともう一つ、小さな現場でいいますと、各区単位でスポーツ推進委員というのを校区から2名ずつ選出しております。そこも我々は支援しながら、校区単位でも町内単位でもスポーツを推進しているということでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 文化芸術担当課長。

○文化芸術担当課長 ソレイユホールの今後の進捗と、それから併せて城野の第九の合唱の件で相談があったのかとまとめてお答えさせていただきます。

まず、ソレイユホールの今年度、今後の予定でございますが、令和7年度は施設の全般的な調査を行うということで、今月2日に調査の契約を締結して、現在、調査業務を進めているところでございます。

この中で、屋上等のく体関係、機械、電気設備、舞台設備等の劣化度など、対応が必要な箇所の抽出、分析を行って、こうした調査結果を踏まえまして、今後、改修を行う場合の工事の範囲とか費用、工事の規模などを検討していきたいと考えております。

あわせて、現在、文部科学省の事業を活用して、施設の運営手法について、民間事業者に対するサウンディング調査も行っております。こうした調査も年度内に取りまとめる予定にしております。こうした結果を踏まえて、今後の方向性について検討していきたいと思っております。

それから、合唱の解散に当たって相談があったかという点でございますが、文化企画課に直接のお問合せはいただいております。そうした例えば費用に関する課題とか、いろいろと継続に関する課題、様々なジャンルの文化団体の皆さんがいろいろと抱えていることと思います。

1つは、北九州市文化芸術振興財団の中に相談窓口というのがございます。そうした関係者からの様々な相談に対するワンストップの窓口ということで実施しております。相談内容としては、助成金の紹介であったり、会場の紹介、広報など、幅広い相談に対応しているところでございます。

また、併せて文化企画課でも個別に相談がございましたら対応してまいりたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 森本委員。

○委員（森本由美君） ありがとうございます。

地域スポーツについては、中村じゅん子委員のようにスポーツしている方だとそういう団体、業界っていうか、情報が来ると思うんですけど、素人というか関係ないと市政だよりで見るのが関の山っていう感じで、全く入ってこないの、また何かそういうのも分かるように、ホームページで教えていただいたりとか、たまに市政だよりで特集とかをしてもらって、いろんなスポーツができますよみたいなことで周知してもらったらありがたいなと思っております。

ソレイユホールについては、とにかく改修してまた再開するという方向で期待してよろしいんでしょうか。そのところだけ、多分そうだろうなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） 文化芸術担当課長。

○文化芸術担当課長 市内のいろいろな文化芸術の振興であつたり、市民の皆さんの文化活動の発表の場として、やはり2,000席規模のホールの存在というのはあることが望ましいものと考えております。

ただ、調査結果を踏まえまして、検討を進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 森本委員。

○委員（森本由美君） 2,000人規模のホールがないので、プロの方のコンサートもやっぱり福岡に、私も福岡に先日行きましたけど、いろんな楽しいものがある、2,000人のところすらないんだと、本当に大きいメジャーな方って来ないだろうなと思って、すごい残念なので、早く再開するように願っております。

それと、城野の合唱のプロジェクトの件なんですけれども、例えば相談した場合に、小倉南区にあります北九州市立大学の体育館っていうのが冷暖房が効くそうなので、もっと早く相談しとけばそういうのも使えるっていうことも、窓口に相談したらそういう調整とかアドバイスもいろいろしてくださるっていうことになるんでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） 文化芸術担当課長。

○文化芸術担当課長 基本的には、例えば市内に7つの文化ホールがございまして、それが団体の公演をするのにどういったところが適しているかといった御紹介をさせていただくことは可能かとは思っております。もしかしたらその体育館も含めて、どこまでどういう情報があるかは分かりませんので、把握している情報の中で御紹介、対応を進めさせていただければと思います。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 森本委員。

○委員（森本由美君） ありがとうございます。

文化振興財団に相談窓口があるということを初めて知ったので、ぜひおつなぎしたいと思っております。長く続いてきたものがなくなる、一旦なくなるともう再開って無理なので、何とかならないかなと私も一参加者ながら思っておりますので、また御相談させていただきたいと思

います。ありがとうございます。

○主査（宮崎吉輝君）ほかにありませんか。高橋委員。

○委員（高橋都君）日本共産党の高橋です。私からは大きく4点ほどお尋ねします。

初めに、先ほどから、午前中からずっと出ています美術館のデジタルアーカイブ化事業のことについてです。

今回、これまでのミュージアムツアーを棚卸しで見直して、中止にして、オンラインミュージアムツアーということで20校に対して試行実施をしたということですが、先ほどからお聞きしていると、本年度は20校で評判もよかったということです。しかし、実際に本物を見るのとまた体験するのでは違うと私も考えております。

そこで、先ほどの議論の中から、今年は全校で行うとたしか言われたかなと思うんですけど、これに対しての予算というか、それを教えていただきたいと思います。

次に、もう一つ、子供たちの文化体験育成事業というのがありますね、1,520万円ですかね、これ事業費が今回上がっていましたけれども、その事業内容を教えてください。実際に文化体験ということで、これまでのミュージアムツアーに代わるようなものなのかどうかということもちょっと気になる場所なので、教えてください。

次、3点目に、今回の土地取得特別会計の中で、門司港地域の複合公共施設の整備事業についてです。

これは、市民会館の部分が今回これに当たるのだと思うんですけども、その経費として1億2,000万円ということです。これは1階部分に旧門司駅遺構を、今後、展示するような計画になっているかなと思うんですけども、令和7年、今年の3月3日には国の中央防災会議の中で、南海トラフの津波想定区域にここが入っているということを伺っております。これまでは高潮の議論はずっとしておりました、あそこが浸水区域に当たるということで議論していたんですけども、それに対しての対策は取るというようなことでしたけれども、実際に今度は津波となると、突然来ますので、それに対しての対策というのも考えなければならないと思うんですけども、それに対しての設計変更とか、この位置の見直しとか、そういったものは考えているかどうか、教えてください。

最後に、門司港レトロのリニューアル事業のことなんですけど、これはトイレの改修工事も入っているかどうか、教えてください。以上です。

○主査（宮崎吉輝君）美術館普及課長。

○美術館普及課長美術館から、今年度のこのオンラインミュージアムツアーに係る事業費ということについてと、それから、文化体験事業に係るということでございますが、お答えいたします。

今年に関しましては、昨年度、全てデジタルコンテンツを作成いたしましたので、そのシステムの維持をする費用として大体35万円程度がかかります。あとは人件費ということになって

おります。

そして、子供たちの校外体験活動事業ですが、これはたんけん・まなび充実大作戦という名前で教育委員会が実施している事業になりますけれども、こちらは教育委員会の事業でございますけれども、私どもが聞いている状況では、小学校、中学校それぞれ学校に、施設見学をするバス代等を支給いたしまして、そして学校がどの施設をどういうふうにするかを決めて、いろんな施設を回ることができる事業、そしていろんな文化施設等を回って本物体験をしていく事業と認識しております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 文化芸術担当課長。

○文化芸術担当課長 優れた文化・芸術との出会い創造事業について御説明させていただきます。

子供向けの文化芸術体験を創出するという事業でございます。この事業の中で、放課後児童クラブでのクラシックを中心としたコンサート、それから、子ども文化ふれあいフェスタという、子供たちに琴や日本舞踊などを体験していただくイベント、教育委員会を通じた小・中学校で茶道や琴等の伝統文化体験などを実施しているところでございます。この事業の中では、アートの側面というよりも、どちらかというと音楽であったり、伝統文化を体験していただくという視点で開催しております。

それと併せて、門司港の複合公共施設、南海トラフ沖地震の津波の想定に対して設計の見直しは行うのかというお尋ねがございました。

全体の施設の設計については都市戦略局とはなりますが、津波対策については国の災害に強い官公庁施設ガイドラインにのっとり、災害応急対策活動のための代替拠点や避難場所の確保を講じることにしているということ、それからまた、本施設は官庁施設の総合耐震・対津波計画基準に基づき実施設計を行い、一般的な建築物に比べて高い耐震安全性を確保しており、今回の国の被害想定に伴う対応の要否については、今後も適切に判断してまいりたいということを担当局から聞いております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 門司港レトロリニューアル事業施設更新について御答弁申し上げます。

こちらの事業は、関門海峡ミュージアムが該当でございますが、この施設が県との共同施設となっております。令和7年度は、経年劣化に伴います外壁、屋根等を中心とした改修工事を実施しておりまして、そのためトイレの改修につきましては、県との調整がこの一連の工事の中でつかなかったことから、令和6年度はトイレの改修はこの中では行っておりません。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） ありがとうございます。

ミュージアムツアーなんですけど、令和6年度20校で1,198万8,000円、これは間違いはないか

なと思うんですけど、いいんですかね、この事業、決算額は。

○主査（宮崎吉輝君）美術館普及課長。

○美術館普及課長 デジタルアーカイブ事業に関してはその決算で問題はございません。

○主査（宮崎吉輝君）高橋委員。

○委員（高橋都君）それでは、今年全校で行うということなんですが、それで先ほど35万円と言われたけど、もう一回数字を教えてください、間違いないですかね。

○主査（宮崎吉輝君）美術館普及課長。

○美術館普及課長 システムの維持をする、館内のVRなどでありますとか、高精細画像とかといった、そういったものを維持していく費用としてその費用がかかるということでございます。あとは会計年度職員を雇用しておりますので、その事業費、人件費がかかっております。

○主査（宮崎吉輝君）高橋委員。

○委員（高橋都君）令和6年は20校で1,100万円かかって、今年度が全校で行っても35万円で済むということで、意味がよく分からないんですけど。

○主査（宮崎吉輝君）美術館普及課長。

○美術館普及課長 先ほどのデジタルアーカイブ化事業に関しましては、まず何よりも、その事業のために使う空撮動画を作ったり、館内の作品をずっと見て回れるいわゆるVRですね、子供たちがタブレットの中でずっと美術館の中を探索して、絵を大きくして見て回るようなVRのシステムを作ったりとか、そういった費用に、それとか高精細画像を撮りまして、非常に本当にどれだけ拡大しても絵の詳細が分かるような絵をつくる、そういったデジタルコンテンツをつくる費用というのがそちらの費用になっておりまして、それに関しましては文化庁の補助事業を活用してその金額となっております。

○主査（宮崎吉輝君）高橋委員。

○委員（高橋都君）ありがとうございます。

一度つくればそれは全校に全部使えるということは、そこは分かるんですよ。

それで、ミュージアムツアーの棚卸しの見直しでこのときに2,900万円見直したわけですよ。今回1,100万円使って、また今度それにまた新たな費用がかかるというわけなんですね。これを考えますと、子供たち、先ほどから皆さんが言われているように、ただ映像で見るだけじゃなくて本物を見ることが一番大事なんだ、体験、実体験が大事なんだということを言われているかなと思います。

それで、私もこのアンケート調査を見せていただいたんですね。そうしますと、やはり皆さん初めて見るもので、全体が分かってよかったとか、結構いい評価だなというのは感じたんですね。

ただ、その中で、時間が短かった、もう少し欲しいというのとか、機械のトラブルによってタブレットが使えなかったとか、こういうデジタルだからこそ起き得るトラブルがあったとか、

音が聞きにくかったとか、そういったものがあるのではないかなと思うと、やはりデジタルでは味わえない本物っていうのがどれだけ大事な、また感性という意味で、実際に目の前で見るのとは全然違うかなと感じるんですね。ですから、これぜひ、今後、続けていかれるのであれば、私はこれをまた見直す必要はなかったじゃないか、もう一回再びミュージアムツアーをまた戻したらどうかなと考えるんですけど、それに対してはどうお考えになられますか。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 デジタルに関しまして、先ほど委員から御指摘がありましたように、多少音が聞こえにくかったとか、そういったことがあったのは事実でございます。

ただし、これはシステムの問題というよりは、学校のＩＣＴ化がもうちょっと進んでいく、だから教員のスキルによって大分進み方というか、スムーズに進むかというのは変わっておりますので、そういったことも今後は小学校のＩＣＴ化を進めていくっていう上でも、このデジタルのオンラインの形を続けていくということは、別な意味で重要なことではないかと私は考えております。

そして、本物を見るということは本当に大切なことで、私どもも子供たちが本物を見に来るための取組というのは進めてまいりたいと思いますけれども、この間、教育委員会の先ほどの本物を体験して施設を回る事業等も活用することもできますし、教育委員会がどんな体験が必要かとか、自分たちがどんな体験が必要かということを考えて組むということが重要ではないかと考えておりますので、そこのあたりは教育委員会とも連携しながら、どんな形の体験がいいのかというのを考えながら検討していくことだと思いますけれども、デジタルはデジタルのよさ、今のデジタルネイティブにとってはやはりこの体験が非常に面白く感じれる、美術館に行って、本物を見るっていうのは本当に大事なんですけども、それとはまた違う、美術館は楽しいところだという体験になっているということは、今現在、やっている中でも教員に評価もいただいておりますので、これはこれとして続けてまいりたいと考えております。

また、小学校だけではなく、ほかのインクルーシブ、なかなか美術館に来れない方々にもこのデジタルを使ったものっていうのは活用できていきますので、そういう形で活用の幅を広げていきたいと考えております。

○主査（宮崎吉輝君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） ありがとうございます。

デジタルはきっかけであったり入り口だと思うんですよ。それで興味を持って、わっ、やっぱり行ってみたい、本物を見たいという子もいるかなと思うんですね。それで、先ほどの文化体験の事業がありましたよね。あれもバス代を教育委員会が負担してということで学校が決めるということなんですけど、これで美術館に行った学校ってあるんですか。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 今年度の事業ですので、まだ最終的な取りまとめは行っておりませんけれ

ども、今のところ、予定では5校が来てくださるということになっております。そのほかに、中学生の美術鑑賞教室などでも美術館には来ていただいているという状況でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） ぜひこの事業を続けていただきたい、事業というか体験のそういうので選べるということはこれはこれでまたいいことかなと思います。なかなか自分たちでは行けない、いろんな体験もできるかなと思います。

でも、美術館というのはなかなかハードル高かったりとか、遠かったりとか、皆さんいろいろあるかと思うんですね。学校で行ければ一番ベストなんですけど、一度VRで見たからといって、家庭で個人的に行くかってなると、それぞれの家庭の事情があったりするかなと思いますので、それができるかできないか、その体験に格差があってはいけないかなと私たちは思っておりますので、ぜひミュージアムツアーを復活していただきたいということを要望しておきます。

それと、門司港の複合施設ですけれども、これは懇話会で今ちょうど話し合っているかなと思うんですけど、展示方法で実際に床に埋め込んだりとか、個別にコーナーをつくるとか、いろいろ出ているかなと思いますけれども、今回のこのことで実際にそういう設計変更が絶対に必要ではないかなというのを感じるんですね。そこに1階の部分の浸水区域につくるということでしたら、その場所が本当にいいのかというのは、ぜひこれはもう一度見直しの検討をしていただきたいということも要望しておきます。

それと、レトロなんですけど、これミュージアムって言われましたね、今回は。それで、ミュージアムだけではなくて、レトロ地域全体に多くの方から女性のトイレが少ない、いつも並んでいる、あまりきれいではない、まだ和式が少し残っているということもあって、今後、トイレをもっと増設する、そして、女性のトイレもそうですし、そういう計画があるのかどうか、もし分かれば教えてください。

○主査（宮崎吉輝君） 門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長 今御指摘のとおり、確かにレトロ地区にはまだ和式のお手洗いが一部残っているところでございます。この関門海峡ミュージアムにも和式のお手洗いが残っているといたところでございますので、まずは和式の洋式化、これを一番に進めたいと考えております。女性にも使いやすいお手洗いと、いろんな意味での皆様が快適にお過ごしいただけるような観光地にふさわしいお手洗いといったところの視点も今後は踏まえまして、また検討を進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） ユニバーサルトイレ、それもぜひ考えていただきたいということと、やはり観光地ということで、インバウンドの方も多く来られると思うので、早急にトイレの整備を要望しておきます。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 宇土委員。

○委員（宇土浩一郎君） お願いします。

スシ&キャッスル＋ステイ促進事業について、費用が412万7,000円で、すしを食べるプレミアムイベントを実施しました、効果を教えてください。

それと、市内すし店舗のガイドブック制作、これをどれぐらい作ったのかと、あと効果を教えてください。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 まず、スシ&キャッスル事業につきまして、すしを食べるイベントの概要についてお答えいたします。

スシ&キャッスルは、これは事務事業がスシ&キャッスル事業ということで、決算が412万円ほどってなっていて、もともとこの事業の枠の中でスシ&キャッスルの食のイベントをやる予定だったんですけども、実は民間が昨年度手を挙げて、自分たちでやるということになったので、我々は、これ民間の指定管理者なんですけども、それをPRをさせていただいております。小倉城天守閣でも夜景を眺めながらすしを味わうというのがすし&キャッスルでございます。昨年度5月、6月、7月の3回にわたり開催しまして、1回目が市内の高級ずしと呼ばれているところ、2回目が町ずしと呼ばれているところ、3回目が回転ずしと呼ばれているところで、一応そういうバラエティーに富んだすし店に登壇いただいて、各すし店主さんが天守閣を舞台に自慢の技を披露して、参加された方も非常に満足いただける内容であったものでございます。

日本初となるこの天守閣でのすし握り体験という取組でしたので、多くのメディアの方も取材がありまして、北九州市のすしを市内外にPRできたということに加えて、参加者の方からも、非常に地元の食材がおいしかったであるとか、あと特別感があったとか、ロケーションがすばらしかったというような評価をいただいております。

その成果としましては、このようなメディアを通じたPR、参加者の満足度、3回とも全て満席になりましたので、そういったものがこのすし&キャッスルのイベントの成果と考えております。

続いて、事業の中でのすしの都北九州協議会の会員店舗ガイドブックを作成しまして、それに合わせて、それをポータルサイトで見えるような形にしました。

その結果としまして、クーポンの売上げが630枚の売上げにつながったというのが成果だと考えております。

冊子の枚数なんですけども、ちょっと今手元に数字がなくて、申し訳ありません。

○主査（宮崎吉輝君） 宇土委員。

○委員（宇土浩一郎君） 今の話を聞く限りでは、うまくいっているっていう状況なんですよ。4月からオープンして、まだ分かんないけど、うまくいっていて、これからも続けていくけれ

ども、すしじゃなくて、ほかの焼き肉とか今さっきいろいろ出たけど、そういう方向にはなかなか行かないんですかね。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 私どもが今考えているのが、今までもほかのグルメ、北九州市が誇るグルメはたくさんありますけど、そういったものは御承知のとおり、いろんな形でPR、冊子を作ったりであるとか、させていただいております。来た方々にも非常に、例えばレトロであれば焼きカレーを召し上がっていただいたりとか、ウナギだったり、うどんだったり、焼き肉だったりとかいろいろあります。

今、我々がすしをフックにと考えているのが、お客さん、来た方の満足度を上げるだけではなくて、すしであれば宿泊も伴う、北九州市を旅の目的地として来ていただける方を新たに呼び込めるのではないかと、稼げる町、観光地としての効果を最大限発揮できる武器がすしではないかと考えております。

そういう意味では、すしを私は1番バッテリーのように考えていまして、1番バッテリーが出塁しないと2番、3番は出番がないということで、今ほかの食に関しましても、すしで来ていただければ、焼き肉などほかの食も食べる機会が増えますので、実際、先月、大阪でJR西日本と富山県と連携協定を締結してイベントをやりました。そのときに、旅行会社もその会場に来られていまして、旅行会社がこの連携協定の締結をきっかけとして、それこそ大阪発北九州市行き、すしと一緒に食べましょうと、同じく大阪発富山行きのすしを食べましょうというツアーの販売を昨日から開始したところです。そのツアーの中を見ますと、夕食に北九州市のすしが含まれているのと併せて、途中の行程で門司港レトロも入っております。そういう意味ではまさにすしをフックにして、宿泊につなげて、ほかの食にもつなげるような取組がやっとスタートしたばかりという状況ではありますけども、今私どもの認識はそういったところであります。

○主査（宮崎吉輝君） 宇土委員。

○委員（宇土浩一郎君） 1番、2番、3番ずっと続いていけばいいと思います。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） ここでしばらく休憩とします。再開は3時15分とします。

（休憩・再開）

○主査（宮崎吉輝君） それでは、時間となりましたので再開いたします。伊藤委員。

○委員（伊藤淳一君） 私から、外国人観光客の誘客の推進といったところで質問したいと思います。

行政評価の取組結果はおおむね順調というような評価をされております。先ほどの議論の中でも出ましたが、MICE誘致に係る経済波及効果、これは設定した目標120億円に対し97億円と達成しなかったというものの、MICEの回数件数は289件と、これは令和5年度の263件を上回っており、積極的な誘致活動の成果が出ている、こういうことからおおむね順調だと

いったような評価でした。

しかし、目標が120億円に対して97億円といったところを見ますと、到達率80%ぐらい、このかい離は軽視できないと思うんですけども、今後の見解も含めて、この120億円に到達しなかった大きな原因というのは一体どこにあるのかというところはしっかりつかんでおかなければいけないと思いますので、その点についての説明をお願いしたいと思います。

インバウンドの誘致強化事業です。

この事業目標としては、外国人の観光客数及び外国人観光消費額というのがあるんですけども、これはまだ集計中ということですけども、ここが出ないと我々の評価もできないんですけども、これはもう集計ができたんでしょうか、その点についてお伺いしたいと思います。

予定避難所となる体育館の空調設備、これは先ほども出ましたように、3か年かけて9か所を整備していくんですけども、これはここでいいのかな、予定避難所ですから、私はどこかで質問をしたことがあるんですけども、非常電源についてこの事業の中でどうしようとしているのか。以上3点お願いします。

○主査（宮崎吉輝君） MICE・メディア芸術課長。

○MICE・メディア芸術課長 MICEの経済効果について御説明いたします。

残念ながら、目標には届いてはおらないんですけども、その背景といたしましては、1つはコロナ禍で大きく落ち込んだところの回復途上であるということ、それに加えて、これもコロナの影響ではあるんですけども、コロナを契機に、国際会議とかはいわゆるハイブリッド開催、オンラインの方が非常に増えておりまして、こちらに実際にお越しになるところでの人数は苦戦している状況でございます。そうした会議の様式の在り方、こういったところが主立った要因となっております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 インバウンド強化事業に伴う最終的な数値目標の達成状況というところでございます。

外国人観光客数につきましては、速報値ではあるんですけども、令和6年分を公表しておりまして、令和5年が26.9万人であったものが、外国人観光客数、令和6年については36.7万人という形で、令和5年比で136%の増となっております。うち宿泊数なんですけども、令和5年が9.9万人だったところ、令和6年が15万人という形で約1.5倍の増加となっております。コロナ禍以降の、順調に今のところ、その数だけを見ると回復基調にあると評価してございます。

一方、消費額につきましては、いろんな要素、各施設ヒアリング等がございますので、まだ令和6年の最終的な数値というのが取りまとまって、積み上がっていないという状況でございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 体育館の空調整備についてお答えいたします。

今回、予定避難所になっている体育館に空調設備を設置しておるわけですが、その中で、非常用電源につきましては従前のままの形になってございます。もともとついてございます非常用電源の状況につきましては、今私どもで予定避難所になっている体育館が全体で12施設ございます。この12施設のうち、非常用電源を有しているものがうち11か所ございます。これにつきましては、消防法上、新設のときに建設時に義務づけられております消防用の消火設備等が稼働するようなための電源になってございますので、空調の稼働ということになりましたら、基本的にはそのときの仮設等で管理者と協力して対応していくと、そのような想定になっておるかと思えます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 伊藤委員。

○委員（伊藤淳一君） 最初のM I C Eのところですけども、いわゆるコロナの影響がまだ大きいんだといったような、それが一番大きな要因だというような御説明だったと思うんですけども、となりますと、ここは上昇見込みが、展望が明るいいいいますか、そういったような見通しができるといったような見方でこれはよろしいんですかね。

○主査（宮崎吉輝君） M I C E・メディア芸術課長。

○M I C E・メディア芸術課長 昨年の2024年国際会議の統計を見ますと、国際会議協会というところが毎年発表しているんですが、それによりますと、北九州市が日本国内で6位と非常に追い風の状況でございます。この勢いを失わないように、より目標に近づくように努力したいと考えております。

○主査（宮崎吉輝君） 伊藤委員。

○委員（伊藤淳一君） 次の外国人の観光消費額というのをぜひ知りたいんですけども、ここに至ってはまだ集計できていないということですけど、そしたらこれはいつ頃出るんですか。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 現在、まさに最終的な確認中というところでございます。誠に申し訳ないんですけども、いろんな推計とかも重ねながら出していくものでして、できれば10月中には公表できればと思っております。

ただ、1点説明が不足なんですけれども、観光消費額っていうのが一応インバウンドだけではなくて、市内の誘客全体の消費額という形で出しておりますので、基本的にはもう全体の額というのを発表させていただくというものでございます。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 伊藤委員。

○委員（伊藤淳一君） その事業目標の中にそういう項目が入っているんですね。元来決算ですから、途中集約でもいいんですけど、出していただかないとこれ評価ができないやないですか。いわゆるインバウンドの需要を見込んで市内の消費拡大を図るとか、市内の消費を上げていくとかといったようなところで、ウエルカム北九州キャンペーンなんかもやっているんですけど

も、このキャンペーンの内容についても実質その結果どうなのかといったところではなかなか評価しにくい、しかし、事業年度のそういう目標事業でもあるというところから、この消費額というのが入ってきているわけですから、一定のところとかの見込みでもいいから出してもらわないと、これ評価できないですね。そういったところでは今後どうなるんですか。10月頃で遅い、毎年10月頃になるんですか、これ。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 そうですね、毎年10月頃をこれまで公表時期っていう形にさせていただいておりまして、我々も可能な限り前倒しできないかというところは作業等を進めておるところもあるんですけれども、今年の見通しもそういったところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） にぎわい担当理事。

○にぎわい担当理事 統計の関係なんですけど、国の宿泊数調査の統計が出てくる時期がありまして、その統計が出てきてから経済波及効果というのを出していますので、どうしても10月という時期になってしまうところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 伊藤委員。

○委員（伊藤淳一君） 事業目標の中にこの項目があるものですから、そのことが設定されているわけですから、当然決算中にその結果が出てこないと分からないといったようなことですが、結構御足労もあるようですから、これは分かれば全議員の皆さん方に早めに出していただきたいなと思っております。

体育館の空調ですけども、これは私は本会議でも取り上げているんですけども、そのときはどういう回答があったかというのと、それ手元にはないんですけども、市役所の所有のEV車をそこに集結させるんだとか、あるいは業者との連携で対応するんだとかといったような回答がそのときにはあったと思うんですけども、その後、そういった回答についてより整備された内容があるのかどうなのかといったような意図があって質問したんですけども、その辺ではいかがでしょうか。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 今の非常用電源の御質問でございますけれども、危機管理室等と本会議での議論で、有事の際は、そういう今委員がおっしゃったようなEV車を持ってきたりですとか、協定を市と結んでいる民間事業者との連携で対応するということが言われているというのは私も認識はしております。今現状として、体育館で今それを何か常設で対応しているかというのと、基本的には有事の際の対応をそういった形で取るっていうことをまず指定管理者が体育館の場合は現場に従事して、有事のときはそういった要請に協力するっていう形で予定避難所の指定を受けておりますので、まずは私どもとしてはそういった情報共有をしっかりとしていくということになろうかと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 伊藤委員。

○委員（伊藤淳一君） 予定避難所としての事業ですから、その辺についてはしっかり危機管理室とも情報共有をしてほしいんですけども、例えば回答があったように、EV車を集結させるって、じゃあ何台集結させるんだ、誰がするんだといったようなところまでもう決めておく必要があると思う、その情報共有も必要だと思うんで、もう少し整備された形で整理してほしいなと思っております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） では、引き続き本田委員。

○委員（本田一郎君） 北九州党、本田です。よろしくお願いいたします。私から数点伺います。

まず、国際スポーツ大会誘致の件なんですけれども、私は執行部の皆様、スポーツ大会誘致等々に関しては本当に御苦労されて、成果を出されていると感じております。

そこで、先ほど立山委員から、観光での経済波及効果の話が出ておりましたけれども、それがもしスポーツが入って、聞き間違いでなければ1,004億円とお聞きしたんですけれども、国際スポーツの誘致での経済波及効果がどれぐらいなのかを教えてください。もしその中に含まれるようであれば、そこはもう割愛して結構です。

それから、スポーツ大会の誘致ですけれども、国際大会誘致の部分と、例えば北九州マラソンですとか、国内の全国大会等々の大会での費用対効果の差を教えてください。

2点目が、西日本・九州ゴールデンルートの件なんですけれども、これは関西、中国・四国地方の自治体と連携とありますけど、先ほど山田委員からもこの質問がありましたけれども、相互のどのような連携をした部分かだけ教えてください。

それから、インバウンド誘致化事業でありますけれども、様々な取組をされておりますけれども、何が一番効果があったのかということを、1点だけで結構ですので、教えてください。

それから次に、若松体育館の改修事業の件なんですけれども、エアコン等が体育館と若松武道場に設置されているんですけれども、利用者は電気代はかかるんですけれども、その利便性ですとか、エアコンがついたことによって利用者の声がどのように届いているか、もし分かる範囲で教えてください。

最後に、新規事業で北九キッズスポーツマンスプロジェクト事業がありますけれども、その詳細と効果、それから、継続するのかどうかということを教えてください。以上、よろしくお願いいたします。

○主査（宮崎吉輝君） アーバンスポーツ担当課長。

○アーバンスポーツ担当課長 国際スポーツ大会の経済波及効果についてお答えさせていただきます。

大きな大会で、昨年度、バレーボールネーションズリーグ、これは市の負担はなかったんですが、そういった大会も試算しております。バレーボールネーションズリーグに関しましては、経済波及効果が23億7,800万円、報道等が数多く取り上げられておりますので、そのパブリシテ

イー効果として302億5,444万円っていう効果を得られております。

パルクール世界選手権も開催しているんですが、具体的に数値として計算しておりませんが、その事業費の倍ぐらいが大体経済波及効果として見込まれておりますので、大体4～5億円程度の経済波及効果になっていると想定しております。以上になります。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツイベント担当課長。

○スポーツイベント担当課長 北九州マラソンの経済波及効果はよろしいですかね、国内で言われた、北九州マラソンの経済波及効果ですけど、前回調査が2023年大会になります。そのときの波及効果が9億7,660万円となっております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 今のスポーツ部の説明の補足なんですけれども、そちらの数値っていうのは、先ほど御紹介した1,004億円の中とは別建てでございます。

それから、あわせまして、お尋ねがございました西のゴールデンルートについて令和6年度はどのような取組を実施してきたかというところなんですけど、西のゴールデンルートは、説明申し上げたとおり、欧米豪がまずはターゲットになっております。東京インの大阪止まりっていうところを何とか西に誘客できないかということで、これは連携の中では大がかりな連携でございまして、自治体としては、合計市町村は政令市から県レベルまで48自治体が入っております、そのほかDMOとか民間事業者等も加入して、かなり大きな組織の中でやっている取組でございます。

令和6年度については、大きな国内で開かれますインバウンド向けの展示会、ツーリズムEXPOジャパンとか、そういったものに共同出展したりとか、あとは広域誘客ルートというところ、というのが欧米豪のインバウンドについては、大体2週間とか10日以上周遊される方っていうのが多いので、周遊範囲もかなり広がってございます。そのあたり、一自治体だけではなかなかプレゼンテーションできないところもありますので、こういった広域連携の仕組みを使って、一緒になって誘客ルートっていうものをデザインして、プロモートしているというような取組を進めてございます。こちらの取組については、本年度も引き続き関西万博等で引き続きやっているとございます。

それから、インバウンドの誘客は何が効果的かというお話がございました。

我々が分析している中で、今の西のゴールデンルートとも関係しますが、九州地域、西日本地域というのは、ほとんどのインバウンドが東アジア圏からの誘客になっております。韓国、中国本土、香港、台湾、大体その4地域で9割以上を占めておりますので、そういったところ、多く来ている地域をまずはきっちり取りこぼさないようというところは視点として据えておまして、中でも九州地域におきましては、福岡空港が入り口として約8割、入国の入り口になっておりますので、福岡空港から南とか西に行かせるのではなくて、北方面に何とか来てもらえるよう取組を進めているというところでございます。

それから、あともう一点については、北九州空港に国際直行便っていうところ、そこはキーだと思っております、コロナ前は韓国複数都市とか、台湾とか、中国本土とか、いろいろ路線があったんですが、今は韓国便だけになってございます。そこを何とか充実させたい、これは我々の局の取組だけでは不可能ではございますけれども、というのが北九州空港に入ったインバウンドの方の9割方は小倉にまずは出てきますんで、そこはすごく大事な要素かなって思っております。

それと最後に、やはり認知度、九州に行くとやっぱり別府とか、湯布院とか、阿蘇とか、そういうところの認知度っていうのは、もう残念ながら、まだまだかなわないところがございますんで、いかに地域的な認知度を上げていくか、あと観光スポットについても具体的なイメージを個人旅行者向けにどういうふうに発信していくかというところはキーだと思っております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 若松体育館の改修に伴ったエアコンのついたことによる利用者の声ということでお答えいたします。

ここは、ほかの体育館も共通の基本的にはお話になろうかと認識しておりますが、やはり夏場のエアコンがついたことでかなり利用関係がよくなったっていうのは私どももいろんなところで声は耳に入ってきております。若松に特化したお話としましては、以前の委員会等でも一部触れましたが、やはり若松体育館は結構バドミントン大会とかが多く使われているっていうところもありまして、やはり部分稼働によって一部アリーナの空気の流れを少しコントロールしやすいような稼働方法ができないかと、料金にそれに合わせた方法ができないかっていうな声が以前ございまして、今回、そういった料金設定もさせていただいたところでございます。対前年度の年間利用者数とかを見ても、少し増えていっている傾向にはあろうかなと思いますので、今後も引き続きそういった状況は見ていきたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ振興課長。

○スポーツ振興課長 北九キッズスポーツマンズプロジェクトについてでございます。

どういうことをやったかといいますと、昨年の11月にミクニスタジアムで、小学生、年長も一部いましたが、小学生を対象に様々な種目のスポーツの体験イベントですね、まず触れてもらうという、そういう取組を行いました。北九州市スポーツ協会に運営委託をしましたので、スポーツ協会に所属している11種類の競技の専門家が、ミクニスタジアムの11か所にエリア分けをして、その中で一般参加の子供たち、小学生に順番に次の種目、次の種目と、皆さんが11種目回れるように、芝生の上で走り回れるように、そういうスポーツ体験会、スポーツをする、運動するきっかけづくり、そういうイベントを行いました。

参加者の数が、子供も342名、関係者、保護者等も500名以上で、全体で900名近く参加して、とても楽しく盛り上がったというものでございますので、今年度もぜひやりたいと思っております。

ます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 本田委員。

○委員（本田一郎君） ありがとうございます。

まずは、国際スポーツ大会等々の誘致の件ですけれども、費用対効果はかなり経済波及効果があるようでございますので、時間がないので、短くなりますけれども、引き続き現在のように続けていただきたいと思います。

次に、西日本ゴールデンルート等々の件で、48の自治体等々で協議をしておられるということなんですけれども、私も服部知事の例えば県政報告会ですとか、表敬訪問の際の議論の際に、よく知事が九州が一つにならないといけないということを発信されているんですね。欧米の富裕層とかから見た場合に、まだまだ九州の認知度も足りないということをおっしゃっていましたので、今この西日本・九州ゴールデンルートがございますけれども、そういった意味で九州全体で取り組んでいただいて、福岡が今玄関口で80%と答弁がありましたけれども、3,000メートル延伸に向けて、ぜひともこの北九州市が九州のゲートウエーになるような仕組みをつくっていただければと思います。

次に、インバウンドですとか、国内旅行もそうなんですけれども、北九州市の魅力といいますと、先ほどからもいろいろ質問もすしの都という形で出ておりますけれども、北九州市の食の文化というか食っていうのは、かなり私はレベルが高いし、おいしいと思っているんですね。実は先ほどからJAM広場にすしの都って大きく掲示されているということも出ていましたけれども、実は昨日、そこにおきまして、北九州市の料理グランプリが開催されまして、北九州市の職人がそこで予選を勝ち抜いて決勝戦が行われました。午前中11時から12時が高校生の部4組で、1時から2時までが予選を勝ち抜いた4名の方の決勝戦が行われたんですけれども、その調理士協会の役員の方を中心に審査員等々もやられておりまして、これ北九州市の食の達人が審査をして、その中に我が代表の中村義雄委員も審査員として参加をしていただきまして、ありがとうございます。そういった意味では、すしは起爆剤としてやっていますけれども、やはり食の都として、今そういった職人の皆さん、その中には当然すし屋もいますので安心してください、そういったところで職人の技術を磨くようなことを水面下でされておりますので、そういった方々とも連携して、市内全体の食という部分の向上に向けて御尽力いただければと思います。それはもう要望でございます。

それから、体育館でございますけれども、体育館ではないんですけれども、武道場は私も年に数回利用させていただいております、柔道の大会が主なんですけれども、物すごく利便性が高くなりまして、今柔道、剣道、空手、弓道等々が利用されているんですけれども、柔道においても、5月の連休中は高校が30校ぐらい2泊3日くらいで錬成会をやったりですとか、北九州市内の柔道の昇段試合は全てそこで開催されております。それから、春休みも試合があったりとか、合同稽古をやったりとか、エアコンがつくことによってさらに利用者の数も増えてい

ますので、それこそ経済波及効果も高くなったと思いますし、県外から、ある大学で弓道のチームが合宿で利用したりということも実際にそのように行われておりますので、私も市民の声として本当によかったなと思っております。

最後ですけれども、北九キッズスポーツマンズプロジェクト事業でありますけれども、とてもこれはよい取組で、また、継続事業ということでありまして、今子供たちは塾とか習い事ですとか、例えばスマートフォンの利用によって、かなり時間不足ですとか、室内にいる時間が増加していつているんですね。また、少子化によって子供との仲間も減少しているっていう中で、スポーツというのは、運動能力の向上もそうですし、自己肯定感の向上とか、精神的な成長にも関わってくることでありますので、そういった子供たちの将来を考えた上でも、スポーツに対する取組ということは重要だと思いますので、これも継続と先ほど答弁ありましたけれども、私からもまた継続していただくようお願いしまして、終わります。

○主査（宮崎吉輝君） ほかにございませんか。有田委員。

○委員（有田絵里君） 日本維新の会の有田絵里です。よろしくお願いいたします。

今回、大きく2つテーマにして御質問させていただきたいと思います。

令和6年度について、まだ市民文化スポーツ局という名前だったと思うんですけれども、稼げる町というよりは、当時の予算書を見ると、安らぐ町とか、そういうのをメインにしてイメージしていた予算書でしたけれども、3つの柱で稼げる町っていうのをちゃんと掲げていますので、そこを踏まえて決算内容を確認させていただければと思います。

1つ目は、北九州市漫画ミュージアムがこちらの所管なので伺います。

1つ目は、経営分析事業分析報告書を令和7年3月31日に出していると思うんですけれども、そこで、令和4年度の文化関連施設の収支比率を拝見しますと、1,600万円の収入に対して支出が2億2,500万円という結果で、収支比率が7%ということでした。令和6年度の収支比率についても知りたいので、収入と支出、そして比率、それぞれ教えてください。

また、漫画ミュージアムについては、その資料を見ると、行政負担額が高いと評価されています。これについては、現在、本市として、稼げる町北九州市を目指していくために、令和6年度までの取組を振り返ってどのように課題を認識されていて、今後の取組を検討されているのか、検討状況を教えてください。

そして、この漫画ミュージアムを本市としては、都市ブランド創造局としては観光が入っていますので、先ほど中村義雄委員からの御質問もありましたけれども、ターゲットとして、インバウンド誘致のための大事なコンテンツとして、これを考えているのかどうかという、いないのかという視点で1点教えてください。

続いて、令和6年度の行政評価の取組、これ引き続き漫画ミュージアムの件ですけれども、これに関しては取組を拝見しましたが、今K P Iが2つありました。現在、10万人の入場を目標とする指標数ともう一つが漫画ミュージアムの認知度となっていましたけれども、こちらは

目標値が50%に対して実績値50%で達成率が100%となっていました。まず、この2つ目、目標に対してどのようにKPIを測っているのかというところを、ざっくり過ぎて分からなかったもので、ぜひよかったら内容を詳しく教えてください。

また、令和6年度のもともとの普及事業については、予算書を見ると、普及事業については4,850万円となっているんですけども、この令和6年度の行政評価の表を見ると、予算額については5,690万円となっていました。もともと4,850万円と予算書にはなっているのに5,690万円、決算書では4,629万9,000円となっているのに、これが5,265万6,000円となっていました、この金額の違いを教えてください。

続いて、小倉城の指定管理の件について伺います。

令和7年2月18日付で住民監査請求について、令和7年4月18日に棄却の発表をされています。しやるかと思います。この件について、これを発表したのは行政委員会事務局ですけれども、小倉城の管理については都市ブランド創造局なので、確認させてください。

まず、指定管理者の管理運営に対する評価シートですが、ここに載っている数字は指定管理事業として委託している業務であるため、その数字を載せているという認識で合っているかどうかということをお願いします。

また、令和7年度の指定管理者の評価シートの中で、売店となっているんですけども、恐らくこちらはしろテラスのことだと思うんですね。こちらに売上げが載っています。これを令和6年度の評価シートと比較すると、令和5年度の数字があからさまに違っています。令和7年度のシートでは、予算782万円、決算が872万円、72万9,000円、令和6年度のシートを見ると、予算が1,090万9,000円ですけど、決算が1,742万円と、同じ場所の数字が変わっています。これについてなぜ数字が変わっているのか、教えてください。

また、3つ目ですね。勝山公園、あさの汐風公園のところでは、自主事業の収入について、これも同じシートに掲載されています。予算に対しての収入も載っています。もししろテラスが指定管理業務でないのならば、自主事業として掲載されていなければならないと思いますが、このあたりの整理をどうされているのか、教えてください。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 漫画ミュージアム事務局長。

○漫画ミュージアム事務局長 漫画ミュージアムの件についてお答えさせていただきます。

まず、収支につきましてですけれども、経営分析におきまして、経営分析報告によりますと、漫画ミュージアムは、他都市の類似館との比較というところにおきまして、実は漫画を総合的に扱う施設というのが国内で4施設のみになりますけれども、この中で、収支を公表していますところが2館、私どもと横手市増田まんが美術館のみになります。ここで比較をいたしますと、横手市が1.0、入場者1人当たりの負担額が1.0に対しまして、北九州市漫画ミュージアムは2.4という形になってございます。

ただし、この中身なんでございますけれども、横手市増田まんが美術館は指定管理でござい

まして、私どもは直営でございます。私どもはあるあるC i t yの中にございまして、家賃の支出等、そういったものが支出の中にございまして、横手市はそういったところは指定管理ということで家賃の支出がないということでございます。家賃の支出、こちらを同レベルで測りますと、実は2.4というところが1.7というところになるんですけれども、それでも収支改善というところが我々としてももっと改善すべき内容であるという課題は認識をしております。

改善につきましては、市政変革の中では、現在、有識者会議で、運営形態を含め検討しておりますけれども、短期的にも収支の改善、様々な形で工夫を行っているところでございます。企画展の内容等を工夫しておりますとか、回数を減らして、会期を延ばして、その分の支出を減らすですとか、そういった内容の改善はいろいろやっているところでございます。

続きまして、行政評価につきましてでございます。

実は、こちらK P Iなんですけれども、10万人というところで入館者につきましては、現在、令和6年度が9万9,400人ということで、ただしこの認知度につきましてはですけれども、実は50%という指標なんです、こちらは広聴課の実施しております行政評価の中で、認知度の調査をさせていただいているんですけれども、50%っていうのが、実績50っていうのが実は誤りといえますか、もうちょっと認知をしているとか、おおむね知っているっていう方につきましても、認知度につきましては実は80%、90%近くになってございます。

それから、ターゲットにつきましてはですけれども、今までお越しいただいております漫画を愛する方といえますか、図書館、それから、社会的な教育の機能も備えておりますので、今後はインバウンドの方に向けてさらに誘致を進めたいということと、それから、不登校の方とか、そういった方に対しての漫画をきっかけにした支援というのもニーズが多くなっておりますので、そういったところもより進めていきたいと考えております。

それから、普及事業につきましの御質問についてでございますけれども、普及事業の予算額に対して大きく決算額が増加しているという要因でございますけれども、こちらは企画展等の中身につきまして、ほかの事業等から流用させていただいたというところがありまして、普及に係る企画展を実施する上での委託費ですとか、昨今の物価が高騰しているというところもございまして、ほかの事業から流用させていただいて、企画展を実施したりというふうなことでございます。

もう一点だけ、令和6年度の収支比率についてでございます。

漫画ミュージアム全体で決算額が1億9,300万円ということで、この中で入場料収入が3,400万円、それから、グッズ等の諸収入が1,000万円ございました。これをパーセンテージでいきますと約23%ということでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 観光課長。

○観光課長 今委員から、小倉城に関しまして3点ほど御質問いただきました、

指定管理者の住民監査請求の件、予算と決算のかい離、あとはしろテラスの件かと思います。

私が今答弁にお答えするほどの材料を持ち合わせておりませんで、申し訳ありません。

しろテラスに関しましては、市では令和5年度に指定管理事業として当初させていただいておりました。ただ、このしろテラスは、非常に民間の創意工夫によって売上げが大きく向上するというふうなことが見込まれましたので、市政変革推進室とも相談をしまして、令和6年度以降、自主事業という経緯がございます。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 有田委員。

○委員（有田絵里君） ありがとうございます。

先に小倉城から伺ってまいります。

ちょっと資料が今手元にないということだったので、また後ほどいろいろ教えていただければと思います、お願いいたします。

令和6年度自主事業に振り替えられたということだったんですけれども、評価シートの中では、あさの汐風公園のところの自主事業は別に収入はちゃんと載っていた、自主事業です、これはっていうふうにして載っていたので、そもそもの載せ方とか、これを見る限りだと指定管理としての業務として委託しているものだって認識しましたので、公表しているものですから、しっかりそこを分かるようにしておかないとこれ勘違いされるというか、よくないんじゃないかなと拝見しております。数字が変わっていますので、改めてそれ確認をお願いいたします。どちらも公表されている数字なので、全然違う数字になっているんで、これ市としてあまりよくない、これも勘違いというよりも、これは絶対に駄目じゃないかなと思います。もし変わったんだったら変わったので、皆さんにきちんとお知らせしていただくべきだと思いますので、必ずお願いいたします。

小倉城の指定管理の件についてなんですけれども、これもうわさ程度でのお話にですけど、お金の問題がよく耳に届いてきます。指定管理として今お願いしていると思うんですけれども、何かトラブルがちょこちょこ聞こえてくるんですが、市としては何かそういったところって把握されていたりするんですか。

○主査（宮崎吉輝君） 観光課長。

○観光課長 指定管理者ですけども、やはり小倉城としろテラス、小倉城庭園、勝山公園、汐風公園、幅広いところを管理していますので、かなり多くのスタッフを雇用として抱えることになります。その中で、5年間の期間で指定管理をやるわけですから、やはりそれぞれいろんなスタッフの方とちょっと摩擦、トラブルが生じたりということは報告を受けることはございます。市として、指定管理のその裁量に当たる部分に関しましては、もう指定管理者の範ちゅうなんですけども、我々も、先ほど住民監査請求の話とかが出ましたけども、市のその方の権限に関することで市がお答えしないといけないところのものに関しては真摯にお答えさせていただいているというような状況であります。

○主査（宮崎吉輝君） 有田委員。

○委員（有田絵里君）ありがとうございます。

市としても把握されてらっしゃるということだったんですけれども、経営状況を拝見しましたら、かなり右肩上がりに収入等々もよくなっている、来場者数も増えている、すごい努力をされているということはもうもちろん存じ上げている状態で、この間も教育文化委員会でみんなで視察に行かせていただいて、本当に努力されているなというのをすごく認識しております。

ただ、そういったうわさが漏れ聞こえてきているっていうのはすごく気になる部分ではありますし、市としてお願いしているわけですから、そこは市の責任というところも多少は出てしまうのかなと思います。なので、しっかりとその部分をきちんと対応していただけるように、必要であれば指導ということは難しいのかもしれませんが、指定管理としてお願いしている以上は、公的な場所ではございますので、市民の方々が使うに当たって、また、ほかのところに、ほかのインバウンド客もそうですし、ほかの県外の方々、観光客の方々が来られるときもそうですけれども、安心してというか、来ていただきやすいように、そういった問題というのはしっかり見ていただければなと思います。ありがとうございました。また、後ほどいろいろ教えてください。

次、漫画ミュージアムですね。

収支のことにしまして、すいません、最初、収支を細かく教えてほしかったんですけれども、ちょっと分かりにくかったんで、またぜひ教えてください。

今後の取組につきましては分かりました。不登校、漫画をきっかけにして来てもらえるような新しい取組等々も今ニーズが上がっているということで、そういった新しい取組というのは、これは教育との協働になるのかなと思うんですけれども、しっかり進めていただければなと思いました。

行政評価の取組に関して、K P Iの在り方、これは先ほどの説明だとちょっと私は分からなかったんで、そもそものK P Iのつけ方としてそれがいいのか、市としての評価がそれで本当にみんなが納得できるものになっているのかっていうのが気になるところがあります。50%、50%で100%ですって言われて、じゃあざっくりで分からなかったんですけど、結果返ってきた内容が80%から90%でって、全然かい離した回答が来て、何のこっちゃって思いましたので、ぜひよかったらこれ細かく、また後ほど大丈夫です、教えていただければと思います。

普及事業についての評価指標、ここも数字が変わっている部分につきまして、これ本市の決算書、予算書を見た上で、これも行政評価のシートを見ています。ちゃんと普及事業です、これって書いてあるのにもかかわらず、ここの数字だけがぼんと違うので、どっち、どう見ていいのかが分からない。ほかの市民の方々が見てもはてなマークが出ると思うんですよね。これ説明できないといけないと思うんですよ、そのときに曖昧な感じで返ってくると気になるので、そこはきちんと説明できるようにお願いします。

ここからはさらに入って質問なんですけど、この間、漫画ミュージアムに実際、先週、行かせていただきました。私はもともと漫画も好きだし、アニメも好きだし、ゲームも好きだし、がっつりそういう世代です。拝見しに行って、今2階では「鬼滅の刃」のコラボカフェが 있었습니다。昨日ですけれども、ヤフーニュースで見たら、北米で1億ドル以上の興行収入で今第1位となっていますというようにすごい見出しの内容がっていました。今、声優で鈴木健一さんが観光大使になったということで、本当にすばらしいのと、やっと連携していろいろできるんじゃないかなとわくわくしたんですけれども。2階のコラボカフェに行って、わあ、すごい、「鬼滅の刃」のいろんなグッズが販売していていいなと思って6階に行ったら、何にもない、もうびっくりしました。せっかくコンテンツとしてこんなに熱いものがあるのにもかかわらず、Xで発信しているのを見たら、一部こういうふうに鈴木さんが観光大使になりましたのでということで発信だけされていて、その投稿だけ見たら、4月からの投稿の中で見ても、リポスト数も、ビュー数も、いいね数ももう1位、2位、3位を争うぐらいのビュー数なのにもかかわらず、そこが全然推されていない、北九州市として何を推していきたいのかなって、漫画ミュージアムというすごくいいコンテンツを持っているにもかかわらず、連携もできていないし、せっかくのコンテンツをもったいないようにしていないかなって私は正直思っています。もっとできる広報の在り方とかがあってもいいと思うんですけれども、先ほど言っていたキラーコンテンツとして、今後、漫画ミュージアム、漫画っていうのをもっと推していきたいと思われているんだったら、もっと北九州市として本気で取り組んでいく気持ちがあるのかどうかという部分を改めて教えていただきたい、時間がないので、そこだけ教えていただきたいです。

○主査（宮崎吉輝君）にぎわい担当理事。

○にぎわい担当理事 先ほども少し答弁させていただいたんですけど、漫画、アニメ、そういったポップカルチャーというのは、本市が持つ非常に魅力的なコンテンツとっております。先ほど鈴木さんの話も出たんですけど、今回、観光大使になりまして、100万ビュー以上のSNSの閲覧件数になっていたんですけど。

○主査（宮崎吉輝君）時間となりました。ほかにありませんか。柳井委員。

○委員（柳井誠君）よろしくお願いします。

午前中の議論とも午後の議論とも重複して申し訳ないんですけども、3点お伺いします。

1つは美術館のことです。

8月初旬に美術館に行って、普及課の課長からの説明も受けました。令和6年のオンラインツアーで20校で約1,000人の子供が参加されて、今年は小学校4年生全体がオンラインツアーに取り組むとなっております。

一方、事業見直しのときに直接鑑賞することが重要だということで、議会の意見書が出たり、また、今日もその議論がなされております。先ほどの答弁では、今年からですかね、アラカル

ト方式による校外の体験学習で、美術館を選ばれて行った子供たちは学校数で5校ということで、8月からあまり変わっていないなと思って、9月に入ってもなかなか進んでいないんだなと思ってがっかりしたんですけれども。この水準でいくと、120小学校の中で、年間10校程度にとどまって、成長期に貴重な美術作品を直接見学する体験というのができない子供たちがたくさん生まれてくるのかなという気がしております。

それで、オンラインツアーそのものはドローンを使って、磯崎新さんの建築物の全体像を撮影したり、作品そのものを非常に精密に映し出している、それは素晴らしいものだと思う、評価も9割を超える方、先生、子供たちが高い評価をされております、それはもう前提なんですけれども。

ただし、ディスプレイに映る、幾ら細かい画像にしても、ディスプレイはディスプレイのこの小さな画像の中でしか映らないので、全体像を目の前にして感じるという体験というのは、本当に促進していただきたいと思っているんですね。

そこで、お伺いしたいのは、今の到達点、だからアラカルト方式による美術館への子供たちの見学が、私は低い水準にとどまっていると思うんですけれども、教育委員会や学校への働きかけはどのようにされてきたのか。また、今後、あと半年ありますので、強めていただきたいと思いますけれども、そういうお考えがあれば聞かせていただきたいと思います。

2つ目は、インバウンド誘致アクションプランに関連して目標が立てられておまして、取組期間前半にそれぞれの指標が北九州市のピークの外国人観光客数、2018年水準になることを目指すということで、具体的には日帰り外国人40万人、宿泊30万人以上を目標にしておりますね。先ほどの令和6年の速報値によりますと、日帰りが22万人で、宿泊は15万人で、これは37万という内数ですから、ざっと日帰りも宿泊も25年目標の半分の到達まで頑張ったと、こういうことだと思うんです。

そこで、令和6年の実績の評価、それから、令和7年前期目標の見通し、今半年たちましたから、令和7年が、そして、もしこの目標値とかい離している状況が予想されるならば、アクションプランの令和9年の目標にも影響していくんじゃないかと思うんで、そこはどのようにされるのか、お考えを聞かせてください。

それと、インバウンドの枝のところで、今後の対策強化をX会議でも議論されているわけなんですけれども、同じような環境にありながら、ベンチマークをしているほどの強みのある熊本市と比べて、本市が、今後、強化すべき点について、お考えがあれば、たくさん資料には書いていますけども、短い質疑の時間なんで、特にこれはというのがあったら聞かせていただきたいということです。

3つ目の質問は、これも既に議論がありましたすしを含む地域文化の総合的振興についてという附帯決議も出ておまして、具体的な事業を令和6年度はすし&キャッスル事業の効果については、繰り返しは要りませんが、先ほどから議論があって、説明もありました。

それで、議会の決議としては、一つの食文化だけを前面に出した観光振興策では総合的な振興にはつながらないと、体系的かつ継続的な食文化振興策が必要で、かつて何年か前までありました食の魅力創造発信室のような体制整備が必要ではないかという議会からの附帯決議が出ております。それに照らして、3名のすしの都課の選任体制と、それとほかの部局からの兼務体制では、私はこういう体系的な組織というのは、これでは完成しないだろうと思うんですが、全体としてこの組織体制強化で美食の町実現の体制整備の計画はいつ示されるのか、教えていただきたいということです。お願いします。

○主査（宮崎吉輝君） 美術館普及課長。

○美術館普及課長 教育委員会の事業に対して、どのように私どもが働きかけを行ったのかということについてお答えいたします。

美術館としましては、この教育委員会の事業で多くの方に学校に来ていただきたいと考えておりましたので、全校にお手紙を発出しまして、これまでミュージアムツアーでやっていたガイド付きの2時間ぐらいかかる堪能コースと立ち寄るだけでもいいのであるという短いケースのパターンと両方のパターンを私どもはお受けしますので、ぜひいらっしゃってくださいというようなお手紙は全校に発出させていただいております。

ただ、もともとこの教育委員会の事業自体が3月に決定いたしまして、それからいろんな制度設計ができて、6月ぐらいにやっと各学校にいろんな通知が行っているような状況でもありましたので、どうしても考える期間とかがすごく短くて、夏の段階でもまだ教育委員会はなかなかいろいろ学校がどこに行くかというのが把握が全部は来ていないというようなこととかもありましたので、来年度はもう少し早い時期に、そういった私どもに来てくださいというようなお願いもやっていきたいと思ひますし、遠足とか、ああいった形でも構いませんので、ぜひ美術館にというようなことを小学校の教育委員会を通じて学校に連絡していきたいと考えております。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 まず、インバウンドアクションプランの中間目標、それから、現況、見通しについてのお尋ねがございましたので、まずはそちらから回答させていただきます。

先ほど御紹介のとおり、外国人観光客数は令和6年36.7万人、宿泊数は15万人ということで、それぞれ対前年比1.36倍とか1.5倍とかというところなんです、中間目標の令和7年というのが70万人と30万人ということで、両方とも200%の伸びっていうところが、目標上では課せられているというところがございます。正直申し上げて、なかなかこの目標っていうのはかなり状況が変化しない、好転しない限り厳しいんですが、近づけるよう当然我々っていうのは打ち手を地道に打っていくっていうところは重ねていきたいと思ひます。

まず、認知度アップ、なかなかインバウンドの方にとって、北九州市の都市名からイメージするもの、そもそも北九州市っていうのが都市名なのかどうかっていうところもございますし、

北九州市からどういうふうな観光的な魅力を想起していただけるか、それはスポットであったり、食であったりすると思いますけれども、そのあたりの発信というのは引き続きやっていくってところ。

それから、アクションプランを策定した段階では、もう少し国際線直行便というところも回復しているのかなとは思っておったんですけれども、まだ韓国便のみというところでございまして、そのあたりってところがなかなか状況が思うように回復していないところの一因かなと思っておりますが、ただ熊本を含めて、福岡都市圏、九州にはかなり多くのインバウンドの方が来ておりますので、何とか福岡都市圏から取り込む、どうやったら取り込めるかといったところは引き続き力を入れてまいりたいと考えてございます。

X会議におきまして、そのベンチマークとして、熊本市との比較というところもありましたけれども、今申し上げたところの逆というか、熊本市については、なかなか熊本といえば、まず、熊本という都市名が認知されているとか、熊本といえば何だっていうところが、結構グルメにしても認識されているというところ、それからアンバサダーのくまモンっていうのは、これはばかにできない非常に大きな要素かなとも思っていますし、あとは最近熊本が伸びている一因として、TSMCの関係で台湾からの観光客がかなり伸びております。宿泊を含めて伸びておりますので、少しそこら辺はなかなか我々が追従するっていうところは厳しい点もありますが、ただ熊本をベンチマークしながら、我々としても北九州市とえばこれであったりとか、一目で行きたくなるようなビジュアルというか、イメージであったりとか、そういうところを地道に発信、開拓してまいりたいと思っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） すしの都課長。

○すしの都課長 すしの都の取組、ひいては美食の町への体制整備をいつ示されるのかということについて御答弁いたします。

まず、今年というか令和7年度予算を上程させていただく際に、議会から附帯決議をいただきました。先ほど委員がおっしゃったように、美食の町を標ぼうするのであれば、単発的な事業の実施だけでなく、体系かつ継続的な食文化の振興が求められるというような話がありました。そして、4月1日にすしの都課が設置されたわけですが、この中には、食全般の振興窓口であるサービス産業政策課、あるいは1次産業所管する水産課、農林課、あとは海外からの誘客を促進するインバウンド課という4つの課に兼務の発令がされて、それぞれがすし、ひいては食を観光視点で取り込んでいくんだというような布陣に今現在なっております。

すしの都でおいしい町という認識が、今取り組んでおりますけれども、今後、これが広がって、実際にこれですしを目的とした宿泊客、あるいはすしを目的とした海外からの来訪であったり、いろいろ今後の効果、様々な面での効果というのが出始めたときに、これは私どもの所管ではありませんで、総務市民局にはなりますが、新たな体制整備というものがつくられるものと考えております。

○主査（宮崎吉輝君） 柳井委員。

○委員（柳井誠君） すしの都の将来がそうなったらいいですね。

それで、私はすしそのものをフックにしてというのは、議論はいろいろあったけど、それを否定しようとかそんなつもりは毛頭ないんですが、体制という点では、もっと力を入れているよその都市、食文化において、そういう体制を構築しているところもあるんじゃないかと思っていますいろいろ調べてみました。

当然私は議員ですから全部は調べ切れていないんですけども、例えば新潟ですと、あそこは米を中心とした食文化の最高峰というキャッチフレーズで、新潟市食文化創造都市推進会議というものを立ち上げておりますね。それは、例えば推進委員の中には、新潟食料農業大学教授が入っていたり、公益財団法人の事務局長が入っていたり、それから、新潟市からは農林水産部の部長が入っておったり、そして、推進会議に議会の議長、副議長も入っておる、そういう体制と事務局の市の事務局体制、それから、その下に団体、企業、個人の幅広い層の会員がいて、そして、提案をし、審査をして、決定していつているんですね。そのようなところを目指して、これが最高かどうか、新潟に行ったこともないんで分かりませんが、ぜひ組織を強化していつていただきたいということを要望しておきたいと思います。

それで、インバウンドの関係ですけれども、X会議でも御存じだったと思うんですけども、会議のテーマにはしなかったことで、おもてなしの対応という点で熊本などとの違いで気がついたのが、質の高い通訳ガイドのおもてなしをやっているんですね。具体的には、熊本市は、通訳案内士法が平成30年に施行されて、令和4年に熊本市地域通訳案内士育成計画を策定して、環境庁長官の同意を得て、令和5年からこの取組を始めて、その通訳育成には40時間ほどの研修プログラムでレベルも通訳で、さっき言われたようにT S M Cの関係で中国語のインバウンドが7割を超えていますんで、中国語検定2級以上、英語では検定1級以上という方に応募の資格があると、それに行政が関わって、養成の取組をやっているということでありました。

これと似ているのかどうか分かりませんが、京都でも認定通訳ガイドを広く京都市、宇治市、大津市、観光協会などの公社や公共財団と一緒にやっていますし、広島でも一般社団法人がガイドの養成に取り組んでおります、ここは8か国語で取り組んでるということです。

こうした今まであまり我々の知らなかった通訳でのおもてなし、人間と人間の関係で温かい北九州市の市民の気持ちを伝えるという大事な役割があると思うんですね。北九州市も取り組んではどうかと検討していただきたいんですが、見解があればお答えいただきたいです。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 委員御案内のありました通訳案内士につきましては、こちらは国家資格でございまして、プロの通訳ガイドで、そもそも我々北九州市にも観光ボランティアという方はいらっしゃいますけれども、そちらはもうあくまでボランティア、通訳案内士っていうのは、基本英語の登録者数が大半なんですけれども、もうかなりの言語レベルを求められる方々でし

て、通訳案内士、いわゆるガイドっていうのは、最近、観光の内容、質がかなり高度になってきて、コト消費とか、体験型観光、それを行うに当たって、どうしてそうなっているのかっていう背景を知るっていうところに当たっては、そういった通訳案内士の方の力っていうのは非常に今後、ますます重要になってくると思っております。

福岡県におきましても、九州通訳・翻訳者・ガイド協会っていうところがございまして、来年2月には世界ガイド連盟の総会等も福岡で行われて、一部北九州市にもエクスカーションにいらっしゃるという話もありまして、そこら辺のプログラムを通じて、地元の通訳案内士の方とも我々は今ネットワークを持ちまして、そういったところというのは今後どういうふうにしていけば、質的な観光客の満足度が上がることにつながるかっていうところも含めて研究してまいりたいと思います。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） 柳井委員。

○委員（柳井誠君） ぜひ研究していただいて、インバウンドの方たちが温かい北九州市のおもてなしに触れて、リピーターとなってくださるようには取組を強めていただきたいということを要望して、終わりたいと思います。

○主査（宮崎吉輝君） ほかにありませんか。小宮委員。

○委員（小宮良彦君） まるまる戸八会の小宮です。最後20分よろしくお願いします。6点ほどあります、お願いします。

TOKYO GIRLS COLLECTION北九州に関わる3,500万円の内訳と経済波及効果がどれくらいあったか、教えてください。

次に、指定管理者評価に関わることです。

中間評価の欄にミクニワールドスタジアム北九州、株式会社ウィンドシップ北九州、C評価でしたが、Bに届かなかった点はどのあたりで中間評価としてされたのか、教えてください。

次が、稼げる町ということで、ミクスタ、御存じのとおり、ネーミングライセンスで稼いでいます。ほかに、都市ブランド創造局所管の建物、北九州メッセや国際会議場等、ネーミングライセンス等を予定している建物、収入増を考えられるようなことがありますでしょうか。

それと、午前中も立山委員がお伺いしましたが、ギラヴァンツ北九州の試合を一試合でも本城競技場であるということは私は予算特別委員会でもちょっと触れさせていただいたんですけど、これに関わる、御答弁いただいた中で、お手洗いのことやボードのこと、そしていろんな面の交通アクセス等ありますが、幾らかけたらそしたらできるのかということをお教えください。

あと修学旅行ですね。修学旅行に対して、1年間で何校この北九州市に宿泊して修学旅行をしてくれたか、教えてください。

最後に、明るい話題で、本市の北九州市立高校出身の藤井菜々子さんが世界陸上東京大会で、日本人で2人しかいないメダリストのうちの一人に、頑張って銅メダルを獲得しました。僕が確認できていないだけかもしれませんが、戸畑区の北九州市立高校出身で、駅にもどこにもお

祝いの横断幕とかが全く見受けられません。何か応援というか、お祝いの横断幕とか、考えることはできませんでしょうか。できたら、これもう部局が違うんですけど、今止まっているウェルとばたの前のあのエスカレーターをちょっと養生して、あそこ斜めに縦向きに横断幕をつけるとか、部局が違いますけど、考えて、北九州市立高校出身の方が銅メダルを取ったということは、本市にとってもすごく喜ばしいことですので、お考えがあるか、教えてください。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） M I C E ・メディア芸術課長。

○M I C E ・メディア芸術課長 T G Cについてお答えさせていただきます。

T G C北九州は、昨年までに8回、今年は来月で9回目の開催を迎えるわけなんですけども、当初から一貫して3,500万円の予算を計上しております。これの内訳なんですけれども、この3,500万円の負担金という形で予算計上しております。こちらを地元企業や行政で構成する北九州都市集客推進委員会っていうところにお支払いをしております。そして、そこからT G C実行委員会にそのまま3,500万円が流れているということで、じゃそのT G C北九州の中のどの部分にこの3,500万円が使われているのかっていうのは色がついていないので明確に申し上げることはできないんですけども、T G C北九州の中には北九州ステージというものがございまして、10分から15分ほどの北九州市のP Rをするようなステージなんですけども、私どもの理解としては、おおむねその部分に当たって、北九州市のP Rに資していると考えております。

それから、経済効果ですけれども、昨年、2024年10月に開催されましたT G C北九州2024におきましては、経済効果とあとパブリシティ効果、これを合わせまして23億2,000万円の効果となっております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ施設担当課長。

○スポーツ施設担当課長 ミクニスタジアムの指定管理の評価のことについてお答えいたします。

今回評価の総合得点が、今回の中間評価では67点ということで、これは全市的な評価の基準にのっとって私どもは評価をしてございます。60点から70点未満がC評価ということで、適正に管理運営されているっていう評価には値しますので、決して劣っているというところで評価しているわけではございません。

お尋ねのBに至らなかった部分っていうことになります。これはあくまで総合評価の点数によってということになっていきますので、この部分がっていうことでは一概には言えませんが、例えば評価項目が幾つかある中で、配点が多いところでいいですよ、設置目的の達成度合いということで、やはり定量的な指標が、年間の利用者数ですとか、稼働日数とかということで、どうしても施設の場合、そういった指標が設定されております。ここに客観的に言えば、届いていれば、上回ってれば、この部分が例えばBとかという評価なるんですが、スタジアムの場合は貸し館で少しほかの施設とは違う特殊性もありまして、人数等は届いていない部分もあ

りますが、稼働はある程度目標値を上回っていることで、ある程度先ほど言いましたCランクの適正に管理がなされているっていうところの評価にとどまっているということでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） 総務課長。

○総務課長 ネーミングライツについて御説明させていただきます。

都市ブランド創造局所管で活用させていただいているネーミングライツ関連の施設が、文化施設が2施設、それから、観光施設が3施設、スポーツ施設が6施設の計11施設ございます。金額ですが、令和6年度決算額で合計4,102万5,000円、これだけの金額が収入として入っております。今のところ、新しく新規でネーミングライツの施設を活用するという予定はございませんけども、ネーミングライツ自体、市にも企業にも市民の方にも利益がありますので、積極的に活用していきたいと考えております。以上です。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツ振興課長。

○スポーツ振興課長 本城陸上競技場でギラヴァンツの試合をという話でございます。

本城でギラヴァンツの試合をという要望は以前から出ておりましたので、これまでギラヴァンツ北九州と私どもで事務レベルで意見交換をしたことはもちろんございます。その中で出てきた様々な課題が午前中に申し上げたものになります。

これ実際にJリーグの公式戦ということになりますので、試合の環境整備をしたり運営するのは、もうこれはギラヴァンツ北九州になります。なので、現状はギラヴァンツ北九州からそれに伴うような必要な経費、その積算見積りはまだ聞いていないところでございます。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 来北修学旅行生の内訳というか、宿泊についてお尋ねがございましたので、その点回答させていただきます。

令和6年次、年度ではなく、令和6年次、修学旅行全体が6.8万人と御紹介しましたけれども、令和6年次におけるそのうちの市内の宿泊に結びついたものは約3,000人でございます。これはやはり市内のホテルの形態がどうしてもシングルルーム、ビジネス向けであったりとか、あと先般申し上げましたように、八幡ロイヤルホテル、あちらが無いということで、今体験型の修学旅行を北九州市でして、泊まりは宗像の元の玄海ロイヤルホテル、あちらに泊まれるというパターンも多いと伺っております。

そのほか、最近の面白いトピックとしては、お金がどんどんどんどん都市部を中心に上がっていますんで、関西以東の学校とかは、フェリーで1泊して、北九州市に入って、北九州市で体験学習をしてっていうようなパターンも旅行会社からヒアリングで伺っております。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） スポーツコミッション担当課長。

○スポーツコミッション担当課長 藤井菜々子さんのお祝いに関する横断幕等についてお答えします。

スポーツ振興課では、昨年、パリオリンピック・パラリンピックのときも、北九州市ゆかりの選手のお名前を書いた横断幕等を掲げさせていただいたんですけど、こういったものは行政がつくる場合もあれば、その選手の出身学校とか、所属する企業、チームがつくるときもあって、そこの辺が統一されていないところはございますけども、今回の藤井菜々子さんのお祝いに関する横断幕についても、一度学校側と相談させていただきたいと思います。以上でございます。

○主査（宮崎吉輝君） M I C E ・メディア芸術課長。

○M I C E ・メディア芸術課長 すいません、1点訂正させていただきます。

先ほど経済効果は23億2,000万円と申し上げましたが、正しくは27億2,000万円でした。失礼いたしました。

○主査（宮崎吉輝君） 小宮委員。

○委員（小宮良彦君） 御丁寧にありがとうございました。

TOKYO GIRLS COLLECTIONについては分かりました。一回実行委員会にお金が流れるということで、そこからの内訳、完璧な詳細は分からないであるものの、27億円という経済波及効果が生まれているということで理解しました。

指定管理者について、株式会社ウィンドシップ北九州、中間評価でC評価、利用回数とか、そのようなものはもうほとんどJリーグの集客とかも関係してくる可能性も点数評価であるかもしれませんが、できるだけC評価、ぎりぎりオーケーですよという段階だと思いますので、B、Aを期待します。ここで言ってもあれなんですけど、期待できるように支援するなり、指導するなりしてください。

ネーミングライツに関しては、今後にも必要なこれ稼げる一つの戦略とも言えますので、今後とも、いけそうなところ、企業側も大きなお金をかけて命名権を買うわけですので、あとは市民の財産の建物でもありますので、そのやり取りは部局がしっかりやっていただけるものと思っておりますので、よろしくお願いします。

ギラヴァンツ北九州の本城競技場での開催経費、実際問題分からない、聞いていないということではありますが、僕ちょっと1点思ったことが、聞いていない、やり取りはあっていると聞きましたが、これできない前提で話さないで、しようとする前提で話を進めてもらいたいと思います。であれば、あそこは広いスペースとかがあるので、八幡西区の防災フェアとか、お手洗いのことを言っておられましたので、防災用のトイレ車とかを置いて、防災フェアと抱き合わせるといったらいけんですけど、何でもお金をかけない方法で、市民が来やすく、さらにそこにサッカーの試合があるとかといったら来やすくなります。ボードがミクニスタジアムはしっかり整備されているけど、本城競技場は点数とチーム名ぐらいしか入らないボードだった

と僕は記憶しています。以前は手書きだったと思いますね。手で書いたらいいだけのことであって、そんなに手間でも、手間は手間かもしれませんが、八幡高校の書道部の方とか、中央高校やったですかね、いろいろ書道部の方とかがいっぱいいますので、ペンキで書く、そんな球技場で書く体験なんかできないと思いますので、どうかできる前提で、頑張ったけど、できなかったということであれば納得はしますが、そういうお話を進めていただいたら幸いです。

修学旅行は、僕が聞いたのは何校でしたかということを知りたいんですけど、そこをお願いします。

○主査（宮崎吉輝君） インバウンド課長。

○インバウンド課長 校数をお答えできなかったのが、今手元に校数の資料がございませんでしたので、後ほど回答させていただきます。

○主査（宮崎吉輝君） 小宮委員。

○委員（小宮良彦君） ありがとうございます。

校数は多分かなり3,000人ぐらいであれば少ない、10数校もしくは20校前後ぐらいだと思います、宿泊していただいたのが。もちろん3,000人は北九州市内の宿泊施設に泊まっていたという認識をしています。

少し僕考えたんですけど、であればこれ修学旅行、ギラヴァンツ北九州の試合、本城競技場じゃなくてミクニスタジアムでやっています。J3の試合は平日のデーゲームもしくは月曜日のナイトゲームとか、それに絡めて、アウエーチームの都市の学校に声をかけて、僕何度も行くんですけど、アウエーチームはすっからかんなんですよね。何か新しい試みとかを考えていけばプラスになると思いますので、それはもうこの部局の中で話合いができると思いますので、少しプラスな面で、もうこれ答弁は要りませんので、考えていただいたら幸いです。

最後に、藤井菜々子さんの件なんですけど、戸畑区、僕も前の勤務地が福柳木だったので、僕は自宅が浅生で毎日通勤してて、きっとあの辺の福柳木のあの天籟寺の交差点の辺、いまだに北九州市立高校の生徒が走ったり、歩いたり、すごいしているので、多分何度かは擦れ違っているなとずっと認識しているんですけど、今回も高校時代のピンクのユニホームを見た瞬間に、ああ、市立高校やと思って、すごく喜びを感じた一人でもありました。いろいろ北九州市立高校のPTAとか学校関係者がお祝いの横断幕をつけたりするんであれでしょうけど、市ともやり取りを御相談していただけるということでお願いします。もしあれだったらJR鹿児島本線のウェルとばたの車内から見える位置とかに飾っていただいたら、あそこは高速で走らないので、皆さんに見えるので、あの辺とかに期待します。

最後に、これ要望なんですけど、本会議で私は戸畑市民会館の大規模改修工事を言わせていただきました。幸いにも、ここにいらっしゃるにぎわい担当理事は3月まで戸畑区長をされて、最後は着物を着て傘を背中に担ぎ、あの舞台上で立派な演舞を見せていただいたのを昨日のよ

うに思い出します。あの舞台も老朽化しているのは、多分上がられた理事も御存じだと思いますが、もうちょっと広げて、にぎわいがあるような舞台にしていだいて、コンサートとかいろんな面で使えたらいいなと思って、質問しました。

あの日の夕方、私は地元の方々ともうその足でお会いしています。しった激励が9割、激励が1割でございました、これはもうお伝えしたいので、お伝えさせていただきます。応援の意味を込めて、激励の言葉が大多数で、激励の言葉は23年間、戸畑の方たちが御苦労されて、よう言ってくれたというのが1割の方でした。あれ僕は人数換算を単純にしたら、大体23年で御苦労なさった団体の人たちが1万人強います、戸畑区民の5分の1ぐらいです。それぐらいの方たちがずっと思いを寄せて、ようやく23年間本当に公的な場でお伝えできたことは、1割の人たちだけが評価はしてくれましたが、あとの9割はしった激励を、これからもやれよみたいなお言葉でしたので、今後も引き続き施設に関してはよろしく御相談をさせていただきたいと思いますので、皆様よろしくお願いします。ということで、終わります。

○主査（宮崎吉輝君） 以上で本日の議案審査を終わります。

明日は午前10時から子ども家庭局関係議案の審査を行います。

本日は、以上で閉会します。

令和6年度決算特別委員会 第2分科会	主査	宮崎吉輝	㊟
	副主査	宇土浩一郎	㊟